

# クラブ会長 スピーチ集



国際ロータリー第 2650 地区

地区研修委員会

2016 年 2 月編集

## もくじ

	頁
はじめに	1
ロータリークラブ会長とは	1
効果的なロータリークラブ	2
活気あるクラブになるためのベストプラクティス	2
ロータリーEクラブ	3
ロータリー衛星クラブ	3
1. 会長エレクト・会長の任務	4
1.1 クラブ会長エレクトの任務	4
1.2 クラブ会長の任務	5
1.3 特記事項	6
2. 会長スピーチ	7
2.1 会長スピーチ 1	7
RI 第 2840 地区 2010-11 年度 前橋ロータリークラブ 会長 本田 博己	7
1) クラブ会長の計画および目標	7
2) ロータリーはなぜ例会出席を奨励するのか	8
3) ロータリーソング「奉仕の理想」について	9
4) 「ロータリーの綱領」について	10
資料「ロータリーの綱領」「新しい翻訳」	12
5) メークアップとバナー交換	13
6) 親睦 Fellowship について	14
7) 提唱クラブ (Sponsor Club) について	15
8) 何によって憶えられたいか What do you want to be remembered for?	16
9) 「奉仕の理想」とは何か(1)	18
10) 「奉仕の理想」とは何か(2)	19
11) 日本の商人道とロータリー理念(1)	21
12) 日本の商人道とロータリー理念(2)	21
13) 私の職業奉仕 人々の健康に奉仕するヤクルト	23
14) リーダーシップについて (Leadership )	24
15) 高潔性について (Integrity)	25
16) ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI)	26
17) ロータリー家族について	27
18) ロータリー理念を確立した アーサー・シェルドン(1)	28
19) ロータリー理念を確立した アーサー・シェルドン(2)	29
20) ロータリーの創始者 ポール・ハリス	30

21) 魅力的で活気に満ちたクラブづくりをめざして	31
22) 勝 海舟の話 (1)	32
23) 勝 海舟の話 (2)	33
24) ロータリー理念の背景	34
25) 小倉昌男さんの話	35
26) ロータリーとライオンズ(1)	36
27) ロータリーとライオンズ(2)	37
28) 大震災の直後に	38
29) 自粛から復興へ	39
30) 会員満足度アンケートの結果について	39
31) 被災者支援の「義援金」	40
32) 松下幸之助さんの話(1)	41
33) 松下幸之助さんの話(2)	42
34) 女性とロータリー	43
35) 恰も一身にして二生を経るが如く	44
36) 会長としての年度総括	44
<b>2.2 会長スピーチ2</b>	46
RI 第2770 地区 2013-14 年度 川口西ロータリークラブ 会長 片岡 暎子	
1) ロータリー年度のはじまりはなぜ7月か	46
2) 新年度の抱負	47
3) リスボン国際大会報告	48
4) 「ロータリーの世界」について	49
5) 寛容について	51
6) ロータリーの目的に青少年奉仕が加わる	52
7) 新世代月間に因んで	54
8) Attend と Participate の違い	55
9) 英文の「コロンとセミコロン」の違い	56
10) 公式訪問の意義	57
11) 五大奉仕	58
12) ロータリーカフェ 規定審議会(1)	59
13) ロータリーカフェ 規定審議会(2)	61
14) 移動例会 (国際ロータリー日本事務局)	62
15) 「ロータリーの魅力」(田中作次直前 RI 会長の卓話より)	63
<b>2.3 会長スピーチ3</b>	65
RI第2680地区 1990-91年度 ガバナー 深川 純一 伊丹ロータリークラブ 純ちゃんのコーナー (ロータリー3分情報) より	
1) ロータリーの基本原則	65
2) 一業一会員制について	66

3) ロータリーの魅力について	67
4) 会員増強・ロータリーの拡大について	68
5) ロータリーの拡大について	69
6) RYLA について	70
7) 職業奉仕について	71
8) IM について	71
9) 例会について	72
10) 職業奉仕論... 下請関係 1	73
11) 職業奉仕論... 下請関係 2	74
12) 職業奉仕論... 下請関係 3	75
13) 職業奉仕論... 下請関係 4	76
14) 職業奉仕論... 下請関係 5	77
15) ロータリー理解月間	78
16) 例会出席について	79
17) 出席に関する 60%ルールについて	80
18) 雑誌月間について	81
19) ポール・ハリスのロータリー寛容論	82
20) 職業奉仕の概念について	83
21) ニコニコ箱について(1)	84
22) ニコニコ箱について(2)	85
23) ロータリアンのマナーについて	86
24) S. A. A について	87
25) ロータリーの役員について(1)	88
26) ロータリーの役員について(2)	89
27) ロータリーにおける平等・対等の理念について	90
28) 東京ロータリークラブ	91
29) 日本ロータリーの創立者米山梅吉	92
30) 米山梅吉と福島喜三次	92
31) 東京ロータリークラブ創立の物語	93
32) 日本人ロータリアン第一号福島喜三次	94

## はじめに

会長の時間をいかにうまく使うかで、会員自身のやる気も引き出せ、活力ある元気なクラブになると信じております。

本書は、過去、会長経験者が例会の「会長の時間」に話されたスピーチを集めたものであります。沢山の先達がおられるなかで、御三人の会長のスピーチを選ばせて頂きました。クラブ週報、ウェブサイトより転載させて頂き編集しました。

RI第2840地区 2010-11年度 前橋ロータリークラブ 会長 本田 博己

RI第2770地区 2013-14年度 川口西ロータリークラブ 会長 片岡 暎子

RI第2680地区 1990-91年度 ガバナー 深川 純一 伊丹ロータリークラブ

「純ちゃんのコーナー2001-02年度（ロータリー3分情報）」より

### ●ロータリークラブ会長とは

形式上のクラブ代表者であり、しばしば象徴としての天皇に例えられます。一般社会では会長を代表権者とみなしますが、ロータリーではR I や他クラブと対処する場合は会長・幹事が共に代表権者となります。対内的にはクラブ運営の責任と事業の執行権および役員や委員長の任命権を合せ持ちますが、執行権は本来の代表権者である幹事に任せるべきでしょう。

会長にはクラブ運営という大きな責任があり、クラブの自主性を生かし活性化を図るためには、強いリーダーシップが要求されます。会長の特権として、毎例会に会長の時間が与えられます。会長の時間は会長挨拶ではなく、奉仕理念を提唱する貴重な時間です。会員に対する奉仕理念の提唱こそ、会長に与えられた最も大きな責任と言えましょう。

世俗の論理を尊重しがちの日本では、会長の選挙にあたって、どうしても社会的地位とか年功序列にとらわれやすく、その結果として若い会長が極端に少ないです。

会長を経験しなければガバナーになれず、ガバナーを経験しなければR I の理事や会長になれない規約なので、会長に就任する年齢が極端に高い日本からは、働き盛りのR I 役員を出すことは先ず不可能なのが現実です。R I の中でリーダーシップを発揮するためには、若いクラブ会長を作ることがその第一歩となります。

総会及び理事会の議長を務め、すべての委員会の職権上の委員となります。就任条件として、会長エレクトの期間に、会長エレクト研修セミナー(PETS)と地区研修・協議会に必ず出席するか、またはガバナーの許可を得た上で、代理者より研修報告を受けることが要求されています。

### スピーチ中のロータリー用語について

「ロータリーの綱領」は「ロータリーの目的」、「奉仕の理想」は「奉仕の理念」等、2013年に正式な邦訳改訂がありましたが、本スピーチでは旧の言葉も使われていることもご理解しておいてください。

(編集者より)

## ●効果的なロータリークラブ (Effective Rotary Clubs)

効果的なロータリークラブは、

- 1) 会員基盤を維持、拡大する。
- 2) 地元地域ならびにほかの国々の地域社会において奉仕プロジェクトを実施し、成果をもたらす。
- 3) 資金面およびプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する。
- 4) クラブレベルを超えてロータリーにおいて奉仕できるリーダーを育成する。

クラブの戦略計画を検討する。・・・会長要覧2016-19年版(第1章、補遺1) 参照

- クラブ管理運営(マネジメント)・・・会長要覧2016-19年版(第2章、補遺2、3、4) 参照
- 会長のリーダーシップ・・・会長要覧2016-19年版(第3章、補遺5) 参照
- 会員基盤の発展・・・会長要覧2016-19年版(第4章、補遺6) 参照
- ロータリーの広報・・・会長要覧2016-19年版(第5章、補遺7) 参照
- ロータリー財団・・・会長要覧2016-19年版(第6章) 参照
- プロジェクトをはじめよう・・・会長要覧2016-19年版(第7章、補遺8、9) 参照
- 米山奨学会・・・地区米山奨学会からの資料及び米山奨学会発行の「豆辞典」参照

▼会長要覧 (222-JA) は下記よりダウンロード

<https://www.rotary.org/myrotary/ja/document/lead-your-club-president>

## ●活気あるクラブになるためのベストプラクティス (Best Practices for Vibrant Clubs)

各クラブは、活気あるクラブとなるための独自のクラブ・リーダーシップ・プランを作るべきである。元・現・次期クラブ役員は、クラブの長所やベストプラクティスを取り入れた独自のリーダーシップ・プランを、協力して作るべきである。これらのベストプラクティスには、以下のものがある。

- クラブに活気をもたらすための長期計画を立てる
- ロータリークラブ・セントラルで、クラブの長期目標を支える年次目標を立てる
- 会員の積極的な参加を促し、情報を伝えるためのクラブ協議会を開く
- クラブ会長、理事会、委員会委員長、会員、地区ガバナー、ガバナー補佐、地区委員会が、互いに、また、事務局と効果的にコミュニケーションを取る
- 5月末までに[data@rotary.org](mailto:data@rotary.org)に次年度のクラブ役員を報告する
- 後継者の準備および未来のリーダーの育成を通じて、クラブの長期的な安定を図る
- 現在のクラブの慣習を反映させて細則を修正する
- 会員のための親睦行事を開き、友情を育む
- 全会員がクラブのプロジェクトや役割に積極的に参加する
- 定期的に一貫した研修を会員に提供する
- クラブのニーズに基づく委員会を設置する

クラブ目標を達成し、クラブの独自性を反映させるため、クラブのリーダーは毎年、慣習の見直しを行うべきである。詳しくは「元気なクラブづくりのために：クラブ・リーダーシップ・プラン」(245)を参照のこと。

### ▼元気なクラブづくりのために：クラブ・リーダーシップ・プラン

1. クラブの5年後の姿を思い描く・・・戦略計画の立案ガイド利用する
2. 年間目標を立て、ロータリークラブ・セントラルに入力する  
ラーニングセンターの「ロータリークラブ・セントラル」コースで学習する。
3. クラブ協議会を通じて全会員の積極的な参加を促し、情報を伝える  
会長要覧・クラブ管理運営の手引きを利用する
4. クラブ内でオープンなコミュニケーションを図る  
ロータリーのブランドのブランドリソースセンターの利用（クラブのコミュニケーションは双方向へ）
5. 後継者を育て、スムーズな引継ぎを図る（各種要覧の活用、継続性にも考慮する）
6. クラブの運営方法を反映させて、細則を独自に修正する（年に1度、クラブ全体で細則を見直す）
7. 会員同士の交流を深める（ロータリー親睦活動要覧、ロータリアン行動グループ、国際大会の活用）
8. 会員が心から関心をもてる活動に参加できるようにする
9. ロータリーのリーダーとなる人材を育てる
10. クラブ運営に必要な委員会を設置する

### ロータリーEクラブ（Rotary E-Clubs）

ロータリーEクラブは、直接顔を合わせた会合を開く代わりに、主にインターネット上で例会を開く（RI細則第1条）。Eクラブは、通常のロータリークラブと同様、奉仕プロジェクト、募金行事、親睦活動を行い、従来のロータリークラブが有するすべての権利、特権、要件を有する。本要覧で言及されるロータリークラブには、特記されていない限り、ロータリーEクラブも含まれる。

### ロータリー衛星クラブ（Rotary Satellite Clubs）

ロータリー衛星クラブは、いわば「クラブの中にあるクラブ」である。衛星クラブの会員は、そのスポンサークラブの会員でもある。衛星クラブは、スポンサークラブとは別に例会を開くが、通常のロータリークラブの規則に則って運営されなければならない。本要覧で言及されるロータリークラブには、特記されていない限り、ロータリー衛星クラブも含まれる。

## 1. 会長エレクト・会長の任務とベストプラクティス

### 1.1 クラブ会長エレクトの任務

参照資料：クラブを成功に導くリーダーシップ:会長編[クラブ会長要覧] (222JA:2016-19年版)  
クラブ会長エレクトの任務は以下の通りです。

「推奨ロータリークラブ細則」、「標準ロータリークラブ定款」と「ロータリー章典(英文)」(RCP) および「会長の仕事」(222)に記載されている任務を示しています。

会長就任に先立つ1年は、次年度のクラブ目標を達成するための準備を行う重要な期間です。会長エレクトは、ガバナー補佐およびクラブの次期リーダーチームと協力し、以下を行います。

- 目標を立てるために、クラブの強み、弱み、機会、リスクを調べる。
- クラブの戦略計画に沿った次年度目標を立て、それに向けた行動計画を立てる。
- クラブ委員会の委員長を任命する。
- クラブのリーダーシップと奉仕プロジェクトの継続性を確保する。
- 会長エレクト研修セミナー(PETS)に出席する。
- 地区研修・協議会に出席する。

### ●会長の仕事(会長エレクトして)(会長の仕事222より)

クラブリーダーとして会員のモチベーションと意欲を喚起し、地域社会でロータリーの存在感をアピールしましょう。(My Rotaryへの登録は済ませておく)

- ✧ クラブに影響する決定を行う場合は、現会長に相談する。
- ✧ 理事会のメンバーとなる。
- ✧ 次年度クラブ予算の作成を監督する。
- ✧ 次期クラブ役員に地区研修・協議会への出席を奨励する。
- ✧ Rotary.orgにアカウントをつくる。(My Rotaryに登録)
- ✧ 会長エレクト研修セミナー(PETS)、地区研修・協議会、地区大会に出席する。
- ✧ Rotary.orgにあるロータリークラブ・セントラルでクラブの目標を確認し、目標に向けた活動状況を時々確認する。
- ✧ クラブと地区の事柄について、ガバナーエレクトおよびガバナー補佐と協力する。
- ✧ ガバナーエレクトとロータリー事務局からの重要な情報をクラブ会員に伝える。

クラブ会長エレクトには以下の任務がある。(ロータリー章典10.040.より)

1. クラブ委員会の任命を3月31日までにクラブ委員会委員長をすべて任命する。  
(RCP10.040.1 2004年11月理事会会合、決定59号)
2. 自らが会長となる年度のクラブ予算(年次基金の目標含む)について監督する。  
(RCP10.040.2 2004年11月理事会会合、決定59号)



## 1.2 クラブ会長の任務

参照資料：クラブを成功に導くリーダーシップ：会長編[クラブ会長要覧]（222JA：2016-19年版）

クラブ会長の任務は以下の通りです。

「推奨ロータリークラブ細則」、「標準ロータリークラブ定款」と「ロータリー章典(英文)」（RCP）および「会長の仕事」（222）に記載されている任務を示しています。

会員一人ひとりがクラブにとって大切な存在であることを自覚し、結束感に満ちたクラブとするために、会長は、会員のモチベーションを高めながら、クラブを成功へと導きます。

- 例会と理事会会合の議長を務める。
- クラブ委員会の委員長と委員を任命する。
- クラブ協議会を実施する。
- 予算を作成し、（年次監査を含む）クラブの財務を管理する。
- 青少年の参加者にとって安全な環境をつくる。
- 地区ガバナーおよびガバナー補佐と協力する。

### ●会長の仕事(会長として)（会長の仕事222より）

クラブリーダーとして会員のモチベーションと意欲を喚起し、地域社会でロータリーの存在感をアピールしましょう。（My Rotaryへの登録は済ませておく）

- ✧ 会員情報とクラブデータを更新するために、幹事と会計がRotary.orgのアカウントを作ったことを確認する。
- ✧ ガバナー公式訪問に備える。
- ✧ ロータリー青少年保護の方針および青少年と接する際の行動規範に関する声明に従い、青少年交換プログラムの参加要件を順守する。
- ✧ ロータリークラブ・セントラルで立てたクラブ目標の達成のために、会員の参加を促す。
- ✧ ロータリークラブ・セントラルで立てたクラブ目標に向けた進捗を記録、確認する。
- ✧ 地区会合とロータリー国際大会への出席を奨励する。
- ✧ 各例会を入念に立案し、開会と閉会の時間を厳守するよう配慮する。
- ✧ クラブ理事会の定例会合（少なくとも月1回）の議長を務める。

### クラブ会長には以下の任務がある。（ロータリー章典10.030.より）

1. クラブの諸会合の議長を務める。
2. 各例会を入念に立案し、開会と閉会の時間を厳守するよう配慮する。
3. クラブ理事会の定例会合（少なくとも月に1回）の議長を務める。
4. 任務にふさわしい人をクラブ委員会委員長および委員に任命する。
5. 各委員会がそれぞれ明確な目標を持ち、それぞれの働きが調和するようにする。
6. 地区大会に出席する。\*
7. クラブ内および地区内のロータリーの諸問題に関してガバナーおよびガバナー補佐と協力する。
8. 例年の財務調査はもちろん、クラブ予算の編成および会計事務の完全な履行を監督する。
9. クラブが包括的な研修プログラムを実施するよう確認し、必要であれば、研修を行うクラブ研修リーダーを任命してもよい。
10. ガバナー月信、その他事務局とガバナーからの通信、刊行物などから得られる重要な情報が確実にクラブ会員に伝達されるよう確認する。
11. 毎年6月に、クラブの財政状態および当該年度のクラブの目標達成状況について、総括的な報告を

クラブに提出する。

12. 任期が終わる前に、会長エレクトと協力して、すべての重要記録、文書、財務事項を含め、任務の引継ぎが円滑に行われるようにする。
13. 新たな管理体制が成功し、管理運営の継続性を保つため、クラブの新旧理事の合同会合を開催する（10.030. 2013年10月理事会会合、決定31号）。

#### 特記事項：

##### ▼ 10.010. クラブ役員（ロータリー章典より）

###### 10.010.1. クラブ役員の交替

役職が交替で就任するという原則を守ることが、クラブにとって得策である。これには、理事会メンバー、委員会委員長、および会長と幹事の職務も含まれる。クラブ役員が2年連続して同一役職に就くことは奨励されておらず、また期待もされていない。しかし、引き続き2年目に同一役員を選んだり、元役員を再選することが有益であるとクラブがみなす場合もある。（2004年11月理事会会合、決定59号）

###### 10.010.2. クラブ役員の年次認証

各クラブは、会長およびその他の役員の就任のために、各ロータリー年度のはじめに会合を開くよう奨励されている。このような会合は、クラブ役員と会員がRIの目的に対する意を新たにし、再確認する機会であると認識すべきである。このような会合は、地域社会にロータリーの目的と目標を知らせる広報の機会にもなる。（2004年11月理事会会合、決定59号）

###### 10.020. クラブ会長の資格条件

標準ロータリークラブ定款に記載されている資格に加え、クラブ会長は、以下の資格を持つべきである。

1. 指導者としての技能を備えていること
2. クラブの活動を指導し、実施する十分な時間を割くことができること
3. 理事あるいは1つないし複数の主要な委員会の委員長か委員、もしくはクラブ幹事を務めたことがあること
4. クラブの定款と細則に関して実際的な知識を有すること
5. 1回以上の地区大会と国際大会に出席したことがあること。（2004年11月理事会会合、決定59号）

###### 10.050. クラブ幹事の任務

クラブ定款および細則に定められる他の義務に加え、クラブ事務局長は、適時に会員身分につき国際ロータリーに報告する責務を負う。クラブ事務局長は、次のロータリー年度に就任予定のクラブ役員について2月1日までに国際ロータリーに報告するものとする（2014年1月理事会会合、決定96号）。

###### 10.060. クラブ役員についての意見の相反

クラブ役員として正規に選出されたのはどの会員であるかについてクラブ内で意見の衝突が生じた場合、事務総長は地区ガバナーにこの衝突について調査するよう要請するものとする。ガバナーは、クラブ役員として適切に認められるのはどの会員であるかを事務総長に通知する。事務総長は、RIの管理運営の都合上、意見の衝突が解決されるまで、クラブ役員と認められるのはどの会員であるかについてのガバナーの調査結果報告に頼るものとする。（2007年11月理事会会合、決定98号）

## 2.1 会長スピーチ 1

RI第2840地区 2010-11年度 前橋ロータリークラブ 会長 本田 博己

### 1) クラブ会長の計画および目標

#### ロータリアンであることの喜び

あなたは、ロータリーのことをあまり知らない人に、「ロータリークラブというのは何をやっている団体ですか？」と聞かれたらどのように答えますか。

2010-11 年度の国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミスさんは、「ロータリアンとしての私たちの存在と私たちの活動を的確に言い表すもの」として「地域を育み、大陸をつなぐ」という簡潔な語句を年次テーマに決めました。

ロータリーの五大奉仕（クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、新世代奉仕）を通じて「地域を育む」ことが、地域に根ざした私たちロータリークラブの第1 の使命であると考えます。前橋ロータリークラブにおける「地域」とは、まずは前橋市、そして群馬県です。私たちの活動が前橋や群馬の発展に少しでも貢献できるよう、「地域を育む」ことに注力する1年にしたいと考えています。

4年前、私たちはクラブのビジョンづくりのためのアンケートを実施しました（21世紀特別委員会第3期活動）。委員会で考えた「クラブの理想像（案）」16項目のうち、会員に最も支持された上位3項目は以下の通りです。

- 1位 明るく活気に満ちた組織風土である
- 2位 親睦と友情を育む機会がある
- 3位 会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い

会員がクラブに求めるものは今でも変わらないでしょう。会員満足度が高まればクラブの組織活性も高まります。活気に満ちたクラブづくりは永遠のテーマでもあります。今年度も、会員が充実したクラブライフを享受できるよう、そしてロータリアンであることの喜びを実感できるようなクラブ運営に努めます。

RI 会長賞への挑戦、地区重点目標への協力はもちろんのこと、以下のクラブ重点目標を掲げて取り組んで参ります。1年間ご支援・ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### クラブ重点目標

1. 例会を充実し、出席率を向上させる。
2. 委員会活動（「炉辺会合」含む）を活性化する。
3. ロータリー研修（新会員・現会員）を強化する。
4. 「地域を育む」奉仕活動を実施する。
5. 親睦Fellowship を育み、ロータリー家族と交流する機会を増やす。
6. 友好クラブとの交流を推進する（新潟・水戸）。
7. 特別委員会として「クラブ長期計画委員会」を設置し、あるべきクラブ像を検討する。

## 2) ロータリーはなぜ例会出席を奨励するのか

**効用1**：例会では、ロータリーの理念に共鳴した、心から信頼できる仲間と、純粋な「親睦」

Fellowship を楽しむことができます。会員は平等・対等で、仕事上の取引関係や先輩・後輩の関係はクラブ内に持ち込まないのがルールです。

**効用2**：ロータリーには、職業分類制度があり（同一職業は5人または10%以内）、会員の職業の多様性が確保されています。利害関係のない幅広い異業種の会員と事業上の発想の交換ができるのも、例会の楽しみのひとつです。

日本のロータリーの創始者米山梅吉は、例会は「人生の道場」である、と表現しています。ロータリーのサービス理念の真髄を学んだり、仲間とともにロータリアンとしての自己研鑽を行ったりできる場として、例会はRCの特長を最も表現できる会合です。

### 例会出席は義務か

ロータリーは、毎週1回定期的に例会を開きます。そして、会員は、出席規定により、例会に出席すべき、と定められています。（標準RC 定款第9条）

しかし、この規定は義務規定ではありません。例会出席は、会員資格を有する者（会員）なら当然行使すべき権利（特権）である、と考えるべきでしょう。

あなたも、RC 会員としての特権を行使して、ロータリーライフを充実させましょう。

私は、入会して2～3年は、出席なんて出来るときにすればいいだろう、ぐらいに軽く考えていましたが、副幹事を経験し、幹事を経験し、地区の役員や委員長を経験させていただくうちに、例会の意義や魅力を理解し、前橋RC は本当に恵まれているなあ、と実感できて、例会出席は義務ではなく権利（特権）なのだ、という境地に至りました。入会間もない頃、先輩会員に「ロータリーはなぜ出席をこんなにうるさくいうのか？」と聞いたら、「そのうちわかるよ」と答えられて、そのときは「いいかげんだなあ」と思ったのですが、今ならよくわかります。例会に出席し、クラブの奉仕活動に参加し、地区の会合などにも参加しているうちに、あなたもきっとロータリーの魅力を発見することになるでしょう。

### メイクアップという出席補填の方法

前橋RC の例会に都合で出席できない場合、例会開催日の前後2週間以内に、以下の方法でメイクアップすれば、出席補填できます。（標準RC 定款9条）

- 他クラブの例会に出席する：市内・県内・全国・海外（ロータリーの国際的ネットワークの価値）
- クラブの奉仕活動に参加する（まえばし学校フェスタ）
- 地区会合（セミナー、地区大会）や国際大会に参加する
- 前橋ローターアクトクラブの例会に出席する
- E クラブに出席する（ウェブサイトアクセス）

### 3) ロータリーソング「奉仕の理想」について

今日の会長の時間は、例会の冒頭で歌ったロータリーソング「奉仕の理想」についてのお話です。

例会のときに歌を歌う風習は、1907年、今から103年前シカゴRCで始まりました。「親睦」か「奉仕」かの大論争でぎすぎすしたクラブの雰囲気を和らげようとハリー・ラグラス（5人目の会員）が音頭をとって歌い出したのが始まりです。当時はロータリーソングなんてまだありませんので、民謡や当時の流行歌が歌われたそうです。

資料にある4つのロータリーソングは、初めての日本語オリジナルのロータリーソングです。1935年（昭和10年）5月の第70地区大会（京都）を記念して募集され、当選したのがこの4作品です。

第1位は「旅は道づれ」。

第一

作歌 杉村廣太郎（東京）

作曲 吉住小三郎（東京）

旅は道づれ世はなさけ　なさけは人の為ならず  
世は明鏡のやどす影　うつす形を偽らず  
わがほほえめば　影も笑む

自分が為した善は、福となって帰ってくる、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリー・モットーに通じるような内容の歌詞のように思います。

この「旅は道づれ」は作曲の一部に盗作があったため後に失格となり、第2位の「奉仕の理想」が、第1位に繰り上げ当選になったそうです。

「奉仕の理想」については、後で申し上げることにして、第3位の歌を見てみましょう。

第三

作歌 田崎 慎治（神戸）

作曲 早川彌左衛門（名古屋）

- 1 平和を人の世に植え　親愛の心はぐくむ  
奉仕こそげにやひとしく　仰ぐなる吾等が理想  
ロータリー　ロータリー　ロータリー
- 2 諸種の職業の中より　選ばれし我等集いて  
わが職業の尊きを知り　培はむ奉仕の精神
- 3 住む国の内外を問わず　とる職業の形かわれど  
むつみつつ扶け励みて　ひろめなむ吾等が理想

この歌詞は、現在私たちが理解しているロータリー理念とほとんど重なっているように思います。軍国主義が盛んになりつつあった当時としては、かなり思い切った平和主義が表明されています。

第4位は、おなじみの「我らの生業」ですから、コメントは省略します。

さて、繰り上げ当選して1位になった「奉仕の理想」です。

第二

作歌 前田和一郎（京都）

作曲 萩原 英一（東京）

奉仕の理想に　集いし友よ  
御国に捧げむ　我らの業  
望むは世界の　久遠の平和  
永久に栄えよ　我らのロータリー　ロータリー

私は、この歌にずっと違和感を抱いていました。2行目の「御国に捧げん」の「御国」が、ロータリーの思想と相容れないと感じたのです。戦後死語になったような「御国」は使いたくないと思い、この一節を歌うときは、今でも頭の中で「地域に捧げん」とか「社会に捧げん」と頭の中で置き換え、ロパクしています。

実は、この曲を作詞した京都RCの前田さんの原詩は、「御国に捧げん」ではなく、「世界に捧げん」だったのです。当時の村田省蔵さんというガバナーは国粹主義的な考えを持った方だったようで、この「世界に捧げん」を「御国に捧げん」と変えなければ当選は無効と宣言したので、前田さんは泣く泣く承諾したのだそうです。前田さんは後に亡くなる前、「もし出来ることなら何時の日にか原詩の『世界に捧げん』に戻していただければありがたい」と遺言されたそうです。

「御国」という言葉に変えたのは、英語が敵性語とされ、米国由来のロータリーに世間の冷たい目が向けられようとしていた時代に、ロータリーの組織を守ろうとする苦肉の策だったかも知れません。実際、この「奉仕の理想」が発表された昭和10年の5年後には日本のロータリークラブは国際ロータリーを脱退し、解散を余儀なくされることとなります。

そうしたロータリー苦難の時代を耐え抜いたこの歌の歴史は尊重しなければなりません。私たち21世紀を生きるロータリアンはこの歌の「御国」を、「世界」でも「地域」でも「社会」でも自由に置き換えて歌ってかまわないと私は思っています。

#### 4) 「ロータリーの綱領」について

前回は、戦前ロータリーソング『奉仕の理想』が誕生したときの事情をお話しましたが、この「奉仕の理想」という言葉が、実はロータリー理念の中心思想を示している、という話を今日はいたします。

曾我パストガバナーが日頃、「四大奉仕」よりその基盤を成す「奉仕の理想」が最重要と指摘されていますが、この「奉仕の理想」という言葉は、ロータリーの特長を表す「奉仕」「親睦」「職業奉仕」

「四（五）大奉仕」などという言葉以上にロータリー理念の本質を表す言葉と考えられます。それはなぜでしょうか。

そこで「ロータリーの綱領」をあらためて確認してみます。（別紙資料参照）RI 定款、そして前橋RC定款の第4条にこの「綱領」が載っています。

「綱領」とは、手元の辞書には①物事の主要なところ。要点。②政党・労働組合など各種団体の主義・主張・方針などを示したものとあります。『共産党綱領』など、政治的主義・主張、を表明したものであるというイメージがあります。いずれにしてもちょっと古くさい言葉ですね。

ロータリーはアメリカ発祥なので、当然文献のオリジナルは英文です。日本人がロータリーの理念を理解するとき、翻訳を介して理解しなければならないという問題が常に存在します。それは後ほど申し上げますが、日本語訳の文意がはっきりしないときは、原文に戻ったほうがよくわかることが多いのです。

「綱領」は“Object”を訳したものです。“object”は、「物」とか「対象」という意味もありますが、ここでは「目的」（aim やpurpose と同義）という意味ですね。“object”という単語には「綱領」という訳語はふつう当てません。

“Object”を「目的」と訳せば、「綱領」の1文は、「ロータリーの目的は、有益な事業の基礎として

奉仕の理想を鼓吹し、これを育成すること」となります。そして“Object”が単数であることに注意すれば、後に続く4項目が「ロータリーの目的」ではなく、その前にある文が本文で、ロータリーの目的はひとつである、と示しているのです。続く4項目は本文の詳細説明で、目的が4つあるということではないのです。

「奉仕の理想」がなぜロータリーの中心思想か、たとえば、「綱領」＝「目的」の本文にはっきりとそう表明されているからです。

それでは、「奉仕の理想」とはどういう意味なのでしょう。残念ながら「奉仕の理想」の定義をきちんと示した公式文献がこれまでなかったとされていたのです。これについては、話し出すと2~3時間かかりそうですので、機会をあらためて申し上げたいと思います。

それにしても、この「綱領」の日本語訳は分かりにくいですね。

11月に行われるロータリー研究会の検討資料にするため、今日本全国のすべてのクラブに対して綱領の翻訳問題について、原文の1字1句を英文法的に、また綱領の歴史変遷の観点から詳細に検討しようとするアンケート調査が行われています。

その元になったのが、お手元の資料「綱領の新しい翻訳」の最初にある東大阪みどりRC山片さんの訳です。ここには「綱領」訳しか掲げていませんが、なぜそう訳したのかという数十ページにわたる論文が東大阪みどりRCのウェブサイトに公開されています。

次の訳は、2680地区（兵庫県）の田中毅パストガバナーによるもの。『ロータリーの源流』というウェブサイトの主宰者です。今年、『源流の会』という会員制のロータリー文献のアーカイブを立ち上げ、『ロータリー文庫』とはまた違う特長をもった膨大なロータリー100年の文献を収集・保存しています。

前橋RCの21世紀委員会「クラブ改革提言」報告書もここに収められています。ちなみに、曾我PG、坂内さん、本田がこの『源流の会』の会員になっています。

最後の訳は福井県敦賀RCの刀根荘兵衛さんのもの。刀根さんは私がロータリーを通じて知り合った友人です。地区幹事をやったあと、ガバナー補佐を3年やったという大変な人です。

新しい翻訳の3者とも、「綱領」を「ロータリーの目的」とはっきり訳し直しています。「奉仕の理想」も「奉仕理念」と訳しているのは共通しています。

ロータリーの理念を理解する上で一番大事なことが書かれているこの「綱領」を、原文と照らし合わせながら、そして3人の新訳を参考に見直してみることをお勧めします。

## 追記

◆ “The Object of Rotary” の邦訳については(ロータリーの友2013年1月号参照)

最終的に2012年11月28日-29日の第41回ロータリー研究会にて綱領等翻訳問題研究小委員会（鳥居滋委員長）から発表された。2013年手続要覧より、綱領はすべて**目的**へ変更(英文は同じ)

◎ 「ロータリーの綱領」 → 「ロータリーの**目的**」へ

◎ 従来の綱領の本文も新しく分かりやすい日本文に改訂されました。

◆ “Ideal of Service” も奉仕の理想 → 「奉仕の**理念**」へ改訂された。

本書の編集者より

## 資料

### 「ロータリーの綱領」

#### 国際ロータリー定款、標準ロータリー・クラブ定款

#### 第4条 綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること
2. 事業及び専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること
3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に、常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門業務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること

(原文)

#### Article 4 Object

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

*First.* The development of acquaintance as an opportunity for service;

*Second.* High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society;

*Third.* The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business, and community life;

*Fourth.* The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional persons united in the ideal of service.

### ロータリーの綱領の新しい翻訳

#### ロータリーの目的 (設立目的) (東大阪みどりRC 山片 重房氏 訳)

ロータリーの目的は、価値ある企業活動の基礎として奉仕理念を推奨し育成すること、詳しくは、次の事項を奨励し育成することである。

1. 奉仕の機会を得るときには、交友（人間）関係を発展させること
2. 社会に奉仕する機会を得るときには、企業と専門職が有する高い倫理基準を保ち役立つ仕事はすべて価値あるものと認識しそして、ロータリアン各自の職業を尊厳あるものにする
3. ロータリアンの一人一人が、個人として、職業人として、地域社会の一員として、奉仕理念を（自らの意志で）実地応用（実践）すること
4. 奉仕理念に結ばれた実業家と専門職の世界的な団体を通して、国際理解、親善、平和を促進す



ること

#### ロータリーの目的 (2680 地区 田中 毅PDG 訳)

ロータリーの目的は、有益な企業活動の基本として、奉仕理念を奨励し育成することである。その詳細は以下の項目を奨励し育成することである。

1. 奉仕の機会を得るために、知り合いを開拓すること
2. 社会に奉仕する機会を得るために、事業および専門職務の高い倫理基準を保ち、世に有用なすべての職業の価値を認識し、ロータリアン各自の職業を威厳あるものにする
3. 個々のロータリアンが自らの個人生活、職業生活、社会生活において、奉仕理念を実践に移すこと
4. 奉仕理念に結ばれた、事業と専門職種の人たちの世界的な組織を通じて、国際理解と親善と平和を促進すること

#### ロータリーの目的 (敦賀RC 刀根 莊兵衛氏 訳)

ロータリーの目的は、価値ある企業活動の根本に奉仕理念を置きこれを推奨し育成すること、詳しくは、次の事項を奨励育成することである。

1. 奉仕を実践する際には、関係する人々と面識を深め人間関係を発展させること
2. 社会に対する奉仕を実践するうえで企業と専門職がもつ高い倫理基準を保ち社会に役立つ仕事はすべて価値あるものと認識しそして、ロータリアン各自の職業を尊厳あるものにする
3. ロータリアン一人一人が、個人として、職業人として、地域社会の一員として、奉仕理念の実践に努めること
4. 奉仕理念に結ばれた企業人と専門職に携わる人々の世界的な団体として、国際理解、親善、平和を促進すること

### 5) メークアップとバナー交換

先月7月27日の例会で、ロータリーはなぜ例会出席を奨励するのか、というお話をしました。例会は、ロータリーのサービス理念の真髄を学んだり、仲間とともにロータリアンとしての自己研鑽を行ったりできる場として、RCの特長を最も表現できる会合です。

毎週火曜日の例会に出席するべき、とクラブ定款に定められている出席規定を義務規定と捉えるのではなく、会員資格を有する者(会員)なら当然行使すべき権利(特権)である、と考えるべきだとも申し上げました。

ただ、どうしても都合で火曜日の例会に出席できない場合もあるでしょう。その時には、メークアップという出席補填の方法を活用しましょう。出席できない例会開催日の前後2週間以内に、例えば他クラブ(県内・全国・海外を問わず)にメークアップすれば、出席が補填できます。(標準RC 定款9条)

現在、8月～10月の3か月間に限り、前橋市内のクラブ(第1分区内)へのメークはフリーメークとなっています。まだメークした経験のない人はこの機会に他クラブの例会に出席してみませんか。

バナーとはそのクラブの所在地の特長を表現した各クラブ独自の小旗で、クラブ同士の交流の際、それ

ぞれのバナーを交換するのです。他クラブを訪問した時、他クラブから前橋RC に来訪された時、あるいは国際大会の会場で、バナー交換は行われています。前橋RC の事務局にはこれまで交わされた全世界のクラブのバナーが壁一面に掲示されています。

前橋RC のバナーの初期のものは、赤城山と群馬大橋がデザインされたものでしたが、現在は、俵屋宗達の風神雷神図の風神と雷神がデザインされています。上毛かるたには「雷と空っ風 義理人情」という一札があり、25 年前に前橋JC が制作した前橋かるたにも、「天下に名高いからっ風」「雷雲ひきつれ夏が来る」という札があります。雷とからっ風は群馬や前橋を象徴するものですので、なかなかよくできたデザインだと思います。

あなたも、遠方のクラブにメークするとき、バナー交換を試みてみませんか。

前橋RC のバナーは、事務局に言えば用意します。メークするクラブに事前に「バナー交換」の希望を申し出ておけば、例会で交換の時間をとってくれるでしょう。あなたは、その時、ロータリーの世界的ネットワークの素晴らしさとロータリアンの仲間としての連帯を実感することでしょう。

## 6) 親睦Fellowship について

「親睦」という言葉についてお話します。

「奉仕」と「親睦」がロータリーの2 本柱だ、と昔から言われています。桐生RC の故 前原勝樹PG の『ロータリー入門書』にもロータリーの本質を「親睦の中から奉仕の理想を生み出す集団」と表現しています。

ところが、この「奉仕」にしても「親睦」にしても、前々回の会長の時間で触れた「ロータリーの綱領」の翻訳問題と同様の問題、すなわち英語を日本語に翻訳したときに生ずる言葉の意味のズレが問題になってくるのです。

「奉仕」は“Service”の訳で、このサービスという言葉はロータリーの中核を成す概念ですので、後日あらためてとり上げます。今日は「親睦」という訳語について考えてみます。

「親睦」は“Fellowship”の訳語です。“Fellowship”を手元の英和辞典で引くと、①「仲間であること、友情、親交（親しく交わる）」②「団体、グループ、（団体の）会員資格」とあり、さらに③（大学院生・特別研究員などに与えられる）特別奨学金、特別奨学金受給者の地位…と続いています。いずれにしても「親睦」が適訳とは言えないようです。

ロータリーでは、“Fellowship”は例えば“Rotary Fellowship”という言葉で使われています。これは「ロータリー親睦活動」と訳されていますが、クラブが行う親睦活動とは関係なく、趣味や共通の関心事を通じて国際友好を育成するRI のプログラムで、現在では、「世界ネットワーク活動グループ」のひとつに位置づけられています。

ロータリー財団の教育的プログラムには“Rotary World Peace Fellowship”「ロータリー平和フェロシップ」というプログラムがあります。この場合の“Fellowship”は③の意味でしょう。

実は、ロータリーの目的が書かれてある「綱領」にも1 箇所Fellowship が出てきます。第4 項 a world fellowship of business and professional persons「事業と専門業務に携わる人の世界的親交」。公式日本語訳では「親交」と訳されていますが、前々回ご紹介した新しい翻訳では「世界的な団体」とか「世界的な組織」と訳されています。

“Fellowship”の元の言葉“Fellow”「フェロー」は、一般的な「奴」とか「君」とか「人」という意

味から、(利害などをともにする)「仲間」、「同僚」というような意味が加わっています。米国大統領が就任演説などで国民に呼びかけるときは“My fellow Americans…”「わが同胞であるアメリカ人諸君」と「フェロー」を使います。ロータリーでも「ポール・ハリス・フェロー」などと「フェロー」を使っています。

「フェロー」とは、「理念を共有し、胸襟を開いて語り合い、共に歩むことを喜びとする仲間」である、と言ってよいと思います。

ですから、ロータリーの「親睦」Fellowship は、単に、一緒に酒を飲んだりゴルフをしたりすることではなく、「(共通の理念をもった)仲間意識、仲間同士の親交、連帯、友情」といった意味に解すべきでしょう。

ローターアクトのモットーは、“Fellowship Through Service”『奉仕を通じての親睦』ですが、このモットーはロータリークラブのモットーとしても適用できると考えます。例会での仲間同士の交流、奉仕の心の研鑽、そして奉仕の実践を共にすることを通じて育まれていくのが“Fellowship”です。この後の懇親会も、そうした“Fellowship”を育む場となれば幸いです。

## 7) 提唱クラブ (Sponsor Club) について

インターアクト・クラブ、ローターアクトクラブを結成し、指導・助言の責任を持つRC のことを「提唱クラブ」と言います。前橋RC は、前橋育英高校インターアクトクラブ (1983 年～)、前橋ローターアクト・クラブ (1969 年～) の提唱クラブです。

今月9 月は『新世代のための月間』で、詳細は、来週の新世代奉仕委員長卓話に譲りますが、私たちはインターアクト・クラブ、ローターアクトクラブの提唱クラブとして、彼らの活動にもっと関心を持つ責任があると考えています。

明日、前橋RA クラブの例会に会長として公式訪問してまいります。同じ原語で、「スポンサー・クラブ」という言葉もロータリーではよく使われます。新クラブ結成のスポンサーになるクラブのことで、スポンサークラブは、新クラブが結成できるように援助し、立ち上げのときはクラブのプログラムを支援・指導し、そのクラブの成長・発展を見守る責任があります。

前橋RC のスポンサー・クラブは、東京RC と桐生RC です。逆にこれまで前橋RC がスポンサーしたクラブは、高崎、伊勢崎、渋川、沼田、前橋西、前橋北の6クラブとなっています。すべてのクラブはスポンサークラブの支援によって発会し、歴史の古いクラブは自らスポンサークラブとなって新クラブを立ち上げています。メイクアップのときなど、こういうクラブ同士の関係をちょっと意識すると、交流もより深まるのではないかと思います。

## 8) 何によって憶えられたいか

### What do you want to be remembered for?

今日は、ピーター・ドラッカーの話です。ドラッカーといえば、皆さんよくご存知のとおり、「分権化」「目標管理」「知識労働者」「ベンチマーキング」など現代経営学の多くの重要コンセプトを考案し、「マネジメント」の発明者と言われる経営思想家です。

私は、経営書の類はあまり真面目に読んだことがないのですが、唯一このドラッカーさんについては、ファン（ドラッカーリアン）で、ドラッカー学会にも入っていますし、書店で「ドラッカー」の名前がタイトルに付けられている本には敏感に反応する体質になってしまっています。

この『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』という長いタイトルの本（通称『もしドラ』）を星野さんの「ブックマンズ・アカデミー前橋店」で見つけた時も、表紙の絵には、ちょっと躊躇しましたが、思わず買ってしまいました。

内容は、野球部のマネージャーに指名された女子高生川島みなみが、マネージャーの仕事に参考にしようと間違えてドラッカーの『マネジメント』を買ってしまい、はじめは難しくて後悔したが、しだいに野球部のマネジメントに生かせることに気づき、ドラッカーの教えに導かれて野球部の仲間と共に甲子園を目指すという青春小説です。泣けます。読むだけで甲子園に行けそうな気がしてきます。平出総監督、都丸監督、ぜひ読んでみてください。



ドラッカーの言葉をいくつか引用してみましよう。

○「事業の目的として有効な定義はただ一つである。それは顧客の創造である。

顧客が事業の土台として事業の存在を支える。…

目的が顧客の創造であることから、企業には二つの基本的な機能が存在する。

マーケティングとイノベーションである。」（『現代の経営』1956）

○「組織は、…それぞれが社会的な課題を担う、社会のための機関である。…

組織の目的は、社会に対する貢献である。」（『断絶の時代』1969）

また、ドラッカーは、正しい答えに導くための重要かつ本質的な問いを投げかける、質問の名人でした。有名な5つの質問というのがあります。

- ① われわれの使命（ミッション）は何か？
- ② われわれの顧客は誰か？
- ③ 顧客にとっての価値は何か？
- ④ われわれにとっての成果は何か？
- ⑤ われわれの計画は何か？

今日は、ドラッカー思想の意義をうんぬんするつもりはありません。タイトルにあるように、「あなたは何によって憶えられたいですか？」という質問についてちょっとお話したかったのです。あなたは、

友人・知人に自分がどのような人だと思われると嬉しいでしょうか。

ドラッカーは13歳のとき、教師に「何によって憶えられたいか」(What do you want to be remembered for?)と聞かれたそうです。生徒は誰も答えられなかったそうですが、教師はこう付け加えました。「今答えられると思って聞いたわけではない。しかし、50歳になっても答えられなければ、人生を無駄に過ごしたことになるよ」と。

ドラッカーは、この問いを「自己刷新・自己改善を促す問い」として、その後の人生でずっと意識していたようで、周囲の人にもよくこの問いを投げかけていたそうです。

あるとき、ドラッカーはかかりつけの歯科医で治療中に、この問いを歯医者さんに発したそうです。歯医者さんはそのときちょっと虫の居所が悪かったようで、こう答えたそうです。「ドラッカーさん、あなたが何か事件に巻き込まれて変死したとき、検死した解剖医が『この人は一流の歯医者にかかっていた』と言ってくれることです」と。

また、大経済学者シュンペーターのこの問いに対する答えは「何人か一流の経済学者を育てた教師として憶えられたい」だそうです。

私が、初めて就職した福武書店(今のベネッセ)に入社して1年もしない頃、会社内のパーティーで、創業者の福武哲彦社長のところにご挨拶に行った時、福武社長が「お前は福武書店の正義派だ」と言ってくれたことを思い出します。

その当時の私は新入社員のくせに随分生意気なことを口走ることが多く、社長から大目玉を食らったこともあったのですが。

私のその後の職業人生を振り返ると、このときの社長の一言に励まされ、その期待に応えようとしてきたのではないかと思います。(どこまで徹底できたかは自信がありませんが)その後、ヤクルトおじさんになってからもそんな気持ちで会社の経営に当たってきたつもりです。

現在、「何によって憶えられたいか」という問いに対する私の答えは、…

そんなこと恥ずかしくてとても言えません。

ところで、あなたは、何によって憶えられたいですか？

## 9) 「奉仕の理念」とは何か(1)

8月17日の例会で「ロータリーの目的」について解説しました。「綱領」にはロータリーの目的が書かれており、“ロータリーの目的は「奉仕の理想」を奨励・育成すること”だと申し上げましたが、今日は、その「奉仕の理想」の意味を解説します。「奉仕の理想」がロータリーの中心思想ですから、これがわかると、ロータリーを理解するのが容易になります。

今年度は、1年間私のロータリー話にお付き合いいただきたいのですが、今日が一番の難所です。ちょっと理屈っぽい話で恐縮ですが、お聞きください。

「奉仕の理想」は、“The Ideal of Service”の訳語です。“Ideal”を「理想」、「Service」を「奉仕」と直訳することで、原語のニュアンスが伝わりにくくなっています。「綱領」について解説した時にご紹介した3人の「綱領」の新しい翻訳ではこれをいずれも「奉仕理念」と訳していました。後ほど解説しますが、私は“Service”＝「奉仕」と直訳しないほうがよいと思っていますので、ここでは、「サービス理念」と仮に訳しておきます。

1931年にRIが発行した「目標設定計画」(The Aims and Objects Plan)というパンフレット(これは1927年に決まった四代奉仕部門の意義と適用の方法を解説したもの)の中で、“The Ideal of Service”の意味を以下の4つの言葉で示しています。

- ① ロータリーの第1モットーである「超我の奉仕」。
- ② 同じく第2モットーである「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」。
- ③ 「他者への思いやり」。
- ④ 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」。

当時のロータリアンが“The Ideal of Service”に託した意味は、以上4つの言葉が意味するものを包含していると考えられます。

3つ目と4つ目の言葉を先に解説します。

③「他者への思いやり」という言葉は、『公式名簿』巻末にチェスレー・ペリーが記した「ロータリー小史」の1節「全世界のロータリークラブは一つの基本理念—「奉仕の理想」を持っている。それは他人のことを思いやり、他人のために尽くすことである。」と同意です。(従来は、このチェスレー・ペリーの言葉が「奉仕の理想」の意味を示した唯一の文献とされていました。)

④「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という言葉は、聖書の「マタイによる福音書7章12節」、通称「黄金律」と呼ばれる有名な一節です。東洋・西洋の大宗教・大思想には、この黄金律に似た格言や表現が見られます。

さて、①と②に戻ります。

ロータリーには二つのモットー(標語)があります。第1モットーは、「超我の奉仕」“Service Above Self”。そして、第2モットーが、アーサー・F・シェルドンの言葉で知られる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」“He Profits Most Who Serves Best”です。

この二つのモットーの日本語訳については、昔から議論がありました。特に、第1モットーの「超我の奉仕」は「超我」が造語でもあり、カッコよいが意味がよくわからない、といわれていました。日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁は、これを「サービス第一、自己第二」とか「自己に先立つサービス」と訳しました。「超我の奉仕」より原義が伝わると思います。第2モットーも、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」とでも訳したほうがわかりやすいでしょう。

この2つのモットーは最近では別々に示され、しかも特に「超我の奉仕」“Service Above Self”だけがロータリーのモットーとして示されるようになってはいますが、アーサー・シェルドンの論文（『ロータリーの哲学』1921）や「決議23-34」（1923）のような初期ロータリーの文献では、この二つのモットーは、一つのモットーとして一体化して示され解説されています。二つのモットーを全体として一つの主張として捉えると、ロータリー・モットーの真意は次のようになると考えられます。

サービスを自己の利益や都合より優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために最善のサービスをすれば、結果として最大の金銭的な利益と、大きな精神的満足が得られる。

ここで主張されている思想こそ、「ロータリーのサービス理念（奉仕の理想）」の核心です。そして、注意しなければならないのは、これは決して利益を求めて奉仕するという「功利主義」的な思想ではなく、他人に奉仕すること自体を目的とする「利他主義」の思想だということです。利益はあくまで結果です。

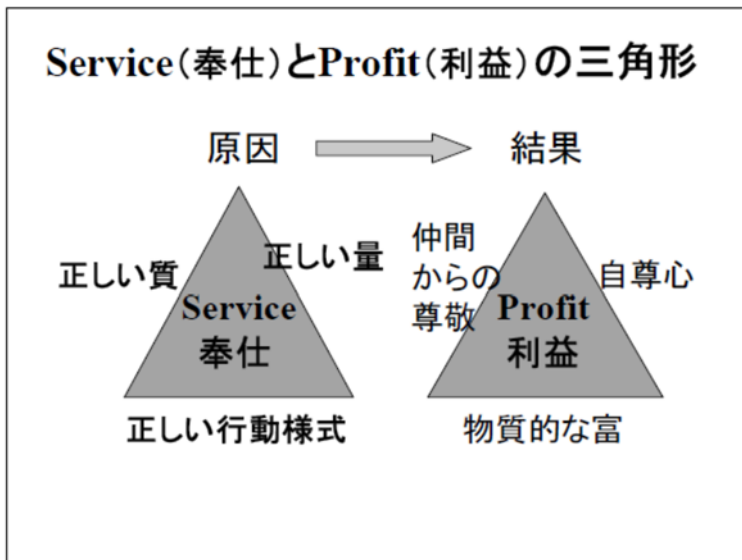
ロータリー独自の“Service”概念を確立したのが、「ロータリーの哲学者」といわれ、ロータリーの第2モットー「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」の作者である、アーサー・フレデリック・シェルドンです。

### 10) 「奉仕の理想」とは何か(2)

シェルドンは、1921年「ロータリーの哲学」という論文の中で、ロータリーの「サービス」の意義を詳しく論じています。シェルドンは「ロータリーの哲学は、サービスの哲学である」と主張します。

そして、シェルドンは、“Service”と“Profit”とは、原因と結果の関係にある、と言います。

“Service”があるから“Profit”が生じる。“Service”が先で、“Profit”はその結果である、と言うのです。



原因としての“Service”は、「正しい質」・「正しい量」・「正しい行動様式」で構成されており、一方、結果としての“Profit”は、「仲間からの尊敬」や「自尊心の満足」といった精神的な充実感と、「物質的・金銭的な利益」の両面を意味しています。

シェルドンの“*He Profits Most Who Serves Best*”という言葉は、金銭的な利益を求める功利主義と誤解されることがありますが、“Profit”が単に「金銭的な利益」を指しているのではないこと、利益は目的ではなく結果であることがこの「奉仕と利益の三角形」の解説を読むとよくわかります。

それでは、シェルドンの言うサービスの「正しい質」・「正しい量」・「正しい行動様式」とは、具体的には何を指しているのでしょうか。それは、「高い品質、適正な価格」「豊富な品揃え」「経営者・従業員の適切な接客態度」「公正な広告」「豊富な商品知識、高度な専門知識」「十分なアフター・サ

ービス」といった、現代企業が顧客の信頼を得るのに必須の「サービス」と異なりません。

私は、7年前クラブの職業奉仕委員長を拝命し、ロータリーの職業奉仕について色々と勉強していたとき、この「サービス」の意味をはじめて知って、ロータリーの理念は私自身の経営理念と完全に一致すると感じました。私の中でロータリーと仕事がつながった瞬間でした。

「サービス」という言葉は、現代日本では「値引き」「おまけ」「無料」などの意味で使われることが多く、また、「商品」(モノ)に対して人的労力の提供を「サービス」と呼んでいます。

サービスが正しいビジネスの方法を意味していたシェルドンの時代からロータリーの活動が広範囲に広がった100年後の現代、ロータリーにおいては、「サービス」を、その最も広い意味で使うようになっています。すなわち、

「社会に役立つ価値を提供すること」

「世のため人のために尽くすこと」

ロータリーは、職業人の集まりですから、その「サービス」は先ず自らの職業で発揮されることとなります。それを「職業奉仕」と呼びます。自らの職業のサービス・レベルを高め、社会に貢献できるよう努めることが、ロータリアンの最優先課題といってもよいでしょう。

ロータリーのサービス理念を私なりに要約すれば、世のため人のために自分がもっている能力を全力で心をこめて捧げること、そうした利他の精神が自分の幸せにつながるし、自分を活かす道である、ということなのです。

「綱領」に示されたロータリーの目的は、次のように言い換えることができます。

ロータリーの目的は、「サービス理念」を広め、その価値を高めてゆくこと。であると。

そして、ロータリアンとは、個人生活・職業生活・社会生活等、人生のすべての面で、「サービス理念」の研鑽と実践を行う人である、ということが出来ます。

最後に、サービス理念＝「奉仕の理想」は自分にとって何を意味するか？という問いが私たちに投げかけられています。(『目標設定計画』1931)

「職業奉仕も含めて「奉仕の理想」の解釈は意図的にロータリアン各自およびロータリアンのグループに任されている。／その適用は広範で多様な状況、問題、可能性に対応して実行されなければならない／ロータリアン個人が“私の職業を通じて「奉仕の理想」を適用するとは自分にとって何を意味するのか？”という問いに自ら答えることができなくてはならない。」

ロータリアンであるとは、私たちは一つの生き方を選択したということだと思います。ロータリーのサービス理念(「奉仕の理想」)は、どこか遠くにあって仰ぎ見るものではなく、自分の個人生活・職業生活・社会生活の中に実現すべきものでしょう。

ロータリーのサービス理念の実践が、社会の中で自分を活かす道であり、社会をよい方向に導く強い力をもっていることを私たちはもっと信じてよいのではないのでしょうか。

私たちのロータリアンとしての研鑽に終わりや完成形はありません。自分の人生における「奉仕の理想」の意義を、これからも皆様と共に追求してゆきたいと思います。



## 11) 日本の商人道とロータリー理念(1)

ロータリーでは「奉仕」と「親睦」が大事だ、とはよく言われることですが、「奉仕とは仕え奉ることだから、…」とか「親睦とは親しく睦みあうということだから、…」とか、日本語の分析をいくらしても、ロータリーの理念を理解することにはなりません。「奉仕」の原語Serviceや「親睦」の原語Fellowshipの意味を捉えないと、ロータリーは理解できません。

ロータリーは20世紀初頭の、自由主義経済が沸騰し、小恐慌が繰り返される景気変動の激しい時代に米国のシカゴで誕生しましたので、当然そうした時代背景や米国の文化的・宗教的・思想的背景を踏まえて理解する必要があります。

ロータリー理念を、M・ウェーバーが論じたような、「プロテスタンティズムの倫理」との関連で論じたり、ギリシア・ラテンの西洋思想やバイブルに遡ったりして論じる人もいます。

一方、東洋思想、特に儒教や仏教との類似を指摘する人もいます。ロータリーの理念「奉仕の理想」の意味については、下\*に示すとおりです。

\*ロータリーのサービス理念（「奉仕の理想」）

「超我の奉仕」「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」（二つのモットー）→サービスを自己の利益や都合より優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために最善のサービスをすれば、結果として最大の金銭的な利益と、大きな精神的満足が得られ、自分も幸せになる。サービスとは、世のため人のために尽くすこと、社会に役立つ価値を提供すること。

私も、日本の思想家・宗教家や経済人の言葉、また古くから伝わる商家の家訓などの中に、「ロータリーと同じことを言っている」と感じるが多々あります。これは、世界思想の中における、ロータリー理念の普遍性や、「正しい生き方」「善き生き方」に対する世界共通の考え方を示しているのではないかとと思われるのです。

今日は、そういう観点から、日本近世の商人道の中から、ロータリー理念と通じると私が考える事例をいくつかご紹介します。

近江商人の「三方よし」 売手よし 買手よし 世間よし

この言葉の出典は定かではありませんが、近江商人の心構え・行動規範を後世、要約したものようです。近年、CSR（企業の社会的責任）論の文脈で先駆的事例として引用されることが多くなっています。

三方よしの中でも、「世間よし」は、国（藩）を超えて他国に行商し、出店しようとする近江商人が、それぞれの土地（村や町などの地域共同体）で信用を築かなければ継続的な取引ができなかったことを示しています。

## 12) 日本の商人道とロータリー理念(2)

先用後利

似たような商いで、置き薬の行商をやっていた（今でもありますが）越中富山の薬売りが有名です。そのスローガンが「先用後利」です。先に商品を提供して代金は後で回収する仕組みを言います。

江戸時代は今のよう交通網が整備されていないので、スタッフがきめ細かく客先を訪問するなんてことはできない。また、薬は今と違って大変高価なものであり、各家庭に様々の種類の薬を常備しておくことなど困難であった。そこで登場するのが富山の薬売りです。「後払いでOK」と各家庭に薬を置いて

回った。そこには、売る側と顧客との相互信頼が必要となります。

モノ（薬）を売るだけでなく、健康などの相談に乗ったり、行商各地の話題を紹介したりすることで、顧客との関係を築き上げていくわけです。このような活動を通して収集した情報は、元締め「懸場帳（かけばちょう）」に事細かく記入され、顧客の実態に基づいた需要予測や適切な商品（薬）を提供しました。現代のデータベース・マーケティング、ワン・トゥ・ワン・マーケティングの先駆けといつてよいと思います。

このように、ビジネス・モデルとしても大変先進的ですが、『先用後利』、先に使っていただいて後から利益をいただくという考え方が、顧客との永続的な信頼関係をもたらした、といえます。

#### 先義後利

先義而後利者榮：義を先にして利を後にする者は榮える（荀子 榮辱編）大丸の初代下村彦右衛門が1736年（元文元年）に掲げた信条です。

大丸のウェブサイトには、「企業の利益は、お客様・社会への義を貫き、信頼を得ることでもたらされるとの意味で、言い換えると『お客様第一主義』『社会への貢献』となります。これは、大丸グループ共通の精神、営業方針の根本となっています。」と解説されています。

後年（1837年：天保8年）、大阪で大塩平八郎の乱が起こった時、大塩は「豪商らに天誅を加えるべし」と檄文を農民に回し、決起して船場の豪商たちの家を焼き討ちするのですが、大丸だけは焼き討ちを免れ無傷でした。大塩が「大丸は義商なり、犯すなかれ」と言ったからです。「先義後利」は単なる信条ではなく、実際にそういう商いを実践し、世間の信用を得ていたから焼き討ちを免れたのでしょう。

ちなみに、大丸の代々社長は、大阪RCの会員で二人の地区ガバナーも輩出しています。

石田梅岩の「売利の本質」 石田梅岩1685-1744 石門心学の開祖「実の商人は、先も立ち、我も立つことを思うなり」

武士は主君に仕えて俸禄を得るが、商人は万人に奉仕して利益を得ることが出来る。だから、正しい商いをしてこそ継続的に一定の利益が得られる。

鈴木正三の『万民徳用』 鈴木正三1579年（天正7）-1655年（明暦元年）江戸初期の曹洞宗の僧侶（元三河武士、関が原の戦いが初陣）在家の人びとに『萬民徳用』を執筆して、「世法即仏法」を根拠とした「職分仏行説」と呼ばれる職業倫理を重視し、日々の職業生活の中での信仰実践を説いた。『萬民徳用』は、商家で丁稚の手習いや寺子屋の読み書きの教科書として使用された。

「商買せん人は、まず得利の増すべき心づかいは修行すべし。その心づかひと言うは他の事にあらず。身命を天道になげうって、一筋に正直の道を学ぶべし。正直の人には、諸天のめぐみふかく、仏陀神明の加護あって、災難を除き、自然に福をまし、衆人愛敬、浅からずして万事心にかなうべし。」（「商人日用」）

二宮尊徳の「報徳の教え」 二宮尊徳1787-1856 江戸時代後期の農政家二宮尊徳のことを、「ロータリー以前の偉大なロータリアン」と評する人もいます。

「人のために善を尽すことが、やがて、自らを利することになる。」湯に入って、お湯を手で己れの方に搔けば、湯は我が方へ来るようだが、すぐ向うへ戻ってしまう。反対に、向うへ手で押しやれば、やがてわが方へ流れ帰る。少し押せば少し帰るし、強く押せば強く帰る。これが「天理」というものである。（湯船の論し）

以上、日本近世の商人道の中に、ロータリー理念との共通点を探ってみました。皆さんはどうお感じになったでしょうか。牽強付会に過ぎるのではないかという部分もあったかも知れませんが、ロータリーの「職業奉仕理念」の信奉者が特に日本に多いのは、以上見てきたような正しい商いのあり方を指し示した日本近世の商人道という文化的・倫理的背景が私たち日本人の土台にあるからではないか、と思えてなりません。

まだまだ、他にもロータリー理念と通じる、似たような徳目を謳った家訓や信条や言葉があると思います。ご存知の方はぜひ教えていただきたいと存じます。

仏教思想との類似、また明治以降の経済人の思想との関連についてもご紹介したいことがあるのですが、後日機会をあらためて申し上げます。

### 13) 私の職業奉仕 人々の健康に奉仕するヤクルト

ヤクルトはありがたい商品だとつくづく思います。私自身も毎日ヤクルトの乳製品・健康飲料を飲んでいるおかげで健康でいられますが、お客様にヤクルトを飲んでいただければいただくほど、お客様の健康に役立っているのが実感できるのです。

どんな企業もその社会的存在意義を明らかにしなければ、社員は自信をもって、やりがいをもって働けないと思うのですが、その点、ヤクルトは「健康」で社会に貢献できる、という自信と誇りを持つことができ、ありがたいと思っています。

ヤクルトの創始者は、代田実医学博士で、今から75年前の1935年（昭和10年）にヤクルトの製造・販売を開始しました。（群馬では昭和30年ごろから）

代田博士が提唱した理念を、「代田イズム」と呼び、私たちヤクルト普及に従事する者の原点となっています。

①予防医学 病気にかかってから治療するのではなく、病気にならないための予防医学が重要。

（「元気日本21」の目標は、生活習慣病の予防）

②健腸長寿 栄養を摂る場所は腸であるから、腸を丈夫にすることが健康で長生きすることにつながる。（＝プロバイオティクス）

\*プロバイオティクスとは、「腸内菌叢フローラのバランスを改善することによって人に有益な作用をもたらす生きた微生物」

③よいものを安く 健康を手軽な価格で一人でも多くの人に提供したいヤクルトの乳製品に入っている乳酸菌は、主に下記の2種で、いずれも生きて腸まで届き、プロバイオティクスとしての様々な効果が確認されています。

昔から整腸作用は知られていましたが、近年免疫活性を高める（ナチュラル・キラー細胞の働き（NK活性）を高める）ことが明らかになり、がんの再発防止等にも効果が確認されています。

1. 乳酸菌シロタ株（ラクトバチルス・カゼイ・シロタ株）

（商品名：ヤクルト、ヤクルト400、ジョア、ソファール等）

2. ビフィドバクテリウム・ブレーベ・ヤクルト株（ビフィズス菌）

（商品名：ミルミル、ミルミルS）

ヤクルトでは、毎年「代田カンファレンス」を開催しています。ヤクルト乳酸菌の効果に関する研究成果を全世界から持ち寄って発表する会議です。今年の統一テーマは、「プロバイオティクスと予防医学」

の実践」でした。10月27～28日の二日間で行われた会議の発表の中からピックアップしてご紹介し  
ます。

- ① 乳がん予防に効果（京都大学）
- ② 高齢者の呼吸器感染症とインフルエンザの予防に効果（ベルギー アントワープ大）
- ③ スポーツ選手の免疫力回復に効果（イギリス ラフバラ大学）
- ④ 炎症性腸疾患の潰瘍性大腸炎、クローン病患者に改善効果（久留米大学）
- ⑤ 胃を切除した人の便秘・下痢が改善（東京慈恵会医科大学）
- ⑥ 新生児の腸内フローラ形成（順天堂大学）
- ⑦ 小児性下痢に予防効果（インド）
- ⑧ 喫煙や精神的ストレスによる免疫力低下を改善（イタリア ダヌツェ大）
- ⑨ ガラクトオリゴ糖を含むビフィズス菌発酵乳（＝「ミルミルS」）の美肌効果  
（ヤクルト本社）

以上は、直近2年間の研究成果です。これまでにヤクルト乳酸菌の効果に関する様々な臨床報告や研究  
成果が蓄積されています。詳細なデータも入手できますので、何か私の説明で？のところがあれば、お  
問い合わせください。

今日は「私の職業奉仕」ということで、ヤクルトのお話を聞いていただきました。素晴らしい力を持っ  
たヤクルト乳製品を飲んでいただき、一人でも多くの人に健康になってもらいたい、というのが私の職  
業奉仕の原動力です。

年度が後半に入りましたら、「私の職業奉仕」というテーマで何人かの会員の皆様にも卓話していただ  
けるよう、「プログラム委員会」の須田委員長と相談しておりますので、お楽しみにしてください。

#### 14) リーダーシップについて

本日は、福田ガバナー、町田地区幹事、相澤ガバナー補佐をお迎えしての公式訪問例会です。心より歓  
迎申し上げます。後ほど福田ガバナーには、例会内でご講話、そして引き続き懇親会でご指導賜りま  
す。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

RIの長期計画Strategic Planについては、7月の例会でご紹介しましたが、そこには、国際ロータリ  
ーのビジョンや使命が謳われていました。そして、中核となる価値観 Core Values として次の5つの  
キーワードが示されています。

奉仕Service、親睦Fellowship、多様性Diversity、高潔性Integrity、リーダーシップLeadershipの  
5つです。

このうち、最初の二つ、奉仕 Service と親睦 Fellowship は、昔からロータリーの両輪と言われてお  
り、これまで会長の時間の中でも解説してきました。

「奉仕の理想」、すなわち「ロータリーのサービス理念」に謳われるServiceは、社会に役立つ価値を  
提供すること、世のため人のために尽くすことであり、それは、見返りを求める功利主義的なものでは  
なく、利他主義の思想です。

親睦Fellowship は、単に一緒に酒を飲んだり、ゴルフをしたりする、ということではなく、同じ志を  
持つ仲間Fellow 間の仲間意識、友情であり、それは、例会や奉仕活動を通じて育まれるものです。

3つ目の多様性Diversity は、ロータリークラブの一番の特長である職業分類制度によく現れていま

す。多様な職業の仲間との交流というのが、ロータリーの醍醐味です。多様性ということでは、ロータリーは職業だけでなく、人種、性別、宗教等の違いを超えて、現在は、200以上の国と地域に120万人以上の会員を擁する組織に発展しています。

今日は、残りの二つ、高潔性Integrity とリーダーシップLeadership という言葉について考えて見ます。

はじめに、「リーダーシップ」から見てゆきます。ロータリーでは、リーダーシップという言葉をよく使います。いくつか使用例を並べて見ますと、

◎地区リーダーシップ・プラン District Leadership Plan : DLP

◎クラブ・リーダーシップ・プラン Club Leadership Plan : CLP

◎地区指導者育成セミナー District Leadership Seminar

◎ローターアクト指導者育成研修 Rotaract Leadership Training

◎クラブ指導力育成セミナー Club Leadership Development Training

◎ロータリー・リーダーシップ研究会 Rotary Leadership Institute : RLI

なぜ、ロータリーでは、リーダーシップという言葉が多用するのでしょうか。ロータリーは、事業と専門職務および地域社会のリーダーの集まりです。ロータリークラブはリーダーシップの修練の場ともいえます。「例会は人生の道場である」と喝破したのは、日本ロータリーの創始者米山梅吉翁です。

ロータリークラブは、企業のように権限を持ったトップが指示・命令する組織ではありません。会員の平等・対等な関係が前提となります。クラブの組織力を高めるためには、会員全員の合意形成・対話・協力が重要です。会員それぞれが個性と能力を存分に発揮できるよう、会員全員がリーダーシップ（指導力）を高める必要があるのです。誰か特定の限られた人をリーダーとして育成するというのではなく、会員全員がリーダーシップ（指導力）を身につけなければならない。だから、ロータリーでは、「リーダーシップ」という言葉が重要なキーワードとなっているのです。

## 15) 高潔性について（インテグリティ）

次に、高潔性Integrity について。

Integrity という言葉は、日本語に訳し難い言葉のようですね。

オックスフォード現代英英辞典には“the quality of being honest and having strong moral principles”（誠実であるとともに強固な倫理原則を維持できている状態）と語義が解説されています。

ドラッカーの『マネジメント』には、マネージャーの資質として、「学ぶことのできない資質、始めから身につけていなければならない資質が一つだけある。才能ではない。真摯さである。」という有名な一節がありますが、この「真摯さ」の原語がIntegrity なのです。また、同じ『マネジメント』の中で、「リーダーシップが発揮されるのは真摯さによってである。範となるのも真摯さによってである。…範とすることのできない者を高い地位につけてはならない。」とも言っています。

『リーダーの人間力』という本があります。

サブタイトルが「人徳を備えるための6つの資質」という、ヘンリー・クラウドという精神科医の著作ですが、この本の原題（オリジナル・タイトル）がずばり、“INTEGRITY”です。

翻訳者は、この本で主張されているIntegrityという言葉の持つ意味が「高潔さ」という訳語に収まり

きれないと考え、原題をタイトルにするのを断念しています。

この本の中で、Integrity は、「一人の人の全体が統合されており、個々の部分がうまく活動し、目指す機能を果たすこと。＝人間として全体性があり、効果を上げていること」と要約されています。

そして、Integrity をリーダーが備えるべき資質として細かく分析していきます。

このように、Integrity とLeadership とは、切っても切れない関係であることがわかります。インテグリティが備わっていなければ、リーダーシップは十分には発揮できないのです。

RI の長期計画 Strategic Plan の5つの中核となる価値観 (Service、Fellowship、Diversity、Integrity、Leadership) は、ロータリー理念の理解を深めるため、そして、私たちロータリアンの行動の規範・指針として、大変重要なキーワードである、というのが、結論です。

今日は、地区のリーダーである福田ガバナーをお迎えするに相応しいテーマを取り上げました。以上で、会長の時間を終わります。

## 16) ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI)

前橋市教育委員会より佐藤博之教育長名で、まえばし学校フェスタ2010 共催のお礼状が届きました。

「…会員の皆様方のご協力により、本事業は大きな成果をあげることができました。ステージ発表、展示発表、ブース発表に参加した児童生徒はあわせて約1,000人、当日も約2,300人の市民の皆様に来館いただきました。…来年度さらに充実したフェスタにするためご協力をお願い申し上げます」とのことです。

12/4 (土) 「第1 分区クラブ研修セミナー」が開催されました。会長・幹事会で私が提案して実施されたものです。地区行事に準じるセミナーとして、福田ガバナーにご挨拶いただき、講師を地区研修リーダーの横山公一パストガバナー、そして第1ゾーンのロータリー・コーディネーター補佐である当クラブの曾我パストガバナーをお願いいたしました。

第1分区の各クラブより、クラブ研修リーダーやクラブ指導者6～7名に参加いただき、10月の会長の時間にちよつとご紹介した「ロータリー・リーダーシップ研究会」(RLI)の研修手法を学び体験するセミナーでした。従来の一方通行のレクチャー形式の研修ではなく、ディスカッション・リーダーという進行役のリードで、一つのテーマをめぐって参加者が自由に討議するやり方です。最近企業では、会議の効果的手法として「ファシリテーション」が流行り始めていますが、そのやり方とほぼ同様の手法です。

今回は「クラブを超えたロータリー」と「会員組織と会員維持」という2つのテーマで討議し、当クラブからも山田副会長、都丸幹事、温井さんの3人に、その討議に参加していただきました。ありがとうございました。

来年度は地区でもRLIの導入が予定されています。研修の新しいスタイルとして、クラブ研修リーダーの曾我PGのご指導で、クラブ内の研修にも今後生かしてゆきたいと考えています。

## 17) ロータリー家族について

12月には「家族月間」(Family Month)です。そのことは、先週、ロータリーの友委員長横田さんよりご紹介いただいた『ロータリーの友』12月号に特集記事が載っています。ガバナー月信12月号でも、福田ガバナーが「ロータリー家族」(Rotary Family)についてメッセージを寄せています。

「家族」といえば、普通、夫婦や両親・子供・孫というように自分の家族を思い浮かべますが、「ロータリー家族」という場合は、もっと広い意味を表しています。元会員・物故会員も含めロータリアンすべてとご家族、そしてインターアクター、ローターアクター、青少年交換学生、ロータリー財団奨学生、米山奨学生、前橋RCの国際奨学生など、ロータリーに、過去から現在に至るまで、関わったすべての人々を含めて「ロータリー家族」と呼んでいます。

本日の「クリスマス家族会」を企画運営していただく「親睦・ロータリー家族委員会」の名称に、今年度から「ロータリー家族」と明記したのは、ロータリーに関わるすべての人々の親睦Fellowship=仲間意識を育むための活動を進めようとの思いをこめたものであります。

先月11月のRI理事会で、長期計画Strategic Planを一部改正する、という決定がなされました。Strategic Planについてはあらためて曾我隆一研修リーダーに詳しく解説していただく機会をつくりたいと考えていますが、今回の改正は、Strategic Planにあった「ビジョン」に代えて「ロータリーの本質」という文言が加わったことです。

ロータリーの本質 地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に役立つ活動に注いでいる、献身的な人々の世界的ネットワークこれがロータリーの本質である、という宣言です。

現在、世界のロータリアン数は、122万7,000人を数えています。ロータリー105年の歴史を考えれば、ロータリー家族と呼ばれる人々はこれまでに1,000万人を超えているでしょう。そしてポリオ・プラスなどのロータリーの人道的奉仕活動によって、すでに世界中の何億人もの人々が救われているのです。今では、ロータリーが存在しない世界を想像することができないほどの世の中への貢献をロータリーは成し遂げてきたのです。

ご家族の皆さん、私たち前橋RCの会員は、「献身的な人々の世界的ネットワーク」であるロータリーの一員であることを誇りに思っています。皆様もこのロータリー家族の一員です。ロータリーの活動に今後ともご理解・ご支援よろしくお願い申し上げます。

12月の家族月間、ロータリー家族の重要性とロータリー家族の絆の大切さを再認識する月になればいいなと思います。

## 18) ロータリー理念を確立した アーサー・シェルドン(1)

今日、12月21日はアーサー・F・シェルドンの命日です。亡くなったのは、今から75年前、1935年12月21日、67歳でした。日本で言えば、昭和10年、ヤクルト誕生の年でもあります。

アーサー・F・シェルドンは、ロータリーの第2モットー「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の作者、そして職業奉仕の提唱者として、日本のロータリアンには信奉者が大変多い人です。ところが、不思議なことにアーサー・F・シェルドンの名前は、欧米では日本ほど省みられることはないのです。

ロータリー100周年を記念して出版された『奉仕の一世紀』（ディビッドC・フォワード著）には、シェルドンに関する記述は、僅か2箇所、合計7行だけという扱いです。「設計者と建設者」という章で詳細に紹介されたポール・ハリスとチェスレー・ペリーの扱いとはエライ違いです。

ポール・ハリスは、言うまでもなく、ロータリーの生みの親です。自分のことを、ロータリーの「設計者」と位置づけています。

チェスレー・ペリーは、全米ロータリークラブ連合会を立ち上げ、後に国際ロータリーに発展していった時代32年間も事務総長を務めた、国際ロータリーという世界的ネットワークの組織づくりをした人、ポール・ハリスから「ロータリーの建設者」と呼ばれました。

アーサー・F・シェルドンは、この二人と並んでロータリー草創期を代表する指導者です。シェルドンを「ロータリーの哲学者」と呼ぶ人もいますが、ロータリーの奉仕Service理念を確立した、ロータリーの思想的指導者と言えると思います。

シェルドンは1868年5月1日にミシガン州バーノンで生まれました。ポール・ハリスと同じ生まれ年です。この1868年は日本では、慶応4年から明治元年に年号が改まった年で、偶然ですが、日本のロータリーの創始者、米山梅吉さんもこの年に生まれています。

シェルドンは、ミシガン大学経営学部で販売学を専攻し、修士課程をトップの成績で卒業しました。卒業後、図書の訪問販売でトップ・セールスマンとなり、出版社経営後、1902年にシカゴでビジネス・スクールを設立します。

1908年1月、チェスレー・ペリーとともにシカゴRCに入会、その1ヵ月後には、「情報拡大委員長」という役職を与えられます。その後、クラブ内で親睦・互惠派と奉仕・拡大派の対立があり、シェルドンは、奉仕・拡大派であったポール・ハリス、チェスレー・ペリーとともに、全米ロータリークラブ連合会（後の国際ロータリー）に活動の場を移していきます。

シェルドンは、連合会では初代の“Business Method Committee”直訳すれば「ビジネスの方法委員会」の委員長として、ロータリーのサービス理念の確立と啓発に尽力します。



## 19) ロータリー理念を確立した アーサー・シェルドン(2)

シェルドンは、1921年「ロータリーの哲学」という論文の中で、ロータリーの「サービス」の意義を詳しく論じています。

シェルドンは、“Service”と“Profit”とは、原因と結果の関係にある、と言います。“Service”があるから“Profit”が生じる。“Service”が先で、“Profit”はその結果である、と言うのです。原因としての“Service”は、「正しい質」・「正しい量」・「正しい行動様式」で構成されており、一方、結果としての“Profit”は、仲間からの尊敬や自尊心の満足といった精神的な充実感と、物質的・金銭的な利益の両面を意味している。

シェルドンの、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」“He Profits Most Who Serves Best”という言葉は、金銭的な利益を求める功利主義と誤解されることがあるのですが、“Profit”が単に「金銭的な利益」を指しているのではないこと、利益は目的ではなく結果であることがこの「奉仕と利益の三角形」の図を見るとよくわかります。

それでは、シェルドンの言う「正しい質」・「正しい量」・「正しい行動様式」とは、具体的には何を指しているのでしょうか。それは、

- ・ 高い品質、適正な価格
- ・ 豊富な品揃え
- ・ 経営者・従業員の適切な接客態度
- ・ 公正な広告
- ・ 豊富な商品知識、高度な専門知識
- ・ 十分なアフター・サービス

といった、現代企業が顧客の信頼を得るのに必須の「サービス」と異なりません。私は、シェルドンの唱える「サービス」の意味をはじめて知った時、ロータリーの理念は私が普段経営者として考え実践している、経営理念とピッタリだと強く感じました。私の中でロータリーと自分の仕事がつながった瞬間でした。

シェルドンが初代委員長になった“Business Method Committee”は、1927年、ロータリー活動の枠組みとして「四大奉仕部門」が採用されて以降は、「職業奉仕委員会」と呼ばれるようになります。「職業奉仕」といえば、ロータリー理念の真髄ではあるが、難解でよくわからないとか、ちょっと、現実の職業とは関係ない崇高な倫理的概念だとして敬遠される向きもありますが、もともとシェルドンが唱えたサービスの概念は、ビジネス・メソッドすなわち、「科学的な正しい商売の方法」という極めて実用的な概念であったのです。

シェルドンは、理由は不明ですが、1930年にシカゴRCを退会します。1929年の世界大恐慌の後、ロータリーは会員減少など苦難の30年代を迎えます。

同じ1930年、これはロータリーの「企業秘密」ですが、ポール・ハリスの弟レギナルド・ハリスがロータリーからライオンズへ鞍替えして組織的な混乱を起こしたということもあったようです。

シェルドンは、ロータリーを退会して5年後に亡くなりますが、その墓碑には、ビジネス・サイエンティスト、作家、講師という肩書きとともに、奉仕の三角形と第2モットー“He Profits Most Who Serves Best”が刻まれています。

今日は、アーサー・F・シェルドンの命日にちなんで、シェルドンの業績を振り返ってみました。

## 20) ロータリーの創始者 ポール・ハリス

本日の私の話は、「追悼記念週間」についてです。ロータリーでは、1月27日を含む1週間を「追悼記念週間」としています。1月27日は、ロータリーの創始者ポール・ハリスの命日なのです。

数年前、英語の公式雑誌「ロータリアン」に劇画によるポール・ハリスの伝記（絵：スティーヴ・バクセラット 文：ダイアナ・スコバーク）が掲載されました。今日は、その劇画を見ながらポール・ハリスの人生をたどってみます。

ポール・ハリスは、1968年4月19日にウィスコンシン州ラシーンで生まれました。同年にはロータリー理念を確立したアーサー・シェルドンも生まれています。1868年といえば、日本では慶応4年から明治に改元される年で、偶然ながら米山梅吉さんもこの年生まれです。ついでながら、『坂の上の雲』の秋山真之もこの年生まれです。

少年時代のポール・ハリスはずいぶんやんちゃ坊主だったようです。大学では放校処分になり、アルバイトもしましたが、一念発起してロー・スクールに入り直します。ロー・スクール卒業は1891年、ハリス23歳のときです。

そのロー・スクールの卒業式のときOBの弁護士が記念講演で、次のように卒業生たちに勧めたそうです。「選んだ都市に落ち着きキャリアを築く前に、5年間は小さな町へ行き、今はばかげて無駄と思えても、人生の寄り道に身を置くべきだ」と。ハリスはそれを「わくわくする冒険にでかける許可」と捉え、実際、それからの5年間各地を転々とします。

サンフランシスコ・クロニクル新聞の記者から、大理石会社のセールスマンまで、ハリスの足跡は、全米各地だけでなく、イギリス、ヨーロッパ大陸まで及びました。

ハリスがシカゴに居を定めたのは1896年、27歳のときです。ハリスは、破産と横領による犠牲者を代理する弁護士業を開始します。

19世紀末から20世紀初頭にかけてのシカゴは、自由主義経済が過熱し、不正や非合法的な行為が横行していました。そこには人間同士のつながりがなく、ハリスは孤独を強く感じていました。ロータリークラブのアイデアはそうしたハリスの乾いた心を癒すものでした。

1905年、ロータリー・クラブは誕生します。最初の会合に集まったのは4人ですが、3回目には15人になり、ハリスが会長に就任する1907年には、140人を超える規模になっていたそうです。

ハリスの個人生活では、1910年、42歳のときにジーン・トムソンと結婚します。同じ1910年「全米ロータリークラブ連合会」が創設され、ハリスはその初代会長に就任します。しかし、1912年ハリスは過労のため会長職を辞任し、以後ほぼ15年間ロータリーの会合から身を引きます。

ハリスの健康不全は生涯に渡って続きますが、1926年ロータリーの活動を再開し、世界各地に出向きロータリーの普及に努めています。

ハリスは、1947年1月27日に79歳で亡くなりました。1957年、ロータリー財団は、1,000ドルの寄贈者に敬意を表する「ポール・ハリス・フェロー表彰」を創設し、ハリスの遺徳を称えています。

「追悼記念週間」は来週ですが、来週の例会が6クラブ合同例会のため、ご紹介する時間がないので、本日、それに因んだお話をいたしました。

## 21) 魅力的で活気に満ちたクラブづくりをめざして

本日は、後ほどクラブ・フォーラムで「会員満足度アンケート」を実施します。

今回で5回目になりますが、毎回、会員の皆様のクラブ運営や活動に関する意識を調査し、改善のための課題を明らかにするものですので、忌憚のない回答をお願い申し上げます。

7年前、21世紀委員会で、クラブ活性化の活動に取り組む前提として考えた「仮説」は、以下の6項目です。

1. ロータリー理念の普及と実践こそが、ロータリーの社会的存在価値を高める。各クラブの存在価値は、属する地域社会への貢献によって高まる。
2. ロータリー運動の主体は、一つ一つのクラブである。そして、クラブの活動の成否は、クラブ会員の主体的・自発的行動にかかっている。
3. 職業や国・地域や個性・能力等の多様性が、ロータリーの活力の源泉である。
4. 時代や社会環境の激変によって、ロータリークラブ（の組織や活動のあり方）は、大きな変革を求められている。
5. ロータリークラブを変革してゆくには、長期的なビジョン・戦略と、継続的な取り組みが必要である。
6. 一人一人の会員の満足度（充実感、参画意識、やりがい）を高めて行けば、クラブ全体の組織活力が高まり、効果的なクラブになる。

これら6項目の「仮説」は、後に、3期にわたる21世紀委員会の「クラブ改革提言」や、各年度クラブ指導者のご努力、そして、これまでの「会員満足度アンケート」のスコア改善の取り組みなどによって実証されたと考えています。

また、4年前、私たちはクラブのビジョンづくりのためのアンケートを実施しました（21世紀委員会第3期活動）。委員会で考えた「クラブの理想像（案）」16項目のうち、会員に最も支持された上位3項目は以下の通りでした。

- 1位 明るく活気に満ちた組織風土である
- 2位 親睦と友情を育む機会がある
- 3位 会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い

会員がクラブに求めることは今でも変わらないでしょう。会員満足度が高まればクラブの組織活性も高まります。活気に満ちたクラブづくりは永遠のテーマでもあります。今年度後半も、会員が充実したクラブライフを享受できるようなクラブ運営に努めておりますので、引き続き、会員の皆様のご協力よろしくようお願い申し上げます。

## 22) 勝海舟の話(1)

今日は、雑談です。

小口会員の上毎印刷さんで、「アラフォー成人式」が行われた、と群馬経済新聞に載っていました。社歴20年の社員を祝い、決意も新たに意欲を喚起するという大変素晴らしい企画です。

私は60歳なので、成人式をもう3回はやった計算ですが、寅さんではありませんが、「思い起こせば恥ずかしきことの数々、…」

『論語』に、孔子が自分の生涯を回想した言葉で、子曰く「われ十有五にして学に志す。云々」というのがあります。その60歳の自分を回想した一節が「六十にして耳したがう」です。六十歳で人の意見を素直に聴けるようになった、というわけです。今の自分の状態を考えてみると、それどころではなく、「四十にして惑わず。五十にして天命を知る」ところまでも達していない気がします。

「七十にして心の欲する所に従いて、矩を踰えず」という境地には、まだ10年近い時間がありますので、それまでに、「惑わず」「天命を知る」「耳したがう」も含めて、そういう心境に近づけるようにしなければならないなあ、と思う今日この頃です。

さて、今日は、私の好きな歴史上の人物についてのお話です。

私が一番好きな歴史上の人物は、勝海舟です。昨年のNHK大河ドラマ『龍馬伝』では、武田哲矢が勝海舟を演じていましたが、そりゃないだろうと思いました。第一、風貌がまるで違います。海舟は小柄で細身、きりっとした凛々しい表情の写真をご覧になった方もいると思います。

私が勝海舟にのめりこんだのは大学生の頃です。一世代前の時代小説作家、子母澤寛（『新選組始末記』が有名ですが）、その勝海舟三部作『父子鷹』『おとこ鷹』『勝海舟』を次々と読み漁りました。その勢いで、海舟本人の晩年の座談をまとめた『氷川清話』や『海舟座談』も読み進めました。これは、ちょっとほら話や自慢話もあるので割り引いて読む必要があります。そして海舟の父、勝小吉の自伝『夢酔独言』。これが、またやたらに面白い。小吉は、貧乏旗本で生涯無役で終わった人です。若い頃家出をして、放浪生活を送ったり、喧嘩っ早くて家族に迷惑をかけたり。そういう無頼の生活を反省して、子孫にはこんな俺の生き方はまねするなよ、ということで書き残したのが『夢酔独言』ですが、読んでみると、結局若い頃の武勇伝、自慢話。この父にしてこの子ありです。

私は、後年、司馬遼太郎に夢中になるのですが、司馬はどの作品でも勝海舟を脇役としてしか描いていないのが、ちょっと不満でした。今でも海舟の名のつく本がでるとチェックしています。

子母澤寛の先祖は徳川の御家人でしたので、子母澤は、幕府びいき、江戸文化への愛着を隠していませんが、私は、子母澤が描く江戸の空気が大好きです。

もし江戸時代なら、江戸の下町の長屋の奥に住まう頑固一徹な飾り職か何かに生まれたりしたいものだ、と思ったくらいです。

勝海舟が幕末～明治維新期に果たした歴史上の役割については、言うまでもありませんが、江戸開城、江戸城明け渡しのときには、西郷隆盛との交渉の一方で、いざというときには、江戸の町を焼き払う焦土作戦とその時の避難民救出準備（新門辰五郎に依頼して）までしていた。さらに、イギリス公使のパークスに働きかけて新政府の動きを牽制したという、タフ・ネゴシエーターぶり、リアリストぶりには驚きます。

明治維新前後の日本には、こうした骨のある人物がたくさんいたようです。現代の日本が外交おんち、交渉べたと外国から揶揄されるのを考えると、同じ日本人かと思うぐらいの違いです。

話はそれますが、タフ・ネゴシエーターといえば、小村寿太郎という外交官・政治家が有名です。日露戦争後のポーツマス条約調印のときの日本全権です。

勝海舟は小柄な人でしたが、この小村寿太郎も大変小柄（145センチぐらい）で頭が大きく、貧相な髭を生やした容貌とすばやい行動力から「ねずみ公使」とあだ名されていました。

私が好きなエピソードは、NHKスペシャルドラマ、司馬遼の『坂の上の雲』にも出てきましたが、日清戦争の前のことです。小村は北京公使として北京に在住していました。ある宴席で清国きっての有力者、巨漢の李鴻章が列国公使の居並ぶ中、小村に「こう見渡したところ各国公使中閣下が一番小そうございます。日本人とは皆閣下のように小さいのでございますか？」と。日本を弱小国と蔑み、衆人環視の中で小村を侮辱したのです。小村は即座に切り返しました。「残念ながら日本人はみな小そうございます。むろん我が国にも閣下の様に体の大きな男はおりますが、わが国には、大男総身に知恵が回りかね、と

いう諺があるくらいで彼らはとても通常の仕事に耐えられませんので、やむなく相撲取りに仕立て渡世の道を立てさせております。」と。李鴻章は返す言葉もなく、きまり悪そうに引き下がったそうです。痛快ですね。

### 23) 勝海舟の話(2)

勝海舟に話を戻します。福沢諭吉と勝海舟のやりとりの話です。

海舟と福沢は、その出会いから相性が良くなかったようです。二人は安政6年、威臨丸で一緒に使節団でアメリカに行っています。諭吉は、軍艦奉行の木村摂津守の従者としての乗船でした。一方の海舟は、その時は威臨丸の艦長を務めていました。ところが海舟は、上司である木村摂津守を余り立てなかったようです。そのため木村の従者だった諭吉は海舟に良い印象を持たなかったのです。

明治になって、福沢諭吉が「やせ我慢の説」という論文で、海舟の維新以降の出处進退を批判しています。「やせ我慢の説」で福沢は、海舟が幕臣でありながら、江戸城明け渡しの際にも戦わなかったし、明治後、海軍卿（海軍大臣）や元老院議員など、新政府の要職を歴任し、最後は伯爵に叙せられたことを激しく非難します。

福沢自身は、譜代大名の中津藩士から幕府の翻訳方で幕臣となり、後に明治新政府の任官の要請を何度も断っています。そして、ご存知のように民間で活躍することになるのですが、福沢と海舟のやりとり、私は福沢の中津と同じ大分県の別府出身ですが、そして慶応出身の方には申し訳ありませんが、海舟のほうに味方したくなります。

海舟は、福沢から「やせ我慢の説」を公にするけど、どうだと手紙で問われ（福沢も一応仁義は切っているのです）、次のように応えています。

「行蔵は我に存す、毀誉は他人の主張、我に与からず我に関せずと存じ候」。

自分の出处進退は自分で決める、それをどうこう批判するのは他人の勝手だ、おれの知ったことじゃないよ、勝手にやってくれ、ということですね。

「行蔵は我に存す」というのは、開き直りではないですね。

江戸城無血開城は、確信犯です。勤皇だ、佐幕だと国内で争っている場合じゃないだろうと、幕臣の身分を超えて、列強帝国主義が押し寄せてくる日本という国を守ろうとしていたのです。

明治後の海舟は、静岡1県に押し込められた徳川の家臣団を生活できるように、金庫番として資金を提

供したり、茶畑の開墾をさせたり、北海道開拓を支援したり、と尽力しています。あの篤姫の面倒も見ています。そして、最後の将軍、徳川慶喜とはあまり相性がよくなかったようですが、慶喜の名誉回復に晩年の人生を捧げています。最後には、海舟の努力もあり、慶喜は明治天皇に拝謁し公爵に叙せられました。

幕臣としての忠君と、近代国家の建設という大義の両方を一身に引き受け、「行蔵は我に存す」と言い放った江戸っ子勝海舟の心意気が、私は大好きです。

私が海舟を好きな理由がもうひとつあります。海舟の誕生日は、文政6年（1823）1月30日。これはもちろん旧暦ですが、これを西暦に直すと、私と同じ3月12日になるんです。なんだか嬉しいですね。

勝海舟の末期の言葉は「これでおしまい」だったそうです。今日の会長の時間も「これでおしまい」です。

## 24) ロータリー理念の背景

先週の例会日の夜、入会2年以内の新会員の方々にお集まりいただき、「ロータリーの基本」をお伝えするセミナーを催しました。セミナー後の懇親会では活発な意見交換がなされ、大変有意義な会でしたが、その時ロータリーに関する色々な質問もいただきました。例えば、ロータリーは、なぜいい大人が例会の始めに大きな声で歌を歌うのか。ロータリーとライオンズは何がどう違うのか。「職業奉仕」という言葉はわかりにくい。相反する？概念である「職業」と「奉仕」を結びつけたちょっと変な言葉ではないか。等々。また渋沢栄一思想とロータリー理念は共通点があるのでは？というご指摘もいただきました。

これらの疑問に対する私の考えは、これからの会長の時間の中で少しずつ触れてゆきたいと考えています。

今日は、そのときに出た質問にひとつだけお応えしておきます。

ロータリー理念の思想的背景あるいは歴史的限界についての質問です。

アメリカで生まれたロータリーの思想的基盤がキリスト教にあるのは言うまでもありません。初期のロータリアンは、ロータリーの「奉仕の理想」が、聖書の「マタイによる福音書7章12節」にある「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（黄金律）という言葉と同じ意味だと考えていました。この黄金律に似た金言は世界宗教、世界思想に数多く見られます。

一般的なキリスト教の背景に加えて、マックス・ウェーバーが指摘するプロテスタンティズムの倫理観が、ロータリーの基盤にあると考えています。ウェーバーは、その著書で「非常に強い潔癖な倫理観がなければ、資本主義は成立しない」と言っています。ロータリーは、自由主義経済が過熱し、激しい好不況の波に人々が翻弄されていた1905年のシカゴに、その波から身を守り対抗しようとした一群の人々が立ち上げたのです。

もう一つの背景は、厳密な意味で使っているわけではありませんが、19世紀から20世紀にかけての「科学主義」の流れがあります。ロータリー理念を確立したアーサー・シュeldonは、その理念を「原因と結果の科学」として解説しています。シュeldonの墓碑銘に記された肩書きは「ビジネス・サイエンティスト」でした。

私が素晴らしいと思うのは、ロータリー理念が、その時代的・歴史的・地理的制約を超えて、100年後の我々のビジネスや生き方にも学ぶことの多い、普遍性を有している、ということです。

100年前、ロータリークラブのような社交クラブはシカゴの町にも無数にあったそうです。その中でなぜロータリーだけが生き残り、発展してきたか。ロータリー理念に普遍的な力があつたからでしょう。歴史上の世界思想や宗教との共通点が数多く指摘されるのも、ロータリーの大きな魅力だと思います。以前の例会で、日本の商家の家訓、近江商人の「三方よし」、大丸の「先義後利」、二宮尊徳の「報徳の教え」などとロータリー理念との類似を申し上げたことがあります。これからも、儒教、仏教、そして渋沢栄一、ロータリアンであつた松下幸之助さん等々の思想を例会の中でご紹介していきたいと思っています、と予告だけして、今日の私の話を終わります。

## 25) 小倉昌男さんの話

今日の私のロータリー話は、6年前に亡くなられた、クロネコヤマトの宅急便を創つたヤマト運輸の元会長小倉昌男さんのお話です。

小倉さんの著書『経営学』は実践的な経営の教科書として、ドラッカーさんの諸著作と並んで私の必読文献となっています。

小倉昌男さんはロータリアン、銀座新RCの会員でした。小倉さんがロータリアンだということを知る以前に、私は2回小倉さんの講演を聴く機会がありました。一度は、宅急便開発の苦労話。もう一度は、ヤマト運輸の経営の一線から退かれた小倉さんがヤマト福祉財団を作つて障害者の自立支援に当たっているというお話でした。

ヤマト運輸はもともと関東を中心としたトラック運送をしていました。デパート（三越）の配送の下請けもしていましたが、そういう仕事を全部やめました。宅急便という今までどこにもなかったサービスが日本には絶対必要だと信じた小倉さんは、「そんな事業うまくいくはずがない」と社員全員が反対するのを押し切ってクロネコヤマトの宅急便を開発しました。

今から35年前、1976年サービス開始の初日の取り扱い個数は、わずか11個だったそうですが、現在は年間12億個以上を取り扱い、私たちの生活に欠かせない、なくてはならない仕組みになっています。

クロネコヤマトのサービスは「ダントツのサービス」でなければならない、と小倉さんは言います。

「ダントツのサービス」とは、お客様に100%の満足を与えること。具体的には、約束した日に預かつた荷物をまちがいなく傷つけないで配達し、お客様との約束を絶対裏切らないこと、です。

小倉さんが宅急便事業を始めるにあたって掲げたスローガンが「サービスが先、利益は後」という言葉です。

小倉さんは「サービスが先、利益は後」というスローガンをクロネコヤマトのセールス・ドライバーに言い続けました。利益は考えなくてよい。利益はダントツサービスの結果である。だから「サービスが先、利益は後」というわけです。ヤマトの絶対目標は、「お客様の立場に立って考える良いサービスの実行」でした。

小倉さんが言い続けた「サービスが先、利益は後」というのは、「サービス」と「利益」の関係を理解しない人からは「きれいごと」と聞こえたかも知れません。しかし、きれいごとでクロネコヤマトは伸びたわけではないことは、私たちはよく知っています。今までどこにもなかったサービス、生活になくなくてはならないサービスとして世の中から認められたから、クロネコヤマトは成長したのです。

私たちロータリアンには「サービスが先、利益は後」という言葉はすぐに腑に落ちます。ロータリーに

は二つのモットーがあります。“Service above Self”と“He profits most who serves best”の二つです。“Service above Self”は「超我の奉仕」、日本のロータリーの創始者米山梅吉さんは、これを「サービス第一、自己第二」と訳しました。もう一つの“He profits…”は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と訳されていますが、これも「ベストなサービスをすれば、結果として最大の利益を得る。」ということです。

小倉さんの「サービスが先、利益は後」という言葉は、この二つのロータリーモットーを凝縮した言葉のように私には感じられ、ロータリアンであった小倉さんならではの言い回しではなかったかと思うのです。

実は、曾我ガバナー年度が始まる前、地区大会の記念講演に誰を呼ぶか、ガバナー・スタッフで検討したとき、小倉さんの名前も候補の一人として挙がりました。打診したところ、小倉さんはその時体調不良で、アメリカのお子さんの家で療養中とのことで、断念したのですが、小倉さんは山崎ガバナー年度の終わる日、明日から曾我ガバナー年度が始まるという2005年6月30日に亡くなりました。

ロータリアンの小倉さんとの交流が果たせなかったことが、今でも残念に思っています。

## 26) ロータリーとライオンズ(1)

今日は、先日の新会員セミナーでご質問があった、ロータリーとライオンズのちがいについてお話します。

最初にロータリーとライオンズにまつわるいくつかのエピソードをご紹介します。

### ① ライオンズの創始者メルビン・ジョーンズはRCの会員だった？

こういう噂が昔からあるのですが、これは嘘です。メルビン・ジョーンズがRCの会員であったという記録は残っていません。ジョーンズが入っていたのは、シカゴ・ビジネス・サークルという、当時よくあった、会員間の相互扶助を図る組織でした。ジョーンズはこのサークルのあり方にあきたらず、「仕事の問題を超えて、地域や世界をよりよくするために貢献していくべきだ」と社会奉仕をやるために、ライオンズを設立したそうです。ロータリーが会員間の相互扶助や親睦を旨とする社交クラブから、地域社会への貢献を目指す奉仕クラブへ発展していった経緯と似ています。

### ② メルビン・ジョーンズはポール・ハリスと同じ墓地に葬られている。

これは、本当です。シカゴ近郊のマウント・ホープ墓地に二人は葬られています。墓地の「正面ゲートの右には“ポール・ハリス記念の地”と記されたロータリー・マークがあり、奇しくも正反対の左門扉にはライオンズクラブのマークと創始者メルビン・ジョーンズのプレートが掛かっています。」(曾我ガバナー月信2005年8月号より)

### ③ ポール・ハリスの弟レジナルド・ハリスの話

ポールは5人兄弟で、ポールは次男、レジナルドは末っ子でした。

「一番下の弟レジナルドは数奇な人生を歩みます。国際ライオンズの文献によれば、1905年2月23日、ロータリーの最初の会合が開かれた際、その場所にレジナルドが同席しており、ロータリー最初の会合は4人ではなく5人であったと記載されています。その後レジナルドはララミー・ロータリークラブの副会長を経て、国際ロータリーの事務局に務めますが、1930年に国際ライオンズに移り、カリフォルニアやネバダのロータリー組織に壊滅的打撃を与えます。」(田中毅氏 『炉辺



談話』より) この話は、ロータリーでは「企業秘密」ですね。

さて、今日の本題の、ロータリーとライオンズのちがいについて。

『ウィキペディア』(ネット上のフリー百科事典)によれば、「ライオンズクラブ」とは、「世界最大の社会奉仕団体「ライオンズクラブ国際協会」に所属する単位クラブ。」とあります。ちなみに、「ロータリークラブ」の項目には「世界初の奉仕クラブ団体」とあります。(ライオンズはロータリー創立の12年後の1917年に創立。現在ライオンズは45,000クラブ、135万人会員。一方ロータリーは、34,000弱のクラブ、121万人の会員。)

『ウィキペディア』の記述には続きがあります。「…社会奉仕活動をロータリークラブ(国際ロータリー)のように職域や個人で行うだけでなく、チームワークを発揮して行うことによって有意義な効果をあげるようにと、ロータリークラブから分裂する形で組織された団体である。」

この中に間違いが2か所あります。1か所は「ロータリークラブから分裂する形」とありますが、これは、先ほどそうではないと申し上げました。

もう1か所は、「社会奉仕活動をロータリークラブ(国際ロータリー)のように職域や個人で行うだけでなく」という部分。このほうが重要な誤解です。

## 27) ロータリーとライオンズ(2)

私たちロータリアンの中でも、ロータリーは“ I serve”「個人奉仕」だ、とおっしゃる方が多いのです。これは、ライオンズのモットー“We serve”と比較したとき、ライオンズとは違うロータリーの「奉仕」の特徴を示す言葉としてロータリアンの間で多用されてきました。確かに“We serve”は、ライオンズの名前の由来とされるスローガンLiberty, Intelligence, Our Nations Safetyと一緒に掲げられているライオンズの唯一(?)の公式モットーです。ところが、“I serve”という言葉は、ロータリーの公式文献のどこを探しても出てきません。

ライオンズからは、ロータリーは「社会奉仕活動を職域や個人で行うだけ」と見られているようですが、もちろんロータリーは団体での奉仕活動を否定していません。でなければ、米山記念奨学会も、ポリオ・プラスも、そして、前橋RCの国際奨学生制度も行われなかったでしょう。“I serve”という言葉がロータリーの「奉仕」の本質を表しているとはいえません。

ライオンズには「職業奉仕」の概念がない?とおっしゃる方もいます。確かにライオンズには「職業奉仕」という言葉はありませんが、職業倫理を謳った立派な「道德綱領」があります。その「道德綱領」がロータリーの文献の中に混じっていても気がつかないぐらい、読んでも区別が付きません。

それでは、ロータリーとライオンズの一番の違いは何でしょうか。

ライオンズクラブ国際協会のウェブサイトを見ると、「ライオンズの奉仕」という項目があります。この英語ページでは、“Our Work”となっていました。

そして、その項目ページのタイトルが、“More Volunteers in More Places than Any Other Service Club Organization”「他のどんな奉仕クラブ組織よりも多くの場所でより多くのボランティア活動を」と謳われているのです。ライオンズのモットー“We serve”の「サーブ」は動詞形です。そして、ライオンズクラブでの奉仕活動は“Activity”「活動」と呼ばれています。ライオンズの「奉仕」は、活動をすることに主眼があるようです。

これに対して、ロータリーは、初期ロータリーの頃からサービスのあり方、質を追求してきました。

「職業奉仕委員会」ができる前（1927 年以前）、この委員会は「ビジネス・メソッド・コミッティ」と呼ばれていました。つまり、正しいビジネスの方法を探究する委員会です。「サービス」はその委員会の中核概念でした。正しいビジネスの中身がロータリーのいう「サービス」でした。

そして、現代ロータリーでは、サービス理念は「社会に役立つ価値を提供すること」「世のため人のために尽くすこと」という最も広い意味で使われるようになっていきます。私たちロータリアンは、そうしたロータリーのサービス理念の研鑽を例会や委員会活動や奉仕活動の中で行うわけです。

社会奉仕活動をすることに主眼をおくライオンズに対して、一人ひとりの動機を大切に、それぞれの職業を通じてサービス・レベルと自己の人間性の向上を図るロータリー、という違いになるでしょうか。

これで違いは明快になったかどうかわかりませんが、ライオンズの派手な広報を馬鹿にしたり、ロータリーの理念のほうが優れているとか自慢したりするのではなく、「世界最大の社会奉仕団体」であるライオンズの活動には敬意を表しつつ、ロータリーはロータリーで「奉仕の理想」の探求をこれからも自信を持って続けてゆくことが大事だと思います。

## 28) 大震災の直後に

東北・関東大震災と呼ぶのか東日本大震災と呼ぶのかわかりませんが、未曾有の大災害が先週3月11日に発生しました。被害の全容は未だ定かではありませんが、今私たちは人生最大の危機に直面していると認識しています。

会員の皆様・ご家族、そして事業所の被害はいかがだったでしょうか。

私の所属するヤクルト・グループの東北地方と茨城の販売会社も相当の被害が出た模様で、社員やヤクルトレディの死亡・行方不明が次々と報告されています。岩手と福島にある工場も操業再開のめどが立っておらず、商品供給でご迷惑をおかけすることも出てくると思います。また、ヤクルト本社は被災地に飲料30万本を届けるべく行動を開始しました。

会員の皆様の業務にも大きな影響が出ていると存じますが、政府が呼びかけている節電や燃料の節約など、できる限り協力してゆきましょう。

ご案内のように、本日は友好クラブである水戸RCの60周年記念式典にバスで出かける予定でしたが、無期限の延期となりました。水戸方面は人的被害はないものの、家屋やインフラで相当の被害が出ているようです。

例会後、臨時理事会を招集しております。そこで、今後の行事やクラブ運営、そして被災地支援について協議したいと思います。

今日は、海外メディアから寄せられた日本へのエールをご紹介します。「大自然からの打撃に遭っても生き延びる備えを、日本人がどれほどきちんとしているか指摘せずにはいられない」（米国ウォール・ストリート・ジャーナル）

「日本には最悪の事態に立ち向かう人の連帯がある」（ロシアノバヤガゼータ紙）

「日本は第2次大戦の荒廃から見事に復興した。また新たな奇跡を起こしてくれるだろう」（パキスタンネーション紙）

「日本以外でこの地震が起きたらこれだけの対応は見られないだろう」

「日本人はこの悲劇から立ち直る」（インド）

世界各国からの応援には勇気づけられます。本日は、こんな中、大勢の会員にご出席いただき感謝申し上げます。

## 29) 自粛から復興へ

本日は、友好クラブの新潟RC と水戸RC の方々をお迎えし、観桜家族会がにぎやかに開催されるはずであった日ですが、東日本大震災が発生し、やむなく中止といたしました。色々な趣向を考え着々と準備を進めてきた親睦・ロータリー家族委員会および作能会員、そして楽しみにしていた会員の皆様にあらためてお詫び申し上げます。

3. 1 1以降は例会も特別編成で行いましたが、月も改まりましたので、例会は通常モードに戻します。

今はロータリーの「奉仕の理想」の真価が問われている時ですが、東日本大震災の復興支援は、ひとつのロータリークラブの奉仕活動の範囲を超えており、年度を超えた長期的な取り組みになると考えています。復興支援についての情報提供やご協力のお願いは、今後も、この会長の時間で折に触れ申し上げます。

福田ガバナーより、ガバナー会を通じての「義援金」のお願いが届いています。この「義援金」は、全国のロータリアンのお見舞いの気持ちとして、被災地区に公平に素早く暫定的に自由に使える資金として分配することを趣旨としています。福田ガバナーからは、目安として一口1万円のご依頼ですが、もちろん会員の皆様の善意の寄付でありますので、額は皆様のご意思にお任せします。ご協力をよろしくお願いします。

2005年8月、米国にハリケーン「カトリーナ」が襲い甚大な被害が出ました。ルイジアナ州のニューオーリンズでは、48万人の市民に避難命令が出され、市内の8割が水没しました。その時ニューオーリンズのロータリークラブはどう行動したか。例会場は水没、会長宅も水没。例会場を失った彼らは、それでもかろうじて水没を免れた会員の事業所や、時に公園の片隅で例会を欠かすことなく続けたそうです。

大地震直後の3月15日の例会は、いつもと変わらない大勢の会員に出席していただきました。ロータリーは、仲間が集まること、集まって語り合うことが何より大事なことだと、改めて感じました。

4月からのクラブ運営は、自粛から復興の活動へ、活気と元気を取り戻すことを宣言します。

## 30) 会員満足度アンケートの結果について

今日は、2月1日の例会のときに皆様にお願ひした「会員満足度アンケート」の結果を、要点のみご報告します。本当はもう少し早くご報告しなければならなかったのですが、東日本大震災の対応のため、遅くなったことをお詫びします。

今回は合計で73名の方にご回答いただきました。2年前実施(2009年2月)のスコア(評価)と比べてアップした項目もダウンした項目もありますが、総じて、会員の皆様は、前橋RCの組織としての現状に満足していただいているようです。「明るく打ち解けた雰囲気である」(61.6%)、「現状に満足している」(54.8%)、「活発に活動している」(42.5%)、「自由闊達でオープンな風土がある」

(41.1%)などの項目が高評価でした。「前例主義である」(11.0%)という項目はスコアが半減し、逆に「変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である」(28.8%)という項目は3倍近くアップしまし

た。

ちょっと気になったのは、「あなたは、毎週の例会を楽しまれていますか」という問いに、「はい」と答えた方が前回の92.4%から82.2%に減っていることです。「いいえ」と答えた方の中に、次のような私の「会長の時間」に対する厳しいコメントを書かれた方がいらっしゃいました。

「RCの話が多すぎる」「私は、ロータリー生活は楽しむものと思います。勉強をしに来ていません」

「会長の時間がロータリーの勉強にかたより過ぎ」ご指摘は謹んで受け止めます。こうした感想を抱かれる会員がいらっしゃるの承知しておりますが、会長の時間にロータリーの話をしっかりしよう、というのは会長職をお受けしたときからの初志でもあります。前にも申し上げましたが、私の「ロータリー話」は、知識を披瀝することが目的ではなく、会長として、特にロータリー歴の浅い会員に、私が得心したロータリーの魅力を少しでもお伝えしたい、という思いでやっています。どうか、その時々々の年度会長の個性とお考えいただき、最後までお付き合いいただければ幸いです。

「会員満足度アンケート」の詳細な結果分析と課題の抽出は、本夕開かれるクラブ長期計画委員会に託します。年度中に長期計画委員会の報告をいただきたいと考えています。

### 31) 被災者支援の「義援金」

東日本大震災の被災者支援のための「義援金」をお願いしたところ、現在までのところ、93名の会員から94口94万円のご寄付をいただいております。また、すでにご報告していますが、当クラブが世話した元米山奨学生、台湾の劉シンウェイさんから支援金3,300米ドル(264,000円)をいただいております。曾我隆一パストガバナー令夫人からも支援金10万円を賜りました。ご協力まことにありがとうございます。

理事会で、これらのご寄付を含めて、当面の被災者支援を、クラブとしてどうするか検討し、以下のように対応することにいたしました。

前橋RCは、ガバナー会からの依頼による「義援金」として106万円(106口：会員数106人分)を指定の地区口座に振り込みました(4/20)。全国から集まった「義援金」は、緊急を要する被災地区のガバナー宛使途を限定せず直ぐに使える復旧のための資金としてお渡しすることになります。被災地区の個々のクラブのニーズに対応する支援金として有効に使っていただけると考えています。

また、前橋RCとして地域貢献のため、前橋市が募金している「東日本大震災に伴う被災者及び避難者の支援を目的とした寄付金」として、50万円を前橋市に寄付しました(4/22)。なお、既に被災地区にある友好クラブの水戸RCにお見舞金として50万円を送金しています。

これまで前橋RCが拠出した東日本大震災に対する支援金は、合計206万円です。これは、皆様からいただいた寄付金と、クラブ基金からの拠出をあわせたものです。

今回の対応は、長期化する復興支援の第1弾と考えています。地区もクラブも年度を超えた支援体制づくりが必要です。

私たちはこれからの日本人の生活・経済・産業・文化・思想に大きな影響を及ぼす未曾有の大災害に直面しています。6年前曾我パストガバナーは、曾我ガバナー年度のスタートに当たって、ロータリーは危機に直面しており、その存在価値が問われていると訴えられましたが、今こそ、「奉仕の理想」を標榜する職業人の集まりであるロータリーの真価を発揮するときではないでしょうか。

4月になっても、私の話は、震災対応のご報告に終始せざるを得ませんでした。残された2ヶ月で、多

少トーンは変わるとは思います。「ロータリー話」をしっかりとしていこうと思います。

## 32) 松下幸之助さんの話(1)

以前、私が最も尊敬するロータリアン経営者として、クロネコヤマトの創始者小倉昌男さん（銀座新ロータリークラブ）をご紹介しましたが、今日は松下幸之助さんのお話です。

私が若い頃、松下さんは既に「経営の神様」として持て囃されていましたが、若い私には松下さんの偉さがよくわかりませんでした。松下さんの偉大さが理解できたのは、私も経営者として様々な課題に取り組むようになってからです。

松下さんは、松下電器産業（現 パナソニック）の創業者として知らない人はいませんが、大阪ロータリークラブの篤実な会員でもありました。松下さんの背広の襟には、いつも松下の社章とともにロータリー・バッジが付けられていました。

大阪RC の例会にメークした人がSAA をやっていた松下さんにゲスト席まで丁重に案内されて恐縮した、とか、別のある人がメークしたときは、会場で席を探していたら、松下さんに手招きされて隣に座らされ、「君、松下君と呼んでくれたまえ」と言われて困った、とかのエピソードが残されています。松下さんが「奉仕」に目覚めたのは、昭和7（1932）年のことでした。ある人に誘われて天理教本部に見学に行ったとき、そこで生き生きと奉仕活動をする信者を見て、社会的使命のために働くことが幸福を導くことを悟ったのです。

松下さんが37歳のときでした。後に松下さんはこの年を「命知元年」と呼んでいます。

パナソニックのウェブサイトを見ると、今でも経営理念として、松下さんが昭和4年に掲げた「綱領」が載っています。

パナソニック 綱領 産業人タルノ本分ニ徹シ 社会生活ノ改善ト向上ヲ図リ世界文化ノ進展ニ 寄与センコトヲ期ス（昭和4年）

松下さんが昭和55(1980)年に書いた本の中で、「企業の社会的責任」とは何かを定義しています。

『企業の社会的責任』とは、

- ① 企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人びとの幸せに貢献していくこと。
- ② その事業活動から適正な利益を生み出し、それをいろいろな形で国家社会に還元していくこと。
- ③ そうした企業活動の過程が、社会と調和したものでなくてはならないこと。

これは、言わば松下幸之助さんのCSR論ですが、ロータリーの職業奉仕理念そのものにも思えます。

松下さんが奉じ実践した、社会貢献を目指す経営理念は、松下さんがロータリアンになる以前から一貫したものでした。以下に、松下さんが戦前に作った「商売戦術三十カ条」と戦後の第1次オイルショック後の不況期に作った「不況克服の心得十カ条」をご紹介します。

「商売戦術三十カ条」 昭和11(1936)年

第一条 商売は世の為人の為の奉仕にして、利益はその当然の報酬なり。

第二条 お客様をじろじろ見るべからず。うるさくつきまとうべからず。

第三条 店の大小よりも場所の良否、場所の良否よりも品の如何。

第四条 棚上上手は商売下手。小さい店でゴタゴタしている方却って良い場合あり。

第五条 取引先は皆親類にせよ。之に同情をもって貰うか店の興廢の岐るるところ。

- 第六条 売る前のお世辞より売った後の奉仕、これこそ永久の客を作る。
- 第七条 お客様の小言は神の声と思って何事も喜んで受け入れよ。
- 第八条 資金の少なさを憂うの勿れ。信用の足らざるを憂うべし。
- 第九条 仕入は簡単にせよ。安心して出来る簡単な仕入は繁昌の因と知るべし。
- 第十条 百円のお客様よりは一円のお客様が店を繁昌させる基と知るべし。
- 第十一条 無理に売るな。客の好むものも売るな。客の為になるものを売れ。
- 第十二条 資金の回転を多くせよ。百円の資本も十回廻せば千円となる。
- 第十三条 品物の取り換えや返品に来られた場合は、売った時よりも一層気持ちよく接せよ。
- 第十四条 お客の前で店員小僧をしかるくらいお客を追い払う妙手段はない。
- 第十五条 良き品を売ることは善なり。良き品を広告して多く売るとは更に善なり。
- 第十六条 自分の行う販売がなければ社会は運転しないという自信を持て。そしてそれだけに大いなる責任を感じよ。
- 第十七条 仕入先に親切にせよ。そして正当な要求は遠慮なく言え。
- 第十八条 紙一枚でも景品はお客を喜ばせるものだ。付けてあげるものがない時は笑顔を景品にせよ。
- 第十九条 店のために働くことが同時に店員のためになるよう、待遇その他、適當の方法を講ずべし。
- 第二十条 絶えず美しい陳列でお客の足を集めることも一案。
- 第二十一条 紙一枚でも無駄にすることはそれだけ商品の値段を高くする。
- 第二十二条 品切れは店の不注意、お詫びして後「早速取寄せてお届けします」とお客の住所を伺うべきある。
- 第二十三条 正札を守れ！値引きは気持ちを悪くするくらいが落ちだ。
- 第二十四条 子供は福の神—子供連のお客、子供が使いに来ての買物には特に注意せよ。
- 第二十五条 常に考えよ、今日の損益を。今日の損益を明らかにしないでは寝に就かぬ習慣にせよ。
- 第二十六条 「あの店の品だから」と信用し、誇りにされるようになれ。
- 第二十七条 御用聞きは何か一〜二の品物なり、商品の広告ビラなり持って歩け。
- 第二十八条 店先を賑やかにせよ、元気よく立ち働け、活気ある店に客集まる。
- 第二十九条 毎日の新聞の広告は一通り目を通しておけ。注文されて知らぬようでは商人の恥と知るべし。
- 第三十条 商人には好況不況はない、何れにしても儲けねばならぬ。

### 33) 松下幸之助さんの話(2)

「不況克服の心得十カ条」 昭和51(1976)年

#### 第一条 「不況またよし」と考える

不況に直面して、ただ困った困ったと右往左往していないか。不況こそ改善、発展へのチャンスであると考え前向きの発想から、新たな道もひらけてくる。

#### 第二条 原点に戻って、志を堅持する

ともすれば厳しさに流されて判断を誤りやすい不況時にこそ、改めて原点に戻り、基本の方針に照らして進むべき道を見定めよう。そこから正しい判断も生まれ断固とした不況克服の勇氣と力が湧いてくる。

### 第三条 再点検して、自らの力を正しくつかむ

ふだんより冷静で念入りな自己評価を行い、自分の実力、会社の経営力を正しくつかみたい。誤った評価が破綻を招くのである。

### 第四条 不退転の覚悟で取り組む

なんとしてもこの困難を突破するのだという強い執念と勇気が、思いがけない大きな力を生み出す。不況を発展に変える原動力は烈々たる気迫である。

### 第五条 旧来の習慣、慣行、常識を打ち破る

非常時ともいえる不況期は、過去の経験則だけでものを考え行動してもうまくはいかない。これまで当然のこととしてきた習慣や商売の仕方を、徹底的に見直したい。

### 第六条 時には一服して待つ

あせってはならない。無理や無茶をすれば、深みにはまるばかりである。無理をせず、力を養おうと考えて、ちょっと一服しよう。そう腹を据えれば、痛手も少なくなる。終わらない不況はないのである。

### 第七条 人材育成に力を注ぐ

「苦労は買ってでもせよ」というが、不況とはその貴重な苦労が買わずとも目の前にあるときである。好況のときにはできない人材育成の絶好の機会としたい。

### 第八条 「責任は我にあり」の自覚を

業績低下を不況のせいにしてはいないか。どんな場合でも、やり方いかんで発展の道はある。うまくいかないのは、自らのやり方に当を得ないところがあるからである。

### 第九条 打てば響く組織づくりを進める

外部環境の変化に対する敏感な対応は、よい情報も悪い情報も社員からどんどん上がってくる、お互いの意思が縦横に通いあう風通しのよい組織であってこそ可能となる。

### 第十条 日頃からなすべきをなしておく

不況時は特に、品質、価格、サービスが吟味される。その吟味に耐えられるように、日ごろからなすべきことをなしていくことが必要である。

いかがですか。私は、職業人としてもロータリアンとしてもブレることのない松下さんの強い信念を感じます。皆さんはどの条目に共感しましたか。

## 34) 女性とロータリー

今日は、後ほどロータリー情報・研修委員会の曾我隆一委員長が「ロータリーの糸で繋がった偉大な女性達」というテーマで卓話していただきますので、その前座をつとめます。

ロータリーの中核となる価値観の一つに「多様性」“Diversity”がありますが、女性会員を増やしてゆこう、というのもその「多様性」を重視する価値観に基づいています。

ロータリーに女性が入会を認められたのは1989年、今から22年前のことで、そんなに昔のことではありません。90

女性を入会させる動きは1970年代からありました。1977年、米国カリフォルニア州のデュアルテRCは当時のRI定款やクラブ定款に抵触することを承知で女性を入会させ、RIから除名されます。

1987年、米国連邦最高裁判所は、RCが性別を理由に女性を拒否できないという判決を下します。これ

を受けてRI は、ようやく「米国のクラブは、性別に関係なく、会員候補者を公正に検討するよう奨励する」という声明を発表しました。

全世界のRC で女性の入会が正式に認められたのは、その2 年後1989 年の規定審議会で、「RC の会員は男性に限られる」という定款の要件を削除するよう可決されてからです。

現在、全世界で約18 万人（15%）の女性会員が活躍していますが、日本のRC の女性会員の比率は約4 %、2840 地区もほぼ4 %です。前橋RC は現在4人の女性会員がいらっしゃいますので、3.7%ということになります。

私は、日本のロータリーの女性会員はまだまだ少なすぎると考えています。

帝国データバンクの調査では、2004 年、日本の企業全体で女性社長の比率は5.64%でした（群馬は4.44%）。その後の調査はないのですが、毎年少しずつ増加しているはずですが、専門職種では、10%を超える業種も増えてきました。たとえば、ドクターは2004 年の時点ですでに16.5%でした。

時代や産業構造の変化に対応して、職業分類表や未充填職業を見直し、新会員候補者を探索すれば、「自然に」女性会員が増えていくと考えています。

7 月から始まる板垣年度の次の年度は山田邦子会員が前橋RC 初の女性会長に就任されることが決まっています。今後、女性会員増強の機運が高まることを大いに期待しています。

### 35) 恰も一身にして二生を経るが如く

3.11 の東日本大震災から3 か月が経過しました。皆さんもそうだと思うのですが、あれ以来私の生活意識は一変しました。福沢諭吉が『文明論之概略』（1875）の緒言で「恰も一身にして二生を経るが如く…」と感慨をもらしています。自分の身は一つだが、明治維新の前と後では、まるで別の二つの人生を生きているようだ、と言うのです。

私は、3.11 以来福沢諭吉と似たような感覚を味わっています。私より一世代前のお生れの方々は、太平洋戦争の敗戦で同様の感覚を持たれたかもしれませんが、私は戦後生まれの団塊世代、これまでなにやら節目のない時代をふわふわと生きてきたような気がするのです。

今回の大震災は、自然の猛威の前では一個の人間は無力であることを思い知らされましたが、一方で、人を思いやり助け合う心が瞬く間に広がり、日本だけでなく世界中から力強い支援が寄せられました。私たちは明らかに新しい時代を生き始めています。これまでの価値観、生活スタイル、社会活動（経済・産業活動を含む）のあり方がよかったのかどうか根源的に問われているのではないのでしょうか。この一年、皆様に辟易されながらも続けてきた私の「ロータリー話」は、ロータリーが本来持っている力、可能性を再認識する試みでもありました。ロータリーの理念と実践が、この復興新時代を切り開き導く力を持っていることを、私は確信しています。

### 36) 会長としての年度総括

6 月に入ってこれまで2 週にわたって、理事・役員、各委員長の皆様に年度総括をやっていただいておりますが、今日が最終回です。そこで本日は、私の会長としての年度総括を行います。

年度当初に掲げた今年度の重点目標は以下の7 項目でした。

#### クラブ重点目標

1. 例会を充実し、出席率を向上させる。



2. 委員会活動（「炉辺会合」含む）を活性化する。
3. ロータリー研修（新会員・現会員）を強化する。
4. 「地域を育む」奉仕活動を実施する。
5. 親睦Fellowship を育み、ロータリー家族と交流する機会を増やす。
6. 友好クラブとの交流を推進する（新潟・水戸）。
7. 特別委員会として「クラブ長期計画委員会」を設置し、あるべきクラブ像を検討する。

1. の 例会の充実 については、例会の実出席率が年度前半（7月～12月）の平均が70.01%でした。後半（1月～6月）は東日本大震災の影響にも関わらず前半と同じく70%ほどで終えそうです。これは過去5年間の実績と比べても遜色ない数字で、会員の皆様が例会を楽しまれた結果だと考えています。ただ、2週間後の「修正された出席率」の回復には至りませんでした。次年度以降の課題です。
2. の 委員会活動の活性化 については、今日も含めて3回にわたる委員長の皆様の年度総括をお聞きになれば、おわかりの通りです。各委員長の皆様には、あらためて御礼申し上げます。
3. の ロータリー研修の強化 は、新設の「ロータリー情報・研修委員会」をお願いして、「炉辺会合」（7～8月）でのロータリー情報の提供、「クラブ新会員セミナー」（2月）でのロータリーの基本研修、「第1分区クラブ研修セミナー」（12月）の支援等、充実したプログラムを提供することができました。
4. の 「地域を育む」奉仕活動 は、地域社会奉仕委員会中心に、「まえばし学校フェスタ2010」（11月）を成功させたことに結実しました。この「まえばし学校フェスタ」は前橋市教育委員会、前橋市内6ロータリークラブとの共催で、第1分区全体の合同奉仕プロジェクトという意味でも画期的でした。
5. の 親睦Fellowship を育み、ロータリー家族と交流する機会を増やす については、毎回の夜間例会に趣向を凝らしていただいた「親睦・ロータリー家族委員会」の皆様に感謝申し上げます。
6. の 友好クラブとの交流を推進する については、新潟RCに加えて水戸RCとの交流も深めようと企画した観桜家族会（4月）を、東日本大震災の影響でやむなく中止にしたことが心残りです。新潟とは野球やゴルフでの交流も始まりましたし、北関東自動車道も全線開通しましたので、3RCの交流が今後一層深まることを期待しています。
7. の 「クラブ長期計画委員会」 は、板垣会長エレクトが委員長で、若手の皆さん中心に活発に活動していただきました。次年度も継続ということで、今度は私が委員長を務めます。

こうして、年度当初に掲げた目標を振り返ってみますと、ほぼ目標は達成できた、できないまでも一歩前に進むことはできたのではないかと思います。これもひとえに会員の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

以上、自画自賛の年度総括でした。

## 2.2 会長スピーチ 2

RI第2770地区 2013-14年度 川口西ロータリークラブ 会長 片岡 暎子

### 1) ロータリー年度のはじまりはなぜ7月か

リスボン国際大会から一昨日戻ってきたところです。時差ぼけで頭が働きませんが、原稿は出発前に書いたので心配ありません。国際大会については後日話す機会もあると思いますので、新年度のスタートする日ですので、本日はロータリーの新年度はなぜ7月1日に始まるか、についてお話しします。通常新年度は1月1日、会計年度は4月から、という例は多いと思いますが、7月1日と言うのは、なぜ、と思われるのではないのでしょうか。ロータリーが創始された当時のアメリカでは7月1日が新年度だった、などと言う人もいますが、そんなことはありません。

1905年にシカゴロータリークラブが誕生し、アメリカ各地でロータリークラブが設立されるようになりました。そうなりますと、いろいろなクラブが顔を合わせるconventionを開こうと言うことになりました。今はconventionを国際大会と訳しています。世界大会と言う人もいます。ですが、conventionには、国際とか世界と言う意味はありません。日本にもコンベンション・センターと言われる建物があり、大規模な会合が開かれています。

当時はアメリカだけにロータリークラブがありましたので、conventionは、単に大会です。ロータリークラブがカナダに広がってconventionは、international conventionとなり、現在に至っています。まだ、ロータリークラブのない国もありますので、世界大会より、国際大会がよいと思っています。

1910年8月18日に最初の大会が開かれ、ポール・ハリスがロータリークラブ全米連合会の会長に選ばれました。National Association of the Rotary Clubとっています。意味としては全国レベルのロータリークラブ連合体といったところです。全米と言っている通り、当時、米国だけにロータリークラブがありました。ロータリーの大会と言っても、登録者はたった60人、ささやかなスタートでした。ロータリーについて連合体Associationという観念は現在も生き続けています。

ロータリーにおいてはロータリークラブが主体性をもっているということです。

1910年11月にカナダのマニトバ・ロータリークラブが加盟しました。マニトバ・クラブは、ロータリーを国際的にしたクラブとして誇りをもっており、クラブ名と共にThe Club made Rotary International on November 3, 1910と称しています。

ロータリー全米連合会はロータリー国際連合会になりました。1911年8月21日に、ロータリー国際連合会の国際大会、International Conventionが開かれました。再度ポール・ハリスを会長に選びました。そのとき、ロータリー国際連合会の監査が行われました。監査人は、国際大会で報告するなら、会計年度を6月30日に終わらせてほしいと要望しました。1913年の4月の理事会で会計年度を6月30日に終了することを決めました。クラブ会員数や人頭分担金の支払い状況を決める日程が定まりました。国際大会はその後1917年まで7月か8月に開かれていました。

では、なぜ、7月や8月に国際大会が開かれたかと言いますと、ロータリーの機関雑誌のロータリアン誌は、several highly successful joint meetings of Clubs that are so situated as to assemble together easily and convenientlyと言っています。要するに集まるのに便利だった時期ということです。

7月や8月は夏のバカンスであり、出席しやすかったということでしょう。ですが、8月は暑いです。

1913年に6月30日を年度末にしようとして決定しながら、7月や8月は暑いねー、ということになりました。これは、は私の推察ではなくて、because of the heat in cities where most of them occurred.と書いてあります。

そこで1917年は、6月17日から21日にアトランタで開かれました。このとき、ロータリー財団の前身であるロータリー基金が提案されました。ですから2017年国際大会はロータリー財団100周年となり、アトランタで開かれます。ぜひ出席してロータリー財団100周年を祝いたいものです。

既に1913年に会計年度を6月30日に終えると決定していましたが、その決定は変えずに現在に至っています。今後ロータリーの会計年度を変えることができないか、と言いますと、規定審議会に制定案を提出し、3分の2の賛同を得れば、変更できます。ですが、システム上多分無理でしょう。ロータリー一年度はRotary Yearと言ひ、国際ロータリー定款にロータリーの会計年度は7月1日より始まると明記されています。1月1日から始まる年度を言いたいときは、Calendar Yearと言ひます。

## 2) 新年度の抱負

本日は新年度の抱負について述べたいと思います。通常、新年の抱負は1月1日に決意するもので、英語ではNew Year's Resolutionと言ひます。実は1月1日に立てた私の抱負がHappy as a larkでしたので、それをそのまま川口西クラブへの私の1年間のメッセージとさせていただきます。いろいろ行き届かないこともあると思いますが、陽気に1年を送りたいと思っています。年齢を重ねてきますと、大体今年も無事元気でいたいと願うものです。誰しも、過去のことを振り返るのは好きなのではないかと思ひます。古き良き時代などよく言ひます。英語でもGood Old Daysと言ひますので、昔のことが美しく見えるのは万国共通のことではないかと思ひます。昔のことでも未来でも、陽気に語り合える明るいクラブづくりが私の目標です。特に日本のロータリーの場合、発展のときを終え、会員数の減少に直面しています。ロータリーとは何か、考え直す時期かと思ひます。

ロータリークラブは、原則、職業人によって構成されてきました。過去形です。引退者でもボランティア活動家でも、7月1日からは主婦でも入会は可能です。主婦にできないことがあるでしょうか。クラブ奉仕だって、社会奉仕だって、国際奉仕だって、青少年奉仕だって、主婦のほうに立派にするかもしれません。ちなみに規定審議会の決定で新世代奉仕は青少年奉仕に戻りました。自分の職種を代表し、自分の職種の倫理性を高める、という職業奉仕が主婦にできるか、ということが問題です。

職業奉仕そのものが変質し、優良企業訪問や青少年の職業相談が職業奉仕となるように変わっていくと、失望するロータリアンがいるのではないかと心配です。ともかくロータリーはどんどん変わっていきます。

ロータリー史上初めて、女性の国際ロータリー副会長が誕生しました。アメリカの南カロライナ州のコロンビア東ロータリークラブのAnne Matthew氏です。

100人以上の会員を擁するクラブと20名そこそこのクラブの運営が同じであるはずありません。そこで、国際ロータリー推奨のクラブ・リーダーシップ・プランを本年より全面採択としました。

ロータリーはそもそも無理を言ひません。ですから、ロータリーにはノーがないのです。余力、surplusのある人は、ここぞと力を注げばよいし、余力の少ない人は、他の人の力を借りればよいのです。この余力は財政力だけでなく、他のスキルも含まれます。ロータリーは、自分のスキルを発揮する場を提供してくれます。

最近の国際ロータリー会長は、会員増強と財団寄付のみ強調します。現在の国際ロータリーの目標値は、1人当たりの寄付100ドル以上と会員純増1名、クラブ会長の寄付です。

奉仕事業はどうかといいますが、計画年度と実施年度の2年間があり、今年度の地区補助金とグローバル補助金は既に前年度に承認されましたので、今年、実施の運びとなります。ぜひ成功させたいと思います。地区補助金は、台湾の小学校との絵画交換、グローバル補助金はブラジルの公立病院に火傷の予防、皮膚移植器具を送るもので、6月26日に、すべての事務手続きが完了しました。そのほかに、献血事業と小さな善行者の表彰事業があります。川口西クラブの会員数を考えますと、これだけであれば立派なものであると胸を張れます。同時に、本年は、田中峰吉会長エレクトの奉仕事業の計画年度にあたります。どのような事業を選ばれるか分かりませんが、できる限り、サポートしたいと思っています。クラブ奉仕と職業奉仕は、ロータリー・カフェでカバーできるとしています。青少年奉仕がないではないか、と思われるでしょう。これがクラブ・リーダーシップ・プランなのです。身の丈にあった奉仕活動です。

日本事務局がロータリーの友、米山記念奨学会の近くに移転しましたので、そこを巡るツアーも悪くないと思っています。青少年奉仕についてはイムル君をRYLA (Rotary Youth Leadership Award) に送り出そうと思っています。

RYLAは青少年の指導力を伸ばすためのプログラムで、キャンプに行ったり、研修会に出席するものです。

これだけの奉仕活動を完了し、同時に、次年度の準備をサポートし、できれば川口西クラブのネット化を推進したいと願っています。

### 3) リスボン国際大会報告

6月23日から26日までに第104回国際大会が開かれました。ロータリーは1905年に誕生し、1910年から大会を開いています。単純計算ですと、103回目になるはずですが、計算が合わない、などと思うのは私だけでしょうか。初期の頃、1年に2回開いた会長が2人いて、一度も開かなかった会長が1人いるからです。

ロータリーのいろいろな規定は組織が大きくなるにつれ整備して、その都度、世界の状況に合わせて現在に至ったものです。日本人が国際ロータリー会長を務めた今回の国際大会、胸が熱くなる思いで開会式と閉会式を見届けました。ともあれ無事1年が終わったことを田中元RI会長にお祝い申し上げたいと思います。

最近の国際大会で投票するような議題はないのですが、川口西ロータリークラブの信任状を持参し、このような投票代議員バッジを受け取りました。このバッジをつけていますと、国際大会会場に指定席が用意されます。

昔は、黒人を入会させない、などとクラブ定款に明記しているクラブがあり、国際大会の最中にそのことをテレビで報道され、緊急制定案として、人種、肌の色で差別してはいけない、と言う制定案が提出され、そういう場合、この代議員バッジで賛否を投票することができました。ここ数10年、そんなこともなく、大体、この代議員バッジは形式になっています。

今年3月にブエノスアイレスの大司教のホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿(76)が第266代ローマ法王に選ばれましたことは、まだ記憶にあると思います。法王としての名はフランチェスコ1世で、

南米からの法王選出は初めてのことで、世界約12億人のカトリック信者を率いています。国際大会に出席中に知ったのですが、このローマ法王は、アルゼンチンのアルシーフェス・ロータリークラブの会員です。このクラブはルイス・ビセンテ・ジアイ1996-97年度RI会長の所属クラブで、ジアイ夫人が今年度から国際ロータリー理事を務めます。初めて夫婦で国際ロータリー会長になるかと注目されているカップルです。

国際大会では、いろいろな方がスピーチをしていましたが、その1人がクレイグ・キールバーガー氏です。過去3回ノーベル平和賞にノミネートされています。カナダ出身で、1995年、何と12歳のとき、新聞で『児童労働廃絶を訴えるパキスタン人の少年、殺される』を読み、子供による子供のための国際協力団体のFree the Childrenを立ち上げました。後に、Me to Weの共同設立者となります。

Free the Childrenは子供たちに自由を、と言った意味で、児童労働の廃止に取り組んでいます。Me to Weが興味深い名称です。Meというのは私に、Weは私たちが、と言う意味です。つまり、何か私にしてもらいだけでなく、私たち皆で何かしようと意味でしょう。みんなの力で世界を変えようと言う団体です。

私、このような団体が存在することすら知らなかったのですが、非営利団体でなく、営利団体で環境に優しい衣服や工芸品などを販売しています。その収益はFree the Childrenに投入しています。寄付だけに依存せず、しっかりしているな一と言う印象を受けました。

現在30歳くらいで、クレイグとマークという兄弟がまだ10代だった頃、エクアドルの貧しい地域に学校を作ろうとしました。地元の子供たちもボランティアで参加し、学校は簡単に建設できそうに見えました。ところが問題が発生します。農村の収穫期に入り、誰もが収穫に追われ、学校どころではなくなり、計画は頓挫します。

2人がカナダに戻る時期は後2日に迫っています。途方にくれ、村の最長老の女性に相談します。その女性は『明日はMingaだ』と言いました。Mingaなんて二人にはわかりませんでした。最長老の女性の言葉にも関わらず、いつものと同じように1日が終わりました。がっかりしていると、夜中から、収穫期にもかかわらず、いろいろな年齢層の人が何時間もかけて歩いて大勢集まり、学校が完成しました。

M i n g aとは、みんな集まってみんなのためになることをしようと呼びかけることを意味していました。ロータリー財団の標語の世界でよいことをしよう、みたいだと思いました。このことがきっかけとなって、Me to Weと言う団体が創設されたということです。みんなで世界を変えようというMe to We、かなり説得力がありました。

“Me to We”、みんなで世界を変えようという考え方、ロータリーに共通点があります。事実、みんなでなければ、世界は変わるはずありません。“Me to We”は指導者の育成を使命として掲げていて、ロータリーのRYLAに似ています。こういう団体があるということを知っただけでも、今回のポルトガルへの旅が単なる観光旅行でなかったと思えます。

次回はシドニーです。リスボンよりは行きやすいと思います。ご一緒に行きませんか。

#### 4) 「ロータリーの世界」について

参院選は自公圧勝で、ねじれ解消となりました。このねじれ、英語で何というのでしょうか。直訳でtwistと言うと意味が分かりません。意味をとって、divided Dietというようです。参議院と衆議院で議員数が逆転しているという意味が分かるように訳します。別に私が訳したわけではなく、英字新聞はみ

なdivided Dietを使っています。

ロータリーの世界の話をさせていただきます。ロータリーで私たちが守らなければならない最も大切なことは何でしょうか。昔でしたら例会出席と答える人が多かったでしょう。

現在のロータリーは、いろいろ規制すると会員が減ってしまうと恐れ、あまり出席を強調しません。戦略計画でも、中核的価値観は、親睦、奉仕、高潔性、リーダーシップ、多様性です。正直言って、こんなに腰が引けて、どうすると思っています。親睦、奉仕、高潔性、リーダーシップ、多様性は、すべて出席から生まれるはずです。

本日は、お暑い中、出席規定、英語でattendance ruleについて話そうと思っています。出席規定に伴い、規定審議会の出席に関する改正について触れなければなりません。規定審議会とはCouncil on Legislation, 通称COLと言っています。略語にするときonを通常省きません。川口西クラブで使うLAは、leave of absenceの略語ですが、私、使うのに、いつも、ためらってしまう言葉です。oがないからです。規定審議会は3年に1度開かれロータリーの規定を改正するロータリーの立法機関です。まず、自分のクラブ、ホームクラブで開かれた例会総数の30%に出席しなければなりません。ホームクラブとは、私たちの場合、川口西クラブのことです。ホームクラブに欠席した場合、欠席日の前後2週間以内に他のロータリークラブの例会やいろいろな会合に出席しなければなりません。これをメイクアップと言います。自分のクラブとメイクアップを合わせて、50%の出席率が必要です。これが基本中の基本です。メイクアップはもちろんメーキャップと言っているのですが、女性の化粧みたいだと言う人もいて、メイクアップとか出席補填と言います。他のロータリークラブのほかにもどのような会合がメイクアップの対象になるでしょうか。地区の会合、IM, クラブ理事会が承認した会合などです。地区の会合のうち、地区大会が2日にわたって開かれた場合、2回分のメイクアップとなります。国際大会も2回分のメイクアップとなります。

こんなに、緩やかな規則なのに、まだ出席できかねる人がいます。そのための対策が講じられました。イベントや奉仕活動に半期12時間参加することでも出席率をすべて満たしたことになります。川口西クラブは毎年9月に献血活動をしています。最初から最後までいると9時間くらい参加することになるかもしれません。献血の準備のための会合を、クラブ理事会がメイクアップとなる会合と承認し、これに参加しますと、半期6カ月間の出席を献血だけで満たすことができます。こんな提案をするのは、どこのクラブだと思いましたが、オーストラリアのロータリークラブでした。退屈なスピーチを聞き、食事代を払うのはつまらない、などと理由をあげています。無礼者と言いたいところですが、規定審議会で過半数が賛成したのです。外国では食事の費用は会費に含まれていませんので、こう思うクラブがあったということでしょう。

また、誰しも病気になって、長期にわたって休むこともあるかもしれません。そのための規定もあります。出席規定の免除です。1年間認められていました。その1年を伸ばそうと言う提案がアメリカのクラブから出されました。その理由は、真珠湾攻撃を生き抜いて、ロータリーの例会に欠かさず出席していた会員が、例会に出席できなくなり、出席免除をとり、その免除期間の1年を過ぎたからと言って退会させたくない、という理由をあげていました。今更真珠湾攻撃などといって、びっくりしますね。これで出席免除の期間が1年を超えてもよくなりました。また従来は65歳以上の年齢ですと、ロータリー歴と年齢の合計が85を超えていれば、出席免除を得られましたが、この65歳が削除されました。要するにロータリー歴と年齢の合計で85以上ならよいということです。これはクラブ定款の規定です。これが

今回の出席免除についての改正です。多分、川口西クラブは、この二つのうちの前者をLAと言っているように思えますが、この出席免除の英語はExcused Absenceです。意味から言いますと言いつける欠席、以前はexemption、文字通り免除と言う英語です。クラブ定款第9条第3節にあります。この規定があれば、LAは不要と考えます。LAの規定がどこにあるかといいますと、クラブ細則です。クラブ定款は、クラブ細則より規定としては上位に位置します。Leave of Absence 日本語訳は少し長くて出席義務規定の免除です。これは正当かつ十分な理由をつけてクラブ理事会に申請するものです。これは1年限りです。私の推測では、川口西クラブは、まず、クラブ会員にLAを申請してもらいます。クラブ理事会で協議して、クラブ定款の下で、出席を免除した、という2段階を踏んだのではないのでしょうか。川口西クラブで現在LAの会員は、いきなり、クラブ定款の条件を満たしていますので、Leave of Absenceでなく、Excused Absenceにしようと言うのが私の考えです。2月のクラブ理事会で審議してみたいと思います。

何か、今日は英語尽くしの会長挨拶になりましたが、LAというとロサンゼルスと誤解する、と前から思っていて、いつか、きちんと説明したいと思っていました。

ではLAはどういうときに使うのかと言いますと、仕事が忙しい、一身上の理由で出席できないと言う人のための救済措置です。今回の規定審議会の改正に不満は残っても、救済措置なら、ロータリーの寛容で許せないこともなさそうです。

出席規定はまだありますので、後日、この復習と続編を行いたいと思っています。1年間、会長挨拶をお聞き逃がしなれば、ロータリーのことが理解できるので得ています。理解できればロータリーが好きになると思います。会員数が少なくても、Happy as a Lark 陽気にロータリーを楽しみましょう。

## 5) 寛容について

本日は今年度初めての移動例会で夜間例会です。移動例会は夜間と決まっているわけではないので、夜間以外に開くことも考えています。

山口県や島根県では記録的な豪雨で亡くなった方もいます。ロータリー財団に在職していたとき、世界的な大規模な災害が発生したときは、ロータリーとして救援基金を設立するのか、クラブや地区の独自の判断にまかせるか、ロータリー財団の方針の下に対応する必要がありました。ですから、災害と言いますと、ロータリーにおいて自分が何をしていたかを思い起こします。

北海道の奥尻で大地震が発生して、20年経過しました。当時、私は、翻訳室長で、札幌で開かれた地区大会で、講演者として招かれました。翻訳室というのは、ロータリーの5大奉仕で言えば、クラブ奉仕に相当し、地味で事務局内で仕事することが多く、地区大会での講演は初めてのことでした。多分、難解な話をしたと思います。その地区大会で、北海道のロータリアンの奥尻地震被災者の救援活動のビデオを見て、ロータリアンの奉仕活動に感動しました。

さらに、非常に温かく迎えていただきました。ロータリーについて語り合おうというロータリアンが何人も私の北海道訪問を待っていてくれました。北海道には二つの地区があり、この縁で、両方の地区を度々訪れるようになりました。

1995年の神戸の大震災のときも、私は、翻訳室に所属していて、米山奨学生が山の上に住むロータリアンのところまで、水を運んだり、ロータリアンが炊き出しをしている様子を、当時発行されていたRotary News Basketを通じて、世界中のロータリアンに伝えていました。国際協議会の寸前でしたが、

神戸のロータリアンは国際協議会に出席しました。

東北大震災のときは、ロータリーを退職してしまして、テレビで東北人の忍耐強さをみて、ポール・ハリスの語った寛容 Toleration を思い起こしました。Tolerationは、不本意ながら受け入れる、という意味があり、我慢に通じます。アメリカ生まれのロータリーが日本に根を下ろしたのは、Tolerationの風土がもともと日本にあったからだと痛感しました。そう考えますと、日本の会員減少は、日本人の我慢が減ってきたせいもあるのではないかと思います。山口県の放火殺人事件を見ても、その思いが強くなります。

リスボン国際大会では、盛岡北クラブの田口パストガバナー夫妻と話す機会があり、震災のその後について話を聞きました。

皆さま、ロータリー財団に寄付したり、ガバナー会に寄付したりしました。こういう寄付は、いろいろな制約の下で、救援活動に使われます。米山の学友からの寄付もあったそうで、その人たちは、被災したロータリアンに渡してください、と言ったそうです。ですが、私たちには、超私の奉仕が染み付いています。Toleration、寛容、我慢の心もあります。なかなか、被災ロータリアンにお金を受け取ってもらえず、苦勞して1人5万円をやっと渡したそうです。

私、退職して、もう3年半くらい経ちますのに、顔を合わせば、以前と変わりなく、語り合える、これがロータリーの良さだと思っています。

個人的なことですが、私、パソコンがこわれまして、修理に出していますので、メール等みていません。返信せず、失礼してしまいましたら、お詫びします。

食事を前にして、そろそろ皆さまの寛容も限界かと思いますので、終わりにします。本日は楽しんで下さい。

## 6) ロータリーの目的に青少年奉仕が加わる

8月は会員増強および拡大月間です。英語で言いますと、Membership and Extension Monthです。会員増強の英語はmembership developmentです。この英語、ロータリーを知らないアメリカ人に言うと、必ずしも私たちの言うような会員を単に増やすこととは思われません。会員を英語で言いますと、memberです。Membershipとなると、どういう意味になるのでしょうか。会員数とか、会員資格とか、ちょっと意味が変わります。増やすと言う英語なら、developmentを使わず、increaseやgrowthでもよさそうです。先進国ならdeveloped countries、開発途上国ならdeveloping countriesです。Human developmentは、人材育成という意味になります。membership developmentの意味は、単に会員を増やすことではなく、会員の資質を伸ばすと言う意味もこめられていると解釈すべきだと思います。それで翻訳に際しては、増強とし、増加と言う言葉を避けました。それでも英語と日本語訳、少し、意味がずれています。ですから、手続要覧には、意味、解釈について疑義が生じた場合、英語版が正文となる、と明記されています。ロータリーの規定には白か黒かと言いがたいものがあります。グレイ・ゾーンがあります。そういった点で疑問があるときは、訳文でなく、英語を見なさい、と言っているのです。

ロータリーには、会員増強および拡大月間を含め、年間10の月間が特別な事項を強調するために指定されています。7月と5月を除いて毎月あります。このような月間を特別月間と言います。誰が、このような月間を指定するのかと言いますと、国際ロータリー理事会です。会員増強および拡大月間は、新年度で最初の特別月間です。一朝一夕に会員を増やせないから8月から会員増強を強調しておけば、年度内



に、その成果が現れるのではないかと期待されています。

会員増強および拡大月間には三つの要素があります。一つは、文字通り、会員を増やし、単なるロータリークラブ会員をロータリアンにすることです。二つ目は、会員が退会しないような楽しいクラブをつくることです。三つ目が、新クラブをつくることです。一つ目を内部拡大と言うのに対し、三つ目は外部拡大と言います。単に拡大と言ったときは、外部拡大を指します。新クラブを作ったクラブをスポンサークラブと言います。新クラブが立派に機能、運営するよう指導しますので、親クラブと言ったりしています。川口クラブが、川口西クラブのスポンサークラブで、川口西クラブが川口中央クラブのスポンサークラブですので、これを、親、子、孫にたとえ、3世代と言っているようですが、この方が、スポンサーというカタカナ語を使うより分かりやすいかもしれません。テレビ・コマーシャルの提供者をスポンサーと言っていて、ほぼ日本語になっていますが、ロータリーで使っているスポンサーの用例を見てみたいと思います。新会員のスポンサーと言いましたら、新会員を推薦、指導し、相談に乗る、と言った意味になります。これだけの意味を一語でいう日本語はないと思います。

ロータリーには青少年のクラブとして、インターアクトクラブとローターアクトクラブがあります。インターアクトクラブは、12歳から18歳までの青少年のクラブ、大体高校生レベルの人を対象とするクラブ、ローターアクトクラブは、18歳から30歳までの大体大学生と若い職業人を対象とするクラブです。こういったクラブをつくりますと、やはり、スポンサークラブになります。ですが、スポンサーと訳しますと、よくコマーシャルで、スポンサーのご好意でとか、スポンサーのご提供と言いますので、青少年たちが何かロータリーが提供してくれるか、と勘違いすると言う苦情があり、インターアクトとローターアクトについては提唱と訳すことに決めました。何か偉そうな言い方をしていますが、私、翻訳室長でしたので、ロータリー用語の日本語訳を決める立場にいました。

以前、研究グループ交換GSE、現在は職業研修チームVTTの場合、のスポンサーと言いましたら、派遣、送り出すほうを意味します。では受け入れは何と言うかといいますと、ホストです。奨学金をあげる学生を選び、海外に送り出すほうは、寄付もしていますし、奨学生も推薦しています。ですからスポンサーになります。海外から日本に来た奨学生を受け入れるほうは、ホストです。スポンサーとホスト、どちらが大変かと言いますと、骨を折るのは大抵ホストのほうです。奨学生を送り出すスポンサーは、送り出せば、ほとんど任務は終わります。ホストは、一定期間、奨学生の親代わりとなり、面倒を見て、何か問題が起きれば、責任をとります。大変だと思います。

ロータリー財団のグローバル補助金は2カ国以上で実施します。日本のクラブがブラジルのクラブと協力して、ブラジルの病院を援助するとします。この場合は、どちらがスポンサーで、どちらがホストでしょうか。両方の国のクラブがスポンサーです。これは、2カ国のクラブが、援助を待つ人々や団体を、力を合わせて支援する、と考えれば両方、スポンサーで納得できると思います。ですが、ブラジルのクラブは、ホストスポンサーとなります。つまり実施地のスポンサーです。では、日本のクラブを何と言うかといいますと、International sponsorです。海外の援助提供者と言った意味になるでしょう。ホストスポンサーは、現地で汗を流す活動をします。International sponsorはお金を出し、書類手続きをするだけと思われがちですが、ひとたび問題が起これば、連帯責任となります。例えば、川口西クラブが、グローバル補助金の相手クラブの不手際に責任を取らなければならないとします。責任の取り方は弁償することか、と免責手続きをとるか、二つありますが、これを怠ると、両ロータリークラブは除名されてしまいます。そんなことのないように、地区はクラブを指導します、と言うのが建前で

す。過去の例を見ますと、あまり地区は援助してくれません。クラブの自己責任となるケースがほとんどです。

IMを開く場合、主催クラブはホスト・クラブで、協力クラブは、コ・ホスト・クラブです。大体スポンサーとかホストの意味がつかめたでしょうか。ロータリー用語、英語と一緒に覚えると、何かと便利です。ロータリー用語は、そんなに簡単には分からないかもしれませんが、1年間、私の話にお付き合いいただければ、理解できるようになると期待しています。分からなかったとしても、がっかりしないで下さい。分かる人に聞けばすむことです。ロータリークラブのよさは、多様な会員の力を活用し、助け合うことです。分からないことは遠慮なく聞いて下さい。分かる限り、お手伝いしたいと思っています。ロータリーの創始者のポール・ハリスは言っています。無愛想な対応は、親切な対応と同じくらい簡単に身に付く。いつも無愛想にしていると、習慣になります。親切な対応も、それと同じくらい、簡単に習慣になるということでしょう。これ、私の座右の銘ですので、私、極めて、親切なクラブ会長です。

## 7) 新世代月間に因んで

9月は新世代のための月間です。ロータリーは、いろいろロータリー用語があり、新会員の方には、とっつきにくいと思います。新世代とは30歳までの若い人を意味します。川口西ロータリークラブに入会して、これは高齢者のクラブだと感じておられるかもしれません。ロータリーも、そのことを十分自覚していて、若い人の言うことに耳を傾け、若い人と共に活動しようという趣旨を強調する特別月間として、9月を新世代のための月間と指定しています。

新世代には4つのプログラムがありますので、一応、次のように分けています。9月1日から7日がローターアクト、9月8日から14日が青少年交換、9月15日から21日がRYLA、9月22日から28日がインターアクトです。ローターアクトは、大学生から30歳までの社会人のためのクラブ、インターアクトは12歳から18歳までの大体高校生レベルの学生のクラブです。青少年交換は15歳から19歳の青少年を海外に派遣したり、受け入れたりするものです。RYLAは、14歳から30歳までの青少年の指導力を育成するものです。年齢層が広いので14歳から18歳、19歳から30歳までの2グループに分けて実施するのが普通です。これが新世代プログラムの概要です。これは、いずれ覚えて下さい。

ロータリークラブ会員をロータリアンと言うように、ローターアクトクラブ会員をローターアクターと言います。22歳のローターアクターの意見がロータリーのホームページに載っています。既にお読みになった方もおられるかもしれませんが、日本語訳が載っていなかったようですので、紹介いたします。この青年は、ロータリーが野球のようになってほしくない、と言っています。野球は米国で愛されていますが、定期的に野球を観戦する人はあまりいない、と言っています。野球は、スピードに欠け、退屈で、遅からず時代遅れになる、と言っています。皆さまは、どう思われますか。異議を唱えたいでしょうか。この青年は、ロータリーの最も力強いメッセージは、「ロータリーの力で世界を変えることができる」だと思っているが、ロータリークラブの会合で、こういうことが言われるのを聞いたことがない、と嘆いています。私くらいの年齢になりますと、ロータリーの力で世界を変えることができる、などと言えません。ロータリーの援助を必要としている人あるいは地域の役に立ちたいと願っています。このようなささやかな願いは、若い人にとって魅力がないのでしょうか。ですが、いろいろな考えやアイデアを出し合うのがロータリーのよさだと思っていますので、若い人のロータリー観を聞くのも興

味深いと思います。

私、9月は新世代のための月間と言っています。ロータリーの規定は、3年に1度開かれる規定審議会で、改正することができます。2013年規定審議会で、新世代奉仕は青少年奉仕と言う普通の言葉に変わりました。規定審議会の決定は新世代奉仕を青少年奉仕に変えるというもので、新世代と言う用語をすべて青少年に置き換えるというわけではありません。こういうとき、国際ロータリーはどのような手続きをとるのでしょうか。国際ロータリーも、ロータリークラブと同じように委員会と理事会があります。理事会のほうが上位に位置し、委針の枠内で活動します。何か委員会が名案を思い付いたとしても、理事会の承認を得なければ、何もすることはできません。これは予備知識として覚えておいて下さい。

そこで、現在、国際ロータリー理事会が国際ロータリー新世代委員会に、青少年と言う言葉をどのようにプログラムや文書にいれていくか討議するよう要請していて、委員会は討議し、その結果を国際ロータリー理事会に報告します。その後、国際ロータリー理事会が決定するという手続きをとるといふ段階にいます。国際ロータリー理事会の言い分は、取りあえず、奉仕部門の名称が新世代から青少年に変わったので、これは改正しました。他の新世代プログラムなどの言葉は、委員会手続きを踏み、理事会が承認してから効力を発します。ですから、今年の9月は新世代のための月間です。

川口西ロータリークラブは、先に、こうした若者をロータリーの綱領、ロータリーの目的の第5項として加えようと言う提案を世界に提出しています。少し複雑ですので、詳しく説明したいと思います。ロータリーには五つの奉仕部門があります。その5番目の奉仕部門の名称を新世代奉仕から青少年奉仕に変えると言う改正がありました。先に申し上げましたように、奉仕部門は5部門、あります。ロータリーの綱領改めロータリーの目的は4項目です。整合性に欠けると考え、川口西クラブは、ロータリーの綱領に新世代と育成に関する第5項目目を追加する件、という制定案を規定審議会に提出しました。これは13-65と呼ばれるものです。これは国際ロータリー定款を改正しようというもので、世界中の地区から選ばれた代表議員の3分の2の多数を得なければ採択されません。インド、マレーシア、ナイジェリア、アルゼンチンが合同で13-64と言う類似の制定案を提出していましたので、文言を修正する動議が出され、298対196で採択されました。修正動議は過半数で採択されますので、国際ロータリー理事会付託となりました。国際ロータリー理事会は6月の理事会で文言を直し、2016年規定審議会に、国際ロータリー提案の制定案として提出することを決定し、先日、その連絡を受け取りました。国際ロータリー提案ですと採択される確率は、90%くらいです。採択されますと、川口西RCの提案に世界中のロータリークラブが従うことになります。

規定審議会は、3年に1度開かれるロータリーの立法機関ですが、3年に1度ロータリーのルールが改正されます。どのような改正があるかしらと待つのでなく、積極的に、改正を提案していくべきものだと思います。日本的すぎて、世界では受け入れられないものもあるかもしれません。ですが、日本の考え、意見を表明する機会ととらえたいと思います。ロータリーの綱領、目的について原稿を書いていたら、長くなってしまいましたので、来週、献血ですので、再来週、また、この続きを取り上げて見たいと思います。楽しみにして下さい。人間、いくつになっても、探究心を持ち続けましょう。

## 8) AttendとParticipateの違い

2020年の東京オリンピック開催が決まりました。私たち、7年後もロータリアンでいて、移動例会でオリンピックを見たいものだと思います。近代オリンピックの創立者と言われるクーベルタン男爵は、

「オリンピックは、勝つことではなく参加することにこそ意義がある」と言いました。フランス語で言ったわけですが、この参加はparticiperですが、英語ではparticipateです。

例会に出席するのは英語でattendですが、本日は献血と言う社会奉仕事業ですので、participate参加になります。本日は、このparticipateを覚えましょう。

国際ロータリーは毎年新しい事業を実施することを奨励しています。時代は変わり、ニーズも変わるのに、ロータリークラブが同じ事業を繰り返すのはマンネリだと考えています。確かにマンネリと思いますが、この献血事業は、川口西クラブが多年にわたり、練り上げてきたものです。国際奉仕事業は、それに携わる少数の人しか関心を寄せません。献血プロジェクトは、大勢のクラブ会員が参加しますので、ロン・バートン国際ロータリー会長が言うEngageです。また、これがfellowship親睦と考えています。

本日は献血プロジェクトにご参加いただき、ありがとうございます。最後まで、よろしくお願いします。

## 9) 英文の「コロンとセミコロン」の違い

新会員は、入会のさい、ロータリーの目的を受諾します。ですから、ここにおられる皆さまは、ロータリーの目的を受け入れているわけです。ロータリーの目的は、今年の7月1日から、綱領という訳語が目的に変わりました。川口西クラブは、ロータリーの目的に第5項を加える制定案を2013年規定審議会に提出し、修正動議を経て、理事会付託となりました。国際ロータリー理事会は、2016年規定審議会に第5項を加える制定案を提出することを決定しました。英文と和文の制定案を配布資料として皆さまのお手元に配りました。

16-とありますが、これは、2016年を意味します。制定案と決議案が出そろいますと、1番から通し番号がつけます。現在、まだその番号はついていません。ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：と書かれています。日本語訳をご覧ください。コロンやセミコロンがあります。日本語の句読点は、点と丸だけですが、ロータリーの目的には点と丸のほかに、コロンとセミコロンがあります。本日は、このコロンとセミコロンを説明したいと思います。

私、昔、翻訳室にいて、語学研修のため、米国の本部にいきましたとき、6カ国語くらいの言語の翻訳責任者のマネージャーだった女性がいて、マーガレット・シャーサー氏の書いたThe Elements of Grammarと言う英文法の本を読み、感想文を出すように言われました。私、当時、翻訳室長だったのに、今さら、英文法を学ぶのか、と思いました。当時、英文の出版物を日本語に翻訳する仕事と同時に、日本のロータリー・ニュースを英訳して本部に送っていました。よほど、ひどい英語を書いていたのだと思いました。

世界本部の所在地はシカゴの郊外のエバンストンと言う町にあり、ノースウェスタン大学があり、本屋さんが沢山ありましたので、早速、そのElements of Grammarを買いました。あまりの読みにくさに、言い訳を考えました。せっかくアメリカにいるのだから、本を読んでいるより、いろいろな人と会ったほうが有意義だ、と言いました。感想文は、帰国してからじっくり読んで提出しますと、言って、帰国してから日本語訳の本を探しました。日本語訳を見つけました。『書くための英文法』という本です。この中に句読点の使い方というのがありまして、用例も豊富で何と100ページくらいあります。

英語の場合、ピリオド、コンマのほかに、セミコロンとコロン、ダッシュ（長い一本線）があり、それ

を使いこなして書いた英文が名文だというのは。それについて、延々と説明が100ページです。当時、翻訳を仕事としていた私ですら、うんざりしましたので、くどくどは述べませんが、簡単に説明します。知っておくと、ロータリーの目的の解釈に役立つし、英文を読むとき役に立ちます。たとえ役に立たなくても、少なくとも知識は増えます。ピリオドは日本語の丸で、コンマは日本語の点と考えて下さい。強さから言いますと、一番強いのが、丸で、次がセミコロン、次がコロン、一番弱いのが点です。これを前提条件として頭に入れて下さい。まず、ピリオド、丸は、文末に置きます。コンマ、点は、並列した語や文章を区切ります。これ当たり前のことを言っています。

コロンはイコール記号と同じで、コロンの前後で同じことを言っています。ロータリーの目的は、（点が入ります）意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、（点が入ります）これを育むことにある。（丸が入ります）具体的には、次の各項を奨励することにある：（コロン）ここにコロンが来ます。コロンの前にある文章と後にある文章は同じことを言っている、と示しています。日本語に敢えて訳すなら、「すなわち」でしょうか。そして4項が列記されていまして、4項をつなぐ、というか隔てるのがセミコロンです。セミコロンの役割は何でしょうか。セミコロンはシーソーゲームの支点のような働きをもち、前後の内容を対照するのが目的だということです。セミコロンはシーソーゲームの支点だそうです。前後の内容を対照する、ということです。

これを念頭に置いて、ロータリーの目的を見て下さい。その通りです。ロータリーの目的に含まれていませんが、ご参考までにダッシュ長めの線、についても述べておきます。これは文章の途中の突然の変化を示すということです。100ページにもわたり、説明している箇所を、こんなに簡略化して、許されるかどうか自信ありませんが、ロータリーの目的に使われている、コロンとセミコロンの意味が少し分かったでしょうか。

この文法書を書いたマーガレット・シャーサー氏は、この用法が英語圏の中でも乱れていると述べています。日本人が良く分からなくても問題はないと思いますが、ロータリーの目的の原形は1906年に最初に作成されました。何度も改正され、1951年にObjects of RotaryのObjectsが複数形から単数形になりました。最初が複数形であったことを考えますと、ロータリーの目的は4項目あったと解釈できるのではないのでしょうか。単数形になったのは、4項目が一体になったと考えるべきでしょう。シーソーゲームの支点の前後左右が4項目と考えるべきでしょう。新会員の方、入会間もない方、難しいことを言う会長だとあきれているかもしれませんが、土曜日に開かれているロータリー・カフェで、ロータリーの基礎を学ぶとロータリーが好きになると思います。好きにならなくても、語り合う機会です。ぜひとも出席して下さい。

## 10) 公式訪問の意義

先週、公式訪問がありました。皆さまの感想はいかがだったでしょうか。懇親会での皆さまの表情を見ますと、楽しい公式訪問だったと思います。

改めて公式訪問の意義を考えてみたいと思います。決議23-34にありますように、クラブには自主性があります。ですが、何でもやり放題というのではなく、ロータリーの方針の枠内の自主性です。各自が無意識に行動していても自ずと良きロータリアンであり、全体として調和がとれている、Unity in Diversity、多様性の中の調和です。ロータリークラブは、国際ロータリーに加盟しているのですから、クラブの定款細則だけでなく、国際ロータリーの定款細則を受諾しています。そのために、ガバナ

ーがクラブを訪問します。クラブの現況を国際ロータリー役員としてガバナーが自分の目で見るので、これは査察ではなく、どちらかというとい国際ロータリーや地区の方針の再確認です。単に慣例行事と受け止めず、クラブの現状が国際ロータリーや地区の方針にかなっているかどうか振り返り、同時にガバナーの助言を真摯に受け止めたいと思います。

皆さま、お忙しいのはよく分かっています。ですが、ガバナーがおっしゃったように、例会の15分前に来て、例会の始まる前に少し挨拶を交わす、例会後に少し情報交換をする、そんなことで楽しいクラブづくりができるのではないかと思います。それでこそ開会と閉会を告げる点鐘の意義があると思います。クラブ役員だけが準備のため、早めに来るのではなく、みんなで少し早めに来るだけで、クラブの雰囲気が変わると思います。

## 11) 五大奉仕

10月は職業奉仕月間であり、米山月間でもあります。米山月間は日本で独自に決めたもので、国際ロータリー理事会が決めたのは職業奉仕月間のほうだけです。

本日は職業奉仕月間のほうだけについて話そうと思います。ロータリーには5大奉仕部門があります。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の五つです。順番は決まっています、いつもこの順番です。これは決まり事です。例えば、第4奉仕部門といえば、ロータリアンなら、国際奉仕と分かります。分からない人は、この順番覚えて下さい。覚え方は、ロータリーの基本から1, 2, 3, 4と進むと考えると分かりやすいと思います。国際ロータリーでは使わない表現で、第2770地区で使っている言葉が部門委員長です。どう英訳しているのでしょうか。

ロータリーは国際団体ですから、ロータリーの役職は英語も必要です。奉仕部門の英語はservice avenue かthe avenue of serviceです。channelなどの言葉を使っていたときもあります。大体、道という風な意味です。奉仕部門は奉仕の道といった意味でしょう。道の英語はいろいろあるのに、なぜAvenueでしょうか。ニューヨークではAvenueは南北の大通りで、東西はstreetです。これは一概には言えませんが、大通りであることは間違いないでしょう。また目的地にたどり着く道と言う意味もありますので、五大奉仕部門を歩めば、ロータリーの目的地に到着するという意味も込めてAvenueと言う言葉を選んだということです。

クラブ奉仕は耳慣れない言葉で、ロータリアン以外の人にはまず通じないでしょう。昔、会務奉仕と訳していました。古いクラブに行きますと、まだ、この会務奉仕という言葉を使っているクラブもあり、なつかしい気がします。これは後にクラブ奉仕と改訳されています。クラブのいろいろな職務を遂行するもので、ロータリークラブの基礎、土台です。例えば会員増強、広報、出席推進、ニコニコ、親睦などがクラブ奉仕です。職業奉仕は、2番目の奉仕部門で、ロータリーの金看板と言うか屋台骨です。クラブ奉仕と職業奉仕を踏まえて、社会奉仕になります。社会奉仕は辞書で引くと、social service, volunteer service などありますが、ロータリーの場合はcommunity serviceです。Communityは、普通に考えると、地域社会ですが、昔の手続要覧には単なる場所を意味するのではない、共通の利害を有する人々のグループを意味すると明記されていました。

アメリカの西部劇など見ると分かりますが、移住してきた人は、共に力を合わせて先住民との戦いを繰り返してきました。1人では生きていけない状況でCommunityが形作られました。現在は、単に場所を意味し、市町村くらいを指します。ロータリーの資料でCommunityがlocalityになったとき、人間のつな

がりが希薄になったと思います。インターネットコミュニティという言葉では、具体的な場所という概念すらありません。ともあれ、ロータリーの意味する地元地域社会への奉仕活動である社会奉仕の延長が国際奉仕です。社会奉仕と国際奉仕は、一般でも通用する言葉だと思います。長い間、ロータリーは4大奉仕部門でしたが、2010年規定審議会で青少年奉仕が加わり、五大奉仕になりました。規定審議会は、ロータリーの立法機関で3年に一度開かれます。青少年奉仕は、青少年を援助するのではなく、青少年を良き市民、良き指導者、良き協同奉仕者に育てることです。

以上五大奉仕部門を説明しましたが、五大奉仕部門の中で、個人によって考え方が一番違うのが職業奉仕だと思います。クラブ奉仕は、クラブのためになることをします。社会奉仕は、地域社会のためになることをします。国際奉仕は、世界のためになることをします。この三つは共通点がありますし、理解しやすいと思います。青少年奉仕は、良き市民、良き指導者を育成すれば、将来の社会に役立つし、ロータリアンとともに奉仕することもできます。職業奉仕だけは、そういった性格のものではなくロータリーならではのものです。川口西クラブの場合、優良企業訪問が職業奉仕のようですが、本来、職業奉仕は個人奉仕で、クラブでの職業奉仕は、ロータリアンに職業奉仕について模範を示すとか、指導するとかだと思います。職業奉仕は、職業の倫理性を高めることで、自分の職業のために何かするわけではありません。社会奉仕は社会のために何かするので、そこが職業奉仕と社会奉仕の違いです。では、自分の職業上の技能を生かして、ボランティア活動をするのは、職業奉仕か社会奉仕か、ということがよく議論されます。私は社会奉仕だと思いますが、これは山登りの道のようなものだという人もいます。山の頂に到達するには、どの道でもいいのだと言う考え方です。

私、昔、翻訳者だったとき、翻訳委員のロータリアンの佐藤千尋氏の職業奉仕の話聞く機会が度々ありました。その一つを事例として紹介したいと思います。佐藤千尋氏は千住金属の社長で、身障者雇用促進法のできる前の昭和30年代に従業員としてろうあ者を雇用することを決めます。なぜ、ろうあ者かと聞かれると、目の不自由な人には盲人協会などの施設があって保護されているし、偉人もいる、ですが、ろうあ者の偉人はほとんどいない。こういう人を世の中に引きだしたい、と答えました。ところが、ろうあ者は自分を表現できないため、人間関係も仕事もうまくいかず、他の従業員から足手まといで、生産性を阻害すると言われます。佐藤氏は、これは社長の道楽と思って、勘弁してくれよと言いました。社長がそういうなら仕方がない、と従業員は引きさがりました。

それから奇跡がおこりました。いつのまにか障害員は他の従業員とキャッチボールをするようになり、健常者の従業者施設に寄付するようになります。ろうあ者を雇い始めたその時期の5年間は飛躍的に生産性が向上したということです。最もよく奉仕する者、最も多く報いられるは本当だなあ、と思ったということです。この話を聞いたとき、もちろん感動しましたが、これは誰にでもできることでありません。自分にできることから始めませんか。

佐藤氏は、職業奉仕は分かりやすく言えば四つのテストだと言っています。自分の言行を四つのテストに照らし合わせる習慣を身に付けましょう。真実かどうか。みんなに公平か。好意と友情を深めるか。みんなのためになるかどうか。お金のかからない奉仕活動で、しかも自分を高めることができます。

## 12) ロータリーカフェ 規定審議会(1)

今週は、メイクアップ・ツアーの一環として10月10日に浦和東ロータリークラブを訪問しました。北国際ロータリー理事の卓話で、正統派の職業奉仕の話聞くことができました。それにしても 会員

数が多くて、正直言って羨ましい感じがしました。ですが、ロータリークラブは、数がすべてではありませんので、それなりに、よいクラブづくりをしたいと思っています。

初めて、ロータリー・カフェを例会として開きます。例会時間は、日本では1時間がほとんどですが、2時間の例会は多分日本初の画期的なことだと思います。時間も3時から5時ですから、スナック例会といったところでしょうか。例会ですので、会長挨拶を述べさせていただきますが、今回は時間がありますので、少しずつ区切って、話して、それについて討議してはどうでしょうか。

先日、テレビのスーパープレゼンテーションで、コリン・パウエル氏のスピーチを聞きましたと言うか見ました。コリン・パウエル氏は、現在76歳で、2001年から2005年までブッシュ大統領の下で、黒人として初の国務長官を務めた人です。パウエル氏は、移民の子として、貧しいけれど厳格な両親の下で暮らしました。成績は悪かったが、軍隊で、その力を発揮します。現在は引退してアメリカズプロミスと言う幼児教育の慈善団体を設立し、その代表を務めています。

イタリアではコンゴ出身の黒人女性が初めて閣僚（社会連帯省大臣）になりました。オランウータンに似ていると言うことで、バナナを投げつけられたこともあるということです。

私、ボケ防止のため、英会話を週1回習っているのですが、先生のアメリカ人と話し合ったことを皆さまに聞かしたいと思います。

日本人は、移民出身の人、例えば、在日アメリカ人や在日韓国人を閣僚や首相に受け入れることができるか、ということです。私は、閣僚はともかく首相に移民出身の人を受け入れられないだろうと言いました。私、何の根拠もなく、そう言いました。やはり、島国根性でしょうか。アメリカ人は、日本国籍を取得すれば、もう日本人だと言いました。例えば福島原発のケースなど、アメリカの知恵を借りたほうが良い、と言っていました。皆さまは、どう思われますか。ここで皆さまの意見を聞かせて下さい。

また、パウエル氏のプレゼンテーションに戻りますが、プレゼンテーションのタイトルは、Kids need structure 子供には規律が必要なのです、という話です。Structureと言いますと、組織とか機構という意味が普通ですが、規律と言う意味で使っています。人間としてのルール、私はテレビを見ながら、これはしつけのことだと思いました。もし、しつけの英訳は何ですか、と聞かれたら、私は多分 disciplineと言うでしょう。でも、これからはStructureを使おうかなと思っています。翻訳の難しさは、これなんです。英語を日本語に訳し、その日本語を英語に訳すと、元の英語に戻らないのです。翻訳の限界です。ですから、翻訳文を読むとき、文の背後を読み取る力が必要です。それにはロータリー知識が必要です。翻訳者は実際のロータリーについて知りません。日本に住んでいない人が訳している、ということを考えて翻訳文を読むとよいと思います。

パウエル氏は、大学を出た時、家族から、ともかく働け、家族を養え、自己実現など2の次だと言われたと言います。家族の恥、shame of familyになるようなことをするな、と言っています。10月は、職業奉仕月間ですので、この考え方について皆さまのお考えを聞きたいと思います。現在の自分ではなく、学校を卒業し、就職する若い人にあなたなら何と言いますか。

子供には規律が必要なことは私も同感ですが、ロータリーに規律が必要でしょうか。ロータリーは、昔、厳しい出席規定を守ってきましたが、その規定をずっとゆるめてきました。日本では会員が減りましたが、インドの会員数は11万人を超えました。私、個人としては、人間だれしも好奇心があるものだと思いますので、新会員のとき、ロータリーの規定を学ぶと、ロータリー好きの人間になってくれると信



じたいのですが、例会またはロータリー・カフェに出席せず、ロータリーを知ることはできないと思います。ロータリーを知って学んで、何の役に立つ、と言われたら、私たちはどう答えるのでしょうか。

### 13) ロータリーカフェ 規定審議会(2)

過去の規定審議会では、規制をゆるめてきました。規定審議会の決定は、こういうことが決まりました、こんな改正がありました、という考え方が普通ですが、私は、元翻訳者だったので、何もかも翻訳したと言う経験から、否決された案件にも関心があります。これは、とても面倒なことです、ロータリーのトレンドと言うか、傾向を知るのに役立ちます。私、面倒なことをいやがらない、人から見ると面倒な人間です。

2013年規定審議会では、13-34で、クラブ例会を毎週または隔週のいずれでもよいと認めようと言う案件で、これは日本のクラブや地区も共同提案者になっています。これは否決されました。13-35はクラブ例会を月3回とする件です。これも否決されました。13-36はクラブ例会を月2回とする件です。これも否決されました。

撤回された案件では、13-11で、出席規定をクラブ細則に移そうというものがありました。この意味が分からない人もいられるかもしれませんので、説明します。出席規定は現在、標準ロータリー定款に記載されています。これは国際ロータリーが定めたものを、そのままクラブが採択しますので、義務と言えます。クラブ細則は、もちろん国際ロータリーが大枠を決めますが、クラブの裁量で、修正する余地があります。これは国際ロータリー理事会提出の案件で、ネットなどで反対意見が多数でていましたので、国際ロータリーが採択の見込みがないと考えたのでしょうか、撤回しました。次の規定審議会でも提出されるかもしれませんので、注意して見守りたいと思います。

ここでクラブ定款とクラブ細則の違いをはっきり覚えてほしいと思います。定款は英語でconstitution いわば憲法です。細則は英語でby-lawsで、正式にはbyとlawsのあいだにハイフンが入ります。これについてはロータリーでby-lawsという言葉は普及しているので、ハイフンを省くことにしました、という通達が国際ロータリーから出ています。英語としてはハイフンがあるのが正式ですが、ロータリーでは便宜上ハイフンを省いています。国際ロータリーを意味するRIも、英語ならR. I.とピリオドを入れるのが正式ですが、国際ロータリー定款と標準ロータリークラブ定款第1条にわざわざピリオドなしのRIは国際ロータリーです、と明記しています。ロータリーの規定をきちんと知ろうと思った時、根幹は国際ロータリー定款です。3分の2の賛成がなければ、国際ロータリー定款を改正できません。次が国際ロータリー細則と標準ロータリークラブ定款です。これは過半数で改正できます。クラブ細則はどうかと言いますと、もちろん規定審議会でも変えることもできますが、これは国際ロータリー理事会、管理委員会で改正できます。Bylaws文字通りですと法令の側、付随定款と言う意味になります。細則は拘束力が定款より下ということをぜひ覚えて下さい。

規定審議会でも否決された案件を続けます。13-15は、連続4回欠席すると会員資格が終結するというのを6回にしようと言うもので、否決されました。13-37は、ロータリークラブは年4回任意に例会をとりやめることができるのですが、それを6回に増やそうと言うもので、否決されました。規定審議会でも案件が採択されるとき、採択、修正採択、否決、撤回、撤回とみなす、理事会付託があります。案件の否決に対して国際ロータリー理事会はどう対応するのでしょうか。2013年6月の理事会でこう言っています。規定審議会は4月に開かれていますので、その後開かれた理事会でこう決定していま

す。国際ロータリーは2007年7月1日より試験的プロジェクトPilot projectを実施し、そのクラブは隔週例会を開いてきました。このプロジェクトは2013年6月30日に終わります。2013年規定審議会で例会数に柔軟性を持たせると言う制定案はすべて否決されました。ですから、この試験的プロジェクトは廃止します。試験的プロジェクトに参加してきたクラブは、急にそんなことを言われても困るでしょうから、2013年7月1日から2015年6月30日までを移行期間にする、というものです。それで、規制緩和も行くところまでいって、そろそろ歯止めがかかるか、と私は勝手に思いました。

#### 14) 移動例会(国際ロータリー日本事務局)

本日は、午前9時から10時までオンライン研修としてWebinarがありました。そのWebinarについては今回の例会で報告します。Webinar を見終えてから、11時30分に川口駅に集合し、事務局ツアーに出発しました。

ロータリーは世界的団体ですので、世界の情勢に敏感で、規定もよく変わります。ロータリーとともに歩んでいきますと、最新の情勢に遅れないのではないのでしょうか。とはいえ、その規定すべてに遅れずついていくのは、忙しい職業人には負担になると思います。ですから、分からないところがあったとき、誰に聞けばよいか、普段から知っておけば、ロータリーがより身近なものになると思います。

まず、どのような団体がロータリアンを支援してくれるか訪問してみる事務局ツアーを計画しました。まず、私の在籍した国際ロータリー日本事務局を訪問しました。日本事務局は、川口の近くの赤羽にありましたが、2013年5月17日に三田国際ビル24階 に移転しました。JR京浜東北線の浜松町から都営大江戸線の大門に乗り換え、赤羽橋で降りて、3分です。

事務局に入りますと、ビデオ会議の画面に「歓迎川口西ロータリークラブ」と入力されており、嬉しくなりました。会議室も立派になり、来訪ロータリアンを受け入れる体制が整っていると思いました。川島健会員が、中井啓介クラブ・地区支援室長に、主婦とボランティア指導者の職業分類は公式見解としてどうなるか質問しました。回答は後日ということでしたが、誠実な対応という印象を受けました。ロータリーのホームページが8月から大幅に変更になり、古い国際ロータリー理事会議事録が時々閲覧できなくなるなど質問も出ましたが、まだ現在のMy Rotaryは、完成品ではなく、追って安定した情報を提供できるということでした。

事務局内を見学後、歩いて10分ほどと言われる黒龍芝公園ビルに向かいました。実際は、雨のためタクシーを利用しました。黒龍芝公園ビル内には、五つくらいのロータリー関連の事務所があります。最初にロータリーの友事務所を訪問しました。忙しい中、二神典子編集長が親切に対応してくれました。規定審議会13-119が採択され、ロータリアンは出版物か電子版のロータリーの友のいずれかを選択できることになりましたので、そのデジタル化を協議しているところでした。ロータリーの友のページ数を考えますと、出版物を選ぶ人が多いとは思いますが、規定審議会の決定に対処しなければならないので、経費は増えるということでした。いずれ電子版を選ぶ人が増える時代が来るのでしょうか。

次いで米山記念奨学会を訪問しました。岩邊俊久事務局長、坂下博康アドバイザー、志村桂子氏が対応してくれました。元米山奨学生のE. A. チョウドリ氏の遺志を継いで、海老原会員が、現在、イムルル・チョウドリ君を預かっていることを話すと、直ちに、当時の資料を見せてくれました。米山奨学生の国籍など話題は尽きませんが、ロータリー財団と異なり、米国の本部というものがないので、米山奨学会には裁量の余地が多そうで、のびのびしている印象を受けました。

E. A. チョウドリ氏を知らない会員もいると思いますので、2004年2月10日発行のハイライトよねやま48の一部を紹介します。

国内最初の米山奨学会学友会、関東学友会（現東京学友会）の初代会長を務めたバングラデシュ出身の米山学友、イスカンダール・アメッド・チョウドリ氏（1970-72年度奨学生／東京外国語大学／東京銀座RC）が、1月29日、バングラデシュにて永眠されました。享年71歳でした。チョウドリ氏は、母国の教育振興に強い使命感と情熱をもち、故郷のベタギ村の学校再建に尽力しました。国際ロータリー第2770地区の多大なる支援を得て再建された学校は、ロータリー・ベタギ・ユニオン・ハイスクールと改名されて、現在も地域の教育の場として重要な役割を果たしています。次なる段階として、チョウドリ氏は、職業訓練校の設立にも着手していましたが、心臓病のため、道半ばで急逝されました。チョウドリ氏のご冥福をお祈りいたします。という文章です。

次いでロータリー文庫を訪れ、いろいろな資料を見て回りました。最後にガバナー会に寄ろうと思いましたが、勤務時間終了のようで鍵がかかっていました。ほかに第2750地区ガバナー事務所が同ビルにあります。

## 15) 「ロータリーの魅力」田中作次直前RI会長の卓話

私が小学生のころ、週に一度母と私は、市場まで往復40キロの道を、リヤカーを引いて野菜を売りに行きました。その頃は日本人以外の方々とは、一度もお会いしたことがなく、私が生まれた村が私の全世界でした。ですから、私はいつも、旅することを夢に見ていました。遠くの町や国を夢見ながら、どんな所なのだろうと想像していました。それ以来、幸いにも、頻繁に旅をする機会があり、自分で思いもよらないほど、世界のあちこちを訪れることができました。

しかし、ロータリーでの経験ほど私の視野を広げてくれたものはありません。ロータリアンになるまで、私の目に入っていたものと言えば、仕事、家族、顧客、競争相手など、身近なものばかりでした。旅に出ても、お決まりのものしか見ていませんでした。その背景にあるもの、自分と関わりがないと思うものには、気にも留めていませんでした。しかし、私は事業拡大のために東京から埼玉県八潮に本社を移しました。それから間もなく八潮にロータリークラブが出来ることを知りました。これは今から39年前の話です。当時ロータリーという組織の意味も内容も全く知りませんでしたので、その頃のイメージは駅前のロータリー広場で私たちが何かをするのかと思っていました。ところがまもなく東京から移ってきたばかりの私に田中さんロータリーを作るので貴方も是非参加して下さいと言われました。その方のお名前は関考友さんという地元の有志でしたのでこの地域のためになる組織や団体ならば進んで参加すべきという考えで了解しました。このような経緯を経て八潮ロータリークラブに入会しました。それから1～2年間はあまりなじみずじめで只出席だけをしていました。その後、ある方が例会に来て、職業奉仕についてお話を下さったのです。

私は、その日から自分の生きる目的や人生の考え方が少しずつ変わってきました。収入や、売り上げを増やすことや、自分の会社を他の会社よりも良くし、大きくすることだけでなく、人として、職業人として、もっと良い、もっと高い目的を持って人生を送りたいと思うようになったのです。そしてそのために、他の人たちの役に立つこと、そして地域社会の発展に少しでも寄与することが、私にとって人生で最も大切なことだと思えるようになりました。さらに私は、どんな些細なことでも、地域や世界社会で困っている人々を助けることがいづれは平和につながることに気づきました。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。そして、友情、つながり、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民俗間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」を、つまり、互いを理解し合う後押しをしてくれます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、大きな問題のように見えることでも、力を合わせれば、すぐに解決できることを学んでいます。人を思いやることを学び、自分と違った境遇の人々と知り合うことで、人は皆同じであると理解できます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策であることを知ります。他の人の長所と短所、両方を尊重することを理解できます。そして、どのような人からも必ず得るものがあり、教えられるものがあることを学びます。私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していると思います。ロータリアンは、自分よりも、ほかの人のニーズを重視します。

自分のためだけではなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべきことは何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうすることで、より平和な世界の基盤を築くことができると考えます。それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕活動を通じて、平和をもっと現実近づけることができるからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていくことができないということを教えてくれます。人との関わりのない人生は、空しく、つまらないものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きることで、この世界における自分の役割がはっきりと見えてきます。

1985 年以来ロータリーはポリオ撲滅の最先端に立ち世界のロータリアンの力強いご支援のもとに戦って参りました。そして間もなく今世紀における快挙を成し遂げようとしていると同時に、私たちはロータリアンであることを誇りに思っています。

大規模な奉仕プロジェクトを行おうとするとき、その資金が確保できるのは、財団があるからです。ロータリー財団は、どのクラブにも平等に機会を与えてくれます。資金がたくさんあるところではなく、活動が一番必要とされるところにリソースを提供しながら、世界中の人々に、健康、読み書きの力、そして希望を与えてきました。皆さまがロータリー財団、そして世界のために注いでおられる熱意とご尽力に、心より感謝いたします。皆さまは、財団のモットーが表すとおり、「世界でよいこと」を行い、ロータリーという組織に必要な燃料を与えて下さっています。皆さまのお陰で、ポリオのない世界、平和な世界に、また一歩近づくことができるでしょう。

## 2.3 会長スピーチ3

RI第2680地区 1990-91年度 ガバナー 深川 純一 伊丹ロータリークラブ  
純ちゃんのコーナー2001-02年度 (ロータリー3分情報) より

### 1) ロータリーの基本原則

先般の規定審議会の結果、ロータリーの世界に重大な変化が起きました。即ち、この7月1日を以て、ロータリーは、完全にturning pointを回ったと言えます。勿論それは、ロータリーの繁栄に向けてではなく、ロータリーの崩壊を意味するものであります。その論点は色々ありますが、今日は二つの点だけ指摘しておきます。

第1点は、ロータリーを今日の力と安定にまで築き上げた基本原則である一業一会員制の原則を国際ロータリー自らが捨て去ったこととあります(01-148)。

その内容は、『会員の種類を正会員と名誉会員の2種類とする。したがって、従来のAdditional, Senior active, Past service等の会員区分は廃止する。同一職業分類の会員を5名とし、51名以上のクラブは10%を超えてはならない。職業分類は小分類を基準とする。この制定案が発効する時点で既に会員である者は、会員身分を失うことはない』と言うものであります。

これは、一業多会員制の容認であります。実は、一業一会員制の崩壊現象は、今に始まったことではありません。数年前、第2680地区田中毅PGよりアメリカのHouston. RCの職業分類表を入手しましたが、驚くべきことに、そこには50名の弁護士が登録されていました。公認会計士の数が20名を超えていました。このように、アメリカでは、一業一会員制は、早くから崩壊していたことを認めざるを得ません。

第2点は、ロータリーの組織原理の根幹である国際ロータリーの定款、細則及びクラブの標準定款に違背するクラブの加盟を、国際ロータリー自らが200クラブに限り、5年間のパイロット・プロジェクトとして言忠めたこととあります(01-186)。

この二点は、20世紀の初頭以来、ポール・ハリスを始め幾多の先人達が営々として築き上げてきたロータリーの基本原則を根底から覆すものであります。しかも、この提案は、国際ロータリー理事会の提案であります。まさに『ロータリーよ、どこへ行くのか』の観があります。文豪バーナード・ショウは『ロータリーは昼飯を食いに行くのさ』と皮肉ったと言いますが、笑い事では済まされない事態、が惹起されたと言わなければなりません。これらロータリーの基本原則は、いずれもロータリーの魅力の根源であります。したがって、この基本原則が否定されることになれば、ロータリーの魅力がなくなります。既に、熱心なロータリアン達が、次々にロータリーを去りつつあります。

私達は、この事態にどのように対処すべきでありましょうか。この基本原則を放棄したのは、国際ロータリー理事会でありますから、国際ロータリーのことは放置するほかありませんが、私達は自分のクラブは自分で守るほかありません。そのためには、ロータリーの魅力の根源である基本原則を見つめ直す必要があります。何故一業一会員制なのか、何故標準クラブ定款が必要なのか、その事の意味について、根本的に考え、実践する必要があります。その事によって初めてロータリーの魅力が蘇るものと思うのであります。したがって、次回は、ロータリーの魅力についてお話をしたいと思います。

## 2) 一業一会員制について

今回の規定審議会では、ロータリーの組織原理としての一業一会員制の原則に代わって一業多会員制が採用されました。しかし、一業一会員制は、ロータリーの創始者ポール・ハリスによって提唱されたロータリー創立以来の大原則であり、ロータリーの魅力の中核であります。したがって、私達は一業一会員制のもつ意味をよく考えてみなければならないと思います。ポール・ハリスは、1905年2月23日に3人の友達と語り合っテロータリークラブを作ろうとしたときに、何故一業一会員制を提唱したのでしょうか。

資本主義経済社会は、自由競争社会であります。そこでは熾烈な競争によって、同業者は、お互いに食うか食われるかの関係に立たされます。したがって、クラブの中に同業者が居ると、お互いに疑心暗鬼になり、心を聞き合っテ仲良くなることができません。

また、同業者は、同じ業界にいますから、お互いに善いところを知っているとともに、悪いところも、醜いところもお互いに知り尽くしています。したがって、『彼は俺の欠点を知っている』ということが一点ありますから、本当に心を聞き合っテ親睦の内に相和することができないのであります。

同業者には、このような事情がありますから、ポール・ハリスは、ロータリークラブを作るに当たっテは、同業者を排除して、一つの職種から一人だけ会員を選ぶという一業一会員制の原則を採用したのであります。即ち、一業一会員制の原則は、クラブ親睦を担保するための原則であり、ロータリーの魅力の根源なのであります。

ところが、今般、一業一会員制に代えて一業多会員制になると、同業者が沢山入会して来る結果、クラブライフの中核である『親睦』が崩壊します。親睦のエネルギーを世のため人のために放流しよう、即ち『親睦なくして奉仕なし』と言われるロータリーにあっては、親睦の崩壊は奉仕の形骸化、ロータリーの魅力の喪失を意味します。

また、一業一会員制の原則には親睦の担保のほかに、もう一つ奉仕の担保という重要な機能があります。これは1908年にシェルドンが理論構成したものであります。即ち、まず、地域社会に存在する全ての職種から一人ずつ良質な会員を選び、その会員は毎週一回の例会で奉仕の心を身に付ける。次に、例会を出て自分の業界に帰った会員は、ロータリーから差し向けられた大使として、業界にロータリー精神をアピールする。このようにして一人一人の会員が全ての職種にアピールする事によって、地域社会全体にロータリー精神が行き渡り、社会改良の実が上がるというものであります。したがっテ、ロータリーの選ばれていない職種があると、その職種にはロータリー精神が行き渡らないことになり、その限りにおいて社会改良の実が上がらず、奉仕の実効性が欠落することになるのであります。これは奉仕の実効性を担保するための一業一会員制の原則であります。

ここで重要なのは、一つの職種から一人ずつ『良質な会員』を選ぶことであります。これが一業多会員制になると、会員の良質性は担保されません。その結果、奉仕の良質性に影響を及ぼします。ロータリー運動は、良質な一人は、よく千人を管理するという一騎当千の理論を前提としています。これがロータリーの魅力の中核であり、一業一会員制の原則の重要な意味であります。そして、この、一業一会員制を採用するか否かは、クラブ自治権によって私達に自由に認められているのであります。

### 3) ロータリーの魅力について

今回の規定審議会において、一業一会員制の原則の代わりに一業多会員制が採用されましたが、それは、必ずしも一業種から5人の会員を採らなければならない事を意味するものではありません(01-148)。現に、一業種に一人しか会員が居なければ、一業種について一人しか会員をとることが出来ません。したがって、一業種一人で60業種を集めて会員60名のクラブを作るか、一業種二人で30業種を集めて60名のクラブを作るかは、各クラブの自治権の問題であって、各クラブは、自由にその会員構成を決めることが出来るのであります。

伊丹のような地域社会でも、職業の種類は、600業種を超えるだろうと思われます。したがって、一業種から一人ずつ会員を採っても、600名のクラブが出来上がることになります。会員60名のクラブを作るのに、30業種から二人ずつ会員を採る必要はなく、60業種から一人ずつ会員を採って会員60名の一業一会員制にすればいいのであります。このことは、クラブ自治権によって各クラブが自由に決め得ることなのであります。したがって、伊丹クラブは、ロータリーの魅力を守るために、一業多会員制のもとにおいて、一業一会員制の実現に努力すべきであります。そして、業種が多いほどクラブの魅力は増すのであります。何故なら、業種が増えることによって、異業種による会員相互の自己研鑽・切磋琢磨の機会が増えるからであります。

要は、出来るだけ沢山の業種から会員を集めることによって、地域社会の全ての職種にロータリー精神が行き渡るようにすることが肝要であります。

クラブの魅力に関して言えば、会員数の少ないほうがクラブの魅力は増すのであります。例えば19世紀の『ザ・クラブ』などは、エドモンド・バークやスウィフトのような哲学者、政治学者、文豪など12名によって組織され、その後40名に増員されています。このような・極端な限定会員制を採ることによって、このクラブに入会することは最高の名誉とされているのであります。19世紀のイギリスのクラブ『アレクサンドリア』も、上流社会の貴婦人のみによって組織された限定会員制のクラブであります。ロータリークラブは、このよじではありませんが、それでも一業一会員制という限定会員制を採ることによってその魅力を維持してきたのであります。

限定会員制は、その限定の枠が厳しいほど魅力を増すものであります。このことは、『ザ・クラブ』や『アレクサンドリア』の例を見れば明らかであります。ロータリーの魅力という視点から見れば、今般の規定審議会において採用された一業多会員制は、一業一会員という限定の枠を緩める点において、ロータリーの魅力を喪失させるものであります。ロータリーの魅力がなくなれば、会員は減少します。現に、7月1日以降、ロータリーに幻滅を感じて退会して行く人達が増えて居るのであります。

今月は、あたかも会員増強・ロータリー拡大月間であります。国際ロータリーは、会員の増強・ロータリーの拡大を呼び掛けるのであれば、すべからくロータリーの魅力を取り戻すために一業一会員制を回復すべきであります。一業一会員献なくしてロータリーの魅力なく、ロータリーの魅力なくして会員の増強は有り得ないからであります。

#### 4) 会員増強・ロータリーの拡大について

8月は、『会員増強・ロータリー拡大月間』であります。会員増強の『増』は会員の量を増やすことであり、増強の『強』は会員の質を高めること即ち、会員の内なる人を強くする、内なる心を磨くことであります。これにはロータリアンの教育が絶対条件であります。しかるに、現在、ロータリアンの教育はあまり行われて居ません。

この様な状況では、会員の増『強』は不可能であります。会員の質を高めることなくして真の会員増強は有り得ません。会員の量の増大のみを求めても、結果的には会員は減少します。最新のRIの情報では、一昨年から引き続いて会員は減少しています。これが今、RIの大きな悩みになっているのであります。

会員の減少の原因は何か。社会の不況か。否。アメリカは好況であるにも拘らず会員は減少しています。最大の原因は、ロータリーに魅力がなくなったことであります。何故、ロータリーに魅力がなくなったのか。ロータリアンがロータリーの心を忘れていたからであります。私達の先輩は、ロータリー96年の歴史を通じて、一貫してロータリアンの魂の浄化、心を磨くことを心がけてきたのであります。

イギリスでは、『ロータリーは、人間の魂の在り方の問題である』と言われてるように、ロータリーの第一義は、心の開発であります。そこにロータリアンは、誇りをもったのであります。したがって、ロータリアンが、もう一度この誇りを取り戻さずして、ロータリーの魅力を回復することはできないと思うのであります。

昔、西宮クラブの八馬啓さんは、伊丹クラブの例会に一分遅刻されました。すると彼は、『一分遅刻したから今日はメイクアップにしないで下さい』と言って、ヴィジターフイーを払って最後まで例会を楽しんで帰られました。自らを規律すること極めて厳しいことに驚きました。最近、この様なロータリアンが非常に少なくなったと思います。

何はともあれ、21世紀にロータリーを強化しようとするなら、ロータリアンの内なる心を強化することが絶対に必要であります。それにはロータリアンの教育を欠かすことはできません。

近年、RIの会長は、量と質との両立を訴えています。質の向上については、良質な新会員の獲得のみならず、現金員の退会防止も忘れてはならないことでもあります。

量と質との両立について一つの例え話を紹介しておきます。キップリングと言う作者が動物の小説を書きました。『ジャングルの法則』と言うのでありますが、その一節に『群れの力は狼である。そして、狼の力は群れである』と言うのがあります。つまり、一匹の力の強いことが群れの力を強くする。群れを構成する一匹々々が、まさに一匹狼のように強いことが全体の力を強くするのであります。

ロータリーも一人々々のロータリアンを強くすることによって、初めてロータリークラブが強くなり、ロータリークラブが強くなることによって、初めてその連合体であるRIが強くなるのであります。したがって、ロータリアン一人々の内なる人を強くすること、即ち、会員の教育が必要不可欠となるのであります。これなくして量と質との両立を考えることは出来ないのであります。会員増強の『増』は量の問題。『強』は質の問題。どちらも同じ位に大事であることを忘れてはならないと思います。



## 5) ロータリーの拡大について

8月はロータリー拡大月間であります。何故、ロータリーは拡大しなければならないのでしょうか。

ロータリーは、当初、会員の親睦と相互扶助を目的として始まりましたが、1年半位経った頃、ドナルド・カーターは『親睦と相互扶助だけを考えると、世のため人のためのことを考えないクラブは、永続性がない。そのようなエゴイズムのクラブには入会しない』と言って入会を断りました。このことが契機となって、シカゴクラブは、世のため人のための事も考えるクラブに変わっていったのであります。

世のため人のため、即ち奉仕を考えるクラブであれば、それはシカゴだけにあるべき筋合いのものでなく、全米の地域社会にあって然かるべきだということでロータリーの拡大が始まったのであります。したがって、ロータリー拡大の路線は、ドナルド・カーターによって敷かれたと言ってもよいのであります。これがロータリーの拡大の理由であります。

1908年以降、サンフランシスコはじめオークランド、シアトル、ニューヨーク、ボストンとクラブが作られて行き、1910年には、全米に16のクラブが出来上っていました。ただ、クラブを作る作業は、クラブにとって大変な負担となり、クラブの親睦を崩しましたので、全米にクラブを作っていく作業は、クラブとは別枠の団体を作って、その団体に任せた方がよいということになり、1910年、当時、すでに全米に存在していた16のクラブをもって全米ロータリークラブ連合会(現在の国際ロータリー、即ちRI)を創立し、それにロータリーの拡大の仕事を任せたのであります。このようにしてロータリーの拡大は、RIの仕事の一つになったのであります。

ところで、RIは、ロータリー100周年の2005年までに150万人のロータリアンと言う増強目標を承認する件(01-658)を提案し採択されました。ロータリーの拡大は、国際大会の決議によってRIにゆだねられた仕事でありますから、会員を増やすことはRIの職責上当然のことではあります。一方、会員数の増加はロータリアンの質の低下を招かないか、したがって、ロータリーの魅力が失われないか、等々色々と問題があります。

本来、限定会員制の下では、限定の枠が厳しいほど魅力が増すものであります。しかし、限定の枠が厳しすぎると、会員の増強・ロータリーの拡大を計ることが出来ません。したがって、その調和を計ることが必要であります。

従来から、これ以上会員を増強しロータリーを拡大すると、会員の質が低下するという意見があります。しかし、これは、今居る会員だけが良質なことを前提とした議論であります。良質な会員は、今居る会員以外にも沢山居るのでありますから、会員増強、ロータリーの拡大は計るべきであります。ただ、ロータリーの魅力を担保するために良質な人を選ぶべきであります。拡大の方法としては、従来存在しなかった新しい職種にも良質な人が居ます。更に、女性にも良質な人が居ます。これらは、新たな拡大の分野として考慮すべきであろうと思います。良質なものは、まだまだ存在します。したがって、拡大は止めるべきではありません。しかし、質の低下を招くような会員増強・ロータリーの拡大は、ロータリーの魅力を維持するために厳に慎むべきものであります。

## 6) RYLAについて

今月は新世代月間でありますのでライラ(RYLA)の話をしてします。

ライラというのは、Rotary Youth Leadership Awardsの略称で、あつて『青少年指導者養成計画』と訳されています。当地区ではセミナー形態を採っています。

当地区のライラセミナーは、毎年3月に、小豆島の余島において四国のRI第2670地区との合同プログラムとして開催されています。

この余島には、“人と出会い、神と交わり、愛の火の燃えるところ”という今井鎮雄パストガパナーの言葉があります。

ロータリーが企画したこのライラは、いみじくもこの言葉に集約されています。即ち、このセミナーのスケジュールの構成もこの言葉に当てはまります。即ち、第1日“初めに親睦ありき”このセミナーは、ロータリーの世界と同じく、良質な「出会い」を保障し、良質な親睦を熟成するところから始まります。これが“人と出会い”であります。

オリエンテーションの後は、初めて出会った受講生同士の親睦のためのオープニングパーティ。その後は、親睦のためのキャビンタイムと続きます。

“神と交わり”とは、ロータリーの世界では、奉仕哲学の追求・真理の追求を意味します。

“愛の火の燃える”とは、ロータリー的に言えば、奉仕の心が育つことでもあります。

第2日午前中2時間は、奉仕哲学・真理の追求のための「講義」であり、ここから“神と交わる”時間が始まりますが、午後一杯は未だ親睦のためのレクリエーションタイム(完全な自由時間)であり、更に引き続いて、夜は、親睦の熟成のためのキャンプファイヤーとキャビンタイムであります。

第3日この日から初めて、一日“神と交わる”時間を設定します。即ち、午前中2時間の「講義」に続いて午後1時間の「思索の時間」、更に続いて3時間の「バズセッションj、そして夜は、3時間の「フォーラムj」によって知性の練磨が行われ、“愛の火が燃える”のであります。

第4日午前中2時間の「講義」に続いて、最後の仕上げとして「総括jを行います。そして閉講式によって幕を閉じます。

このスケジュールの進行は、全て受講生の自律に委ねられています。

昔、ロータリーが親睦の内に自ずから奉仕の心を生み出したように、このライラも受講生達の自律と親睦の内に、彼等彼女等の心の中に、暖かい奉仕の心・愛の火が点れば幸いであり、地域へ帰って実践してくれることを期待しているのであります。

実は、愛の火がともるか否かは、彼等次第であり、地域へ帰ってからともるかも知れず、10年後にとともるかも知れなしミ。或いは永久にともらないかも知れない。

ただ、ロータリーとしては、そのための種を蒔いておこう、ただ、それだけのことをしよう。その種が芽生えるか否かは、私達が信頼した彼等彼女等に委ねよう。暖かく見守って行こう。そして未来に期待をかける。これがライラの趣旨であります。

## 7) 職業奉仕について

昨日で職業奉仕月間が終わりましたので、職業奉仕に因んだ話しを致します。

紙製造卸業者であるロータリアンの述懐であります。即ち、紙製造などという仕事は、社会的地位も低く、卑しい職業であって、利益も少ないし、自分は悪い星の下に生まれたなど絶望的に世の中を見ていましたが、ある日翻然としてその非を悟ったのであります。それは、人々が毎朝食べるパンを清潔な状態、で家庭に運ぶことが出来るのは、自分が作っている紙あればこそであります。

食事というものは、単に食欲を満たすために採るものではありません。人間が神の司る宇宙の秩序体系の下に帰依するための生命を維持するために食事を採るのであって、食事を採るということは、最高の宗教的な儀式であると考えられるのであります。

アメリカの東部には、この考え方があります。例えば、ミシガン大学の食堂は、ケンブリッジ大学のキングスカレッジのチャペルを模して作られています。ここでは、食事は儀式と考えられています。したがって、服装もスーツを着用します。

この様な儀式に用いられるパンは、清潔でなければなりません。それを清潔な状態で届けられるのは、自分の作った紙あればこそであります。その時に、自分は悟るところがあったというのであります。要するに、紙を作って商っていることは同じであります。現象的には変わりません。それを、どの視点でとらえるかによって覚悟が違って来るのであります。これが大事なところであって、職業奉仕というのは、まさにこの考え方であります。

また、例えば、医師が診察する場合に、沢山の患者が来ているのを見て、自分の収入が増える、と考えるのでは問題になりません。そうではなくて、自分が大学以来勉強した知恵をもって、地域医療のためにどこまで潤すことができるか、と考えることによって、職業イコール奉仕という考え方になります。診察という行為は同じだが、考え方が違うのであります。そして、それが結局、職業を榮えさせることになるとロータリーは説くのであります。

要するに、職業を現象と見る限り、やっている事は同じだが、その考え方を変えるとロータリーが提唱している職業奉仕の世界に入って来るということであります。

## 8) IM について

1月のIMは、当クラブがホストでありますので、今日はIMの話を致します。IMと言うのは、Intercity Meetingの略語であり、昔はICGFと言っていました。これはInter-City General Forumの略語であって、都市連合フォーラムと訳されていました。したがって、これは分区単位のフォーラムであります。その後、Inter-Cityは一つの言葉だということで、ICGFのCを省略してIGFとなり、数年前から現在のIMとなったものであります。したがって、IMの実体はフォーラムであります。ただ、このIMという言葉は、R1会長などが来日した時に、ZONE単位でパストガバナーが集まる会合もIMと言う事があり、更に、Informal Meetingの事もIMと言うことがありますので、大変紛らわしい言葉であります。したがって、ここで言うIMとは、フォーラムの要素のあるものとして区別しておく必要があると思います。この様に、IMは、フォーラムの要素がなければなりません。即ち、ロータリアンの心を磨く、言わば自己研鑽の契機となるものでなければなりません。ロータリーでは、IMのほかに、クラブ例会、クラブ協議会、地区協議会、地区大会等色々な会合がありますが、これらロータリー上のすべての会合は、ロータリアンの自己研鑽の契機を<sup>ほろ</sup>孕むものとして、出席が強く要請されています。クラブ例会などは、

4回連続して欠席すると自動的に会員資格を失うものとして、出席が強制されています。例会の出席はロータリアンの基本的な義務であります。したがって、1Mについても、ロータリアンは、病気その他特段の事情が無い限り出席することが望ましいのであります。昔のロータリアンは、ロータリー上のすべての会合には、出席するのが当然と考えていました。私もガバナーになるまでは、1Mや地区大会その他ロータリーの会合には、1回も欠席したことはありませんでした。

ところが、最近では、義務出席などという言葉が現れ、出席することが当然では無くなってしまいました。誠に嘆かわしいことであり、ロータリーの衰退は目に余るものがあると思います。昔は、義務出席などと言わなくても、皆出席したものであります。したがって、今一度、往年のロータリーの繁栄を取り戻すために、ロータリアンの基本的な義務である例会出席と同様に、1Mや地区大会にも奮って出席されるようお願い申し上げる次第であります。

## 9) 例会について

前回は1Mについて話しましたので、今日は例会について話します。

ロータリーの指導概念は、親睦と奉仕であります。実はロータリーの例会も、親睦と奉仕によって成り立っています。即ち、最初の30分間は食事と団欒の時間即ち、親睦の時間。後の30分間は、奉仕に耳を傾ける時間即ち、卓話の時間であります。この二つの要素がなければ、ロータリーの例会とは言えないのであります。したがって、この意味から言えば、当クラブのサンクスギビングデーパーティ(感謝祭)に先立って行われている10分間の例会は、例会の体をなしていないと言わなければなりません。

アメリカのアナハイムのガバナーの研修会場には、『入りて学び、出でて奉仕せよ』と書かれています。この入りて学ぶと言うのは、お互いに仲良くなって学び合うこと、即ち、親睦のことです。ロータリーの例会もこれと全く同じであって、例会に入れば、親睦の内に相和して、お互いに切磋琢磨し、一歩例会を出ると、そこは奉仕の実践の場であることを意味しているのであります。この点をとらえて、日本ロータリーの創立者米山梅吉先生は、『ロータリーの例会は人生の道場である』と喝破したのであります。

ロータリーの例会は、この様に会員の親睦の場です。それは、会員だけの水入らずの親睦の場です。会員の奥様といえども妄りに入ることは許されないものであります。只一つの例外は、ロータリアンのビジターであります。これはメイクアップの制度によって、世界中どこのクラブにも堂々と入ることができます。これ以外の人には例会に入ることは出来ません。これがクラブというものです。したがって、ロータリアン以外の人には、例会に入れてはならないのであります。この意味から言えば、先程例を挙げました当クラブの感謝祭の際の例会は、ライオンズクラブの人達も青年会議所の人達も伊丹市長も出席していますから、これは如何なものかと思うのであります。ロータリーと何の関係もないこのような人達を例会に出席させることは、この人達に対して大変失礼に当たると思うのであります。したがって、感謝祭のパーティーとクラブ例会とは、分けて開催すべきであります。今日は色々苦言を呈しましたが、私達は、クラブ例会の正しい在り方を謙虚に反省すべきであると思うのであります。

## 10) 職業奉仕論... 下請関係 1

資本主義経済社会は、分業を通じて発展して来たものであります。イギリスのグラスゴー大学教授アダム・スミスの著書、経済学のバイブルといわれる国富論(Wealth of Nation)の冒頭に出るのが実は分業(division of labor)なのであります。

現在、資本主義経済社会は、分業によって効率を高めて行くところから、簡単な商品を生産する場合でも、下請との関係を持たない会社は殆どないと言えるのであります。自動車一台作るにしても、部品などは専門家に任せた方が良質なものを安く作る事が出来ることを考えて、人間は、分業に分業を重ねて来たのであります。

ところが、分業の当事者、即ち親会社と下請との関係を見ると、力のバランスが崩れていて、資本力は、原則として親会社の方が強いのであります。そこで、ローマの格言に『人は人にとって狼である』と言われてるように、人間ほど恐ろしいものはないのであって、力の強い者が弱い者を犠牲にして行くのであります。ここにマルクス・レーニン主義の出る一つの原因があるのであります。例えば、1万円の金を持っているとすると、1円の物を1万倍した物しか買えないかと言うと、実はそうはならないのであります。交換価値というものを交換力と考えると、1円の1万倍は、数値の上では、まさに1万円になりますが、交換力の面では、1万円以上の物と交換することが出来るのであります。したがって、現実には物と交換する場合には、1万円持って居る人と、1円しか持っていない人とでは、交換力に差が出てくることになります。したがって、大資本は益々大きくなって行くのであって、この点が、マルクスの言う『資本の論理は力の論理』ということになるのであります。

マルクス主義は、このアンバランスを国家権力によって調整しようとする発想であって、権力によって解決しようとする点が倫理運動としてのロータリーとしては、納得できないのであります。ロータリーは、倫理運動の立場から、このアンバランスを徳の力によって調整しようとするものなのであります。徳というものは、日に見えないものであります。金銭では測ることの出来ないほど価値のあるものであります。

徳の力を一枚入れる、これが倫理運動たるロータリーの考え方でありまして、この考え方から、二つの倫理原則を出すことができます。

第一に『利益の適正分配の原則』、第二に『賄賂禁止の原則』であります。

## 11) 職業奉仕論... 下請関係 2

下請関係における倫理原則の第一は、『利益の適正分配の原則』であります。これは一言で言えば『人を泣かせて、その上に自分の幸せを築くなよ』と言うことでもあります。

要するに、これは公平の原則であります。事例を紹介しておきます。ハーバート・テイラーが、1932年に倒産したアルミ食器会社の再建を引き受けて、約10年後には一流の企業に育て上げたときに使ったのが、この公平の原則であります。

或る日、彼は、印刷業者と契約をしました。ところが、印刷業者が会社に帰ってから、自分の計算違いから、その契約では大変な損をすることに気が付きました。今更、契約のやり直しを申し込める筋合のことはありません。さればと言って、みすみす損をすることが判っていながら、真面目な仕事ができるかどうかについても自信はありません。そこで、印刷業者は、断られでも元々だと思って、損をしない程度に契約のやり直しを申し入れました。ハーバート・テイラーは、それを聞いて、『なるほど、それは気の毒なことだ。しかし、自分1人では決められないから皆に相談してみよう』と言って、これを取締役会にかけました。取締役会では、『当社は、一銭も値切らずに印刷業者の言う通りに契約をした。相手は納得して契約したのであるから、その契約に計算違いがあったか否かは、当社の全く関知しないところであるから、当然、契約は守ってもらべきである』という意見が大勢を占めたのであります。しかし、ハーバート・テイラーは、『我々は、「四つのテスト」を誓い合っているではないか。この契約で真実とは何か。契約通りにことを運べば、相手が確実に損をするということである。しかもこの契約は、相手の真実の意思に基づいたものではない、そのことが、みんなに公平と言えるのであろうか、好意と友情を深めることになるのであろうか、そして、みんなのためになるのであろうか』という論法で取締役会を説得して、結局、印刷業者が損をしない程度に契約のやり直しをしたのであります。やがて、このことが口込みで業界に伝わり、ハーバート・テイラーの会社と取引をしておれば安心だ、と言うことになり、信用を確立することになったのであります。

これは、自分の会社が儲ける反面において、下請の印刷会社を泣かせてはならないということ、利益というものは、親会社も下請も孫請も、全てに適正に分配されなければならないという『利益の適正分配の原則』の実践例であります。

## 12) 職業奉仕論... 下請関係 3

下請関係における倫理原則の第二は、『賄賂禁止の原則』であります。

親会社と子会社、元請と下請その他あらゆる取引関係において、当事者の力のバランスが崩れると、力の弱い者が強い者に対して賄賂を贈るという現象が起ります。

そこで、ロータリーは、古来、倫理運動の視点から、賄賂の授受を厳に戒めているのであり、これは職業奉仕論の核にある大きな柱であります。

昭和六年の日本の2代目のガバナー井坂孝のガバナー月信第1号(s. 6. 8. 10) は、夙に有名であります。彼は、RI第70地区のガバナーに就任して、全国のロータリアンが拳々服膺<sup>ふくよう</sup>すべき職業倫理の三ヶ条を提唱したのであります。即ち、

第一に日ク、ロータリアンたる者は、約束を守るべし。

第二に日ク、ロータリアンたる者は、賄賂を贈ることなかれ。

第三に日ク、ロータリアンたる者は、徒に慈善事業に憂き身をやつすことなかれ。

第一の約束を守るというのは、ロータリアンは皆職業人でありますから、契約を守ること、即ち、契約的正義の実現を説いているのであります。更に、約束を守ると言うことの中には、時間を守ることが当然含まれています。時間は万人の共有物でありますから、時間を守らないということは、全ての人に迷惑をかけることとなります。

第二は、賄賂を贈ることなかれ、ということは、言うまでもなく、賄賂の横行しない健全な取引社会・公正な自由競争社会の実現を説くものであります。

第三は、慈善事業を否定するものではないが、それに憂き身をやつしてはならないと言うのであります。慈善事業はロータリアンでなくともできること、ロータリーの第一義はロータリアンの心の開発であり、それに基づき職業奉仕の実践によって自分の職業を安定させて、然る後に余裕があれば、慈善事業を実践してもよいと言うのであります。

要するに、井坂ガバナーの提唱は、職業奉仕を中心とするロータリー観の提唱であり、ロータリーの神通力は、実業の世界においてのみ発揮せらるべきであると言い切っているのであります。

今、日本の政界、官界、財界の贈収賄による職業倫理の退廃は、誠に目に余るものがあります。この責任の一端は、倫理運動の主体たるべきロータリーにあると言わなければなりません。我々は謙虚に反省すべきであると思うのであります。

### 13) 職業奉仕論... 下請関係 4

ロータリーは、『賄賂』という概念を非常に広く定義しています。即ち、法律上、賄賂の授受によって収賄罪、贈賄罪が成立するためには、それを受け取る側が公務員であることが必要であります。私人間に賄賂罪は成立しません。

ところが、ロータリーは、倫理の世界でありますから、倫理運動の立場から、私人間の賄賂の授受をも禁止し、しかも、賄賂の概念を広くとらえているのであります。即ち、労働の対価として受取る正当な報酬または取引の対価として受取る正当な所得以外の一切の金品の授受は、これを悉く賄賂と見做すのであります。したがって、これは法律概念ではなく、倫理概念であります。

これが基本原則であります。この立場から見ると、盆暮の中元・歳暮も賄賂になるのであります。そうだとすると、これらの品物の受領を拒むことが、相手の善意を踏みにじることになります。したがって、この原則だけでは処理し切れない様々な事態、が発生することになります。

そこで、ロータリーは、このような状況を踏まえて、第二の原則を立てます。それは、『公開の原則』(Publicity)であります。即ち、特定の物品または金銭の授受が、賄賂になるかどうか疑わしい場合にあっては、それを公開すべし、というのであります。したがって、ロータリアンは、クラブ例会において、仲間の意見を聞けばいいのであります。

『昨日、歳暮として羊羹を貰ったが、これは賄賂だろうか』と聞いてみて、皆が『それは、社交儀礼のものだから賄賂にはならないよ』と言えば、それで、賄賂性は消えるのであります。これに反して、例えばロッキード事件のピーナツ一つ5億円、これは誰に聞いても『それは賄賂だ』と言うでしょう。これはロータリーの倫理運動の立場から見て完全に賄賂であります。したがって、心に疚しいことがなければ、堂々と公開できる筈であります。ロータリーは、そのところを見ているのであります。即ち、先ず第一に、ロータリアン自身が、その金品を受け取ることによって職業関係の公正さを害しないか否か、心に疚しいことがないか否か、を主観的に判断し、第二に、クラブ例会において、皆の意見を聞いて、客観的な社会倫理によって篩ふるいにかけるのであります。ロータリーは、この様にして、健全な取引社会の実現を目指しているのであります。



## 14) 職業奉仕論... 下請関係 5

賄賂を受け取ることに関しては、オナラリウム (Honorarium) の問題があります。これは、沿革的には中世ヨーロッパにおいて、神父が人々に対する限りなき愛情をもって、人々を救うために、何物も求めず、ただ只管に神の摂理を説いたことに対して、これを聞いた人達が感謝の気持ちをもって差し出す金品のことであります。中世ヨーロッパにおいて身分の保障された聖職者には、報酬請求権がありませんでしたから、このような金品を神父の方から請求することはできませんでしたが、人々が感謝の気持ちを込めてこれを差し出したときには、これを受け取ることができるというものでありました。人々の心の中には、ただ感謝の気持ちがあるばかりであって、これによって反対給付を求める意図は一切存在しないのであります。したがって、これは賄賂にはならないのであります。

この慣習は、現代社会においては、中世神学の分かれとしての医師、弁護士、大学教授その他のプロフェッション (Profession) と呼ばれる人達の分野に、僅かにその残影を見ることができると思うのであります。したがって、例えば、神様から与えられた客観原理をもって、只管患者の命を救うことをもって職業の第一義とする医師が、手術を無事に終えた後で、患者が感謝の気持ちを込めて何がしかの金品を差し出したときは、感謝の気持ちをもってこれを受け取るべきであり、これは賄賂にはならないと私は考えるのであります。

最後に、『教条主義』の問題があります。教条主義というのは、原則に拘束されることであります。例えば、この世の中には、賄賂を使わなければ生きて行けない業界があります。その業界にいる人が、ロータリーでは賄賂を禁止している、そして自分はロータリアンである、したがって、自分は賄賂を使わない、と言って、会社を倒産させてしまえば、身も蓋もありません。社員も家族も路頭に迷うことになります。これを教条主義というのであります。

ロータリーは、不可能を強いるものではありません。したがって、このような業界で生きて行かねばならないロータリアンは、賄賂を使えばいいのであります。

ただ、その場合に、堂々と賄賂を使うのでは困るのでありまして、賄賂を使わなければ生きて行けないこの業界は不健全で、あるから、何とかして、賄賂を使わないでも生きて行ける公正な自由競争社会・健全な業界を実現しようと努力しながら、しかも、自分の世代で実現できなければ、孫子の代までも申し送りながら、止むをえず使う賄賂でなければならないのであります。これがロータリアンの賄賂の使い方でありまして。

以上を要するに、下請関係では、共存共栄の原則が指導理念であり、これを前提として、二つの倫理原則、即ち、第一に利益の適性分配の原則、第二に賄賂禁止の原則を立てているのであります。

『下請なくして元請なく、元請なくして下請なし』即ち、元請も下請も皆がお互いに立って行けるような経済体制を組むべし、ということを行っているわけでありまして。

ただ、現実の職業社会では、これはあまり行われていないようであり、むしろ、搾取して乗っ取る方が横行しているようであります。したがって、これを実践すれば、光ること間違いなし、ということになるのであります。

## 15) ロータリー理解推進月間

先月はロータリー理解推進月間でありました。そもそもロータリーにロータリー理解推進月間などがあるというのは誠におかしい話であります。昔は、このような月間はなかったのであります。しかし、最近ではロータリーが理解できない、ロータリーの理解が足りないロータリアンが増えてきたので、このような月間が出来たようであります。

ところで、ロータリアンにとって一番大事なことは、自分が何故ロータリアンで居るのか、何故ロータリークラブに入っているのか、その理由を大悟徹底的に理解しておかなければならないことだと思えます。

この忙しいのに、何故毎週1回の例会に出なければならないのか。この不況の最中に、何故高い会費を払ってロータリアンでいるのか。この点が本当に理解できないと、ロータリアンであることの意味はないと思えます。ロータリークラブの会費は只払いになってしまいます。それどころか、運が悪いと倒産の憂き目に遭うだろうと思えます。

ロータリアンは、忙しいからこそ毎週1回の例会に出るのであります。暇だから例会に出るのではありません。忙しい人ほどロータリーが必要なのであります。それは何故かという、ロータリーは、寄付団体ではなく、倫理実践団体だからであります。

また、ロータリアンは、不況だからこそロータリー運動に参加しているのであります。不況なときほどロータリーが必要なのであります。何故かと言うと、ロータリー思想、は不況期に強い哲学であり、職業奉仕を實踐すれば、必ず自由競争社会を勝ち抜くことが出来るものだからであります。20世紀の初頭以来、その実践例は沢山あり、その知恵の集大成を職業奉仕と言っているのであります。

前回まで5回に亘って申し述べました下請関係の話も職業奉仕の一部なのであります。

その職業奉仕が解らないと言う人には、ロータリーは解らないと思えます。ところが、職業奉仕が解らないと言う人が最近増え続けているといいます。これは、クラブの教育機能が衰えたことも一つの原因ではありますが、より根本的には、ロータリーを学ぼうという意欲のないロータリアンが増えたということであろうかと思えます。これはロータリーの衰退を物語るものであり、誠に困ったことでもあります。何としても、一人でも多くのロータリアンがロータリーの真髓を理解し、職業奉仕を實踐して、皆が共に隆々と榮えて行くことを願うものであります。

## 16) 例会出席について

ロータリーの指導理念は、親睦と奉仕であります。地区大会も1Mも全て親睦と奉仕を指導理念として営まれます。ロータリーの例会も親睦と奉仕という形を採っています。即ち、例会時間の内、最初の30分は、食事をしながら親睦を暖める時間であり、後の30分は、奉仕に耳を傾ける時間即ち、卓話の時間です。したがって、例会の最初から最後まで在席して始めて例会に出席したことの意味があるのです。

ところが、近年、規定審議会で例会出席についての60%ルールなるものが出来たために、卓話の始まる前に退席するロータリアンが多いのであります。これでは親睦だけのロータリーになってしまっていて、奉仕に耳を傾ける時間がなくなってしまいます。これは60%ルールの本来の趣旨を誤解するものであります。60%ルールというのは、例会に出席した場合に、それが出席と認められるためには、例会時間の60%は在席していなければならないと言うだけのことであって、例会とは、本来、最初から最後まで100%在席するものなのであります。

ただ、例会中に急用ができて帰らなければならないような場合に、例会時間の60%を経過しておれば、途中退席してもよいと言うだけのことであって、60%在席すれば退席する権利がある、などと言うような筋合いのことではないのであります。

途中退席しなければならないことが初めから判っている場合には、例会に出るべきではありません。そのために出席率が100%にならなくてもよいのであります。途中退席をしながら出席率100%などと言うのは、全く意味がありません。

ホームクラブであれメイクアップであれ、例会中の急用や急病以外の理由で途中退席をすることは、ロータリアンとして誠に恥ずかしいことと知るべきであります。

殊に、卓話の始まる前に途中退席することは、50%しか在席していませんから、これは欠席であります。にも拘らず、何の恥じらいもなく、当然の如く途中退席をするロータリアンがいるのは誠に嘆かわしいことでもあります。

先般の阪神第1グループの1Mは『ロータリーの魅力を探ろう』というテーマでありました。ロータリーを魅力あるものとするためには、まず、ロータリアン自身がロータリーの基本的ルールを守ることから正して行かねばなりません。そうでなければ、ロータリーは形骸化し、衰退するほかないと思うのであります。

## 17) 出席に関する60%ルールについて

出席についての60%ルールが何故できたのか、について話しておきます。これは、昔、アメリカ辺りで行なわれていた「出席競争」のためのルールで、ありました。即ち、

国際ロータリーは昔、ロータリアンに出席の大切さを理解させるためには、ロータリアンに例会出席の競争をさせたらよいだろうと考えたのであります。ロータリアンが出席競争をしているうちに出席の大切さを理解するだろうというのでありますから、まさに馬の鼻先に人参をぶら下げて走らせるようなものであります。

この競争は、アメリカとカナダというように非常に広い地域を単位として行なわれ、国際ロータリーが行司の役を務めるのであります。日本は未だ、かつてこの競争に参加したことはありません。

ところで、競争でありますから、それはフェアでなければなりません。フェアネスの原理は、どこから来るかという、例えば、会員数100名のクラブで1名欠席すると出席率は1%減少しますが、50名のクラブで1名欠席すると2%減少して出席率は98%になります。25名のクラブでは4%減少して出席率96%になります。したがって、1名欠席したことの効果がクラブの会員数によって変わってきます。これは不合理だということで、国際ロータリーは、会員数によってグルーピングをしたのであります。例えば、会員数50名から75名のクラブ、会員数75名から100名のクラブというように、グループわけをして、その中で競争をさせたのであります。

そこで、出席の基準であります。例会に60分在席しでも出席、5分間しか在席しなくても出席、というのでは、どのクラブも、自分のクラブを優勝させたいために、1分しか在席しなくても出席として取り扱うおそれがあります。これではフェアな競争はできません。そこで、'恨みっこなしのルール'として、例会時間の60%在席すれば出席、それ未満であれば欠席としたのであります。したがって、これはロータリアン不信を前提としたルールであり、あくまでも競争のルールなのであります。毎週の例会は競争の場ではありません。自己研鑽の場、心を磨くところなのであります。競争をするために出席しているわけではありません。にも拘らず、競争の論理を自己研鑽の場に持ち込んで、それを事もあろうに定款上のルールとして採用してしまったところに問題があるのであります。これはロータリーの衰退以外の何者でもないと言わなければなりません。

## 18) 雑誌月間について

今月は雑誌月間であります。昔は、雑誌週間と言っていました。何故雑誌週間というものが出来たのかと言いますと、その由来は、1911年に遡ります。

1908年頃からシカゴクラブの中では親睦派と奉仕派に分かれて争いがありました。ポール・ハリスは、シカゴクラブは世のため人のためのクラブであるべきだとして奉仕を提唱し、自説を曲げませんでした。一方、大多数の会員達は、これに反対して親睦だけの仲良しクラブであるべきだと主張していたのであります。その結果、クラブの中が荒れてクラブが分裂するほどの危機に見舞われたのであります。

結局、この危機は、全米ロータリークラブ連合会が設立されることによって避けられ、ポール・ハリスがその初代会長に就任することになったのであります。ポール・ハリスは、会長に就任した時「私は、時々独裁者のごとく振舞い、多くのロータリアンにご迷惑をおかけした」と反省したのであります。それはどういう事かと言いますと、ポール・ハリスは、ロータリーにおける親睦と奉仕とを上下の関係においてとらえた事の誤りに気付きました。親睦と奉仕は表裏一体の関係にある。いずれを優位させてもいけない。ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿ると悟ったのであります。

ポール・ハリスは、この気持ちを全米のロータリアンに訴えるべく論文を書きました。名付けて「Rational Rotarianism」と言います。合理的な立場から考えると、ロータリーという思考は、どのような特徴を持っているのかと言うことを解説したものであります。

ただ当時は、まだ機関誌がなかったので、連合会の幹事であったチェスリー・ペリーに相談したところ、チェスは喜んで、彼が編集委員長になって、この論文を巻頭論文としてできあがったのが「The National Rotarian」。これがロータリーの公的機関誌創刊号発刊の物語であります。時に1911年1月26日のことでありました。

そこで、国際ロータリーは、その後、このことを記念して、1月26日を含む1週間を雑誌週間としたのであります。ところが、近年、この1月の雑誌週間が4月の雑誌月間になりました。国際ロータリーの事務局にその理由を尋ねたところ、単に事務上の都合だと言うことでありました。このようにして、ロータリー思想の根元を説いた物語が忘れられていくのは、誠に残念なことだと思っております。

## 19) ポール・ハリスのロータリー寛容論

前回は、雑誌週間について、その由来を話しましたが、その中でポール・ハリスの論文「Rational Rotarianism」即ち、ロータリーの思考というものは、合理的に考えると、どのような特徴を持った考えか、とすることを紹介しましたが、今日は、その論文に引用されているポール・ハリスの考え方の中核となっている部分を紹介しておきます。

ポール・ハリスは、1907年から、親睦団体であるクラブの中に奉仕の概念を入れようとしてきました。この時のポール・ハリスの考え方は、「はじめに親睦ありき」その上に、高次の概念としての奉仕が出てきたのであるから、奉仕が高次の概念である以上は、それが親睦と相容れない場合には、親睦を抑えて奉仕が生きるべきだ、という立場をとりました。

その結果、当然のことながら、クラブ親睦が崩壊してしまったのであります。そこでポール・ハリスは、ロータリーにおける親睦と奉仕とを上下の関係において捉えたことの誤りに気付いた訳であります。即ち、

親睦と奉仕とを等位の概念として捉えるべきであった。この両者は、ロータリーという社会制度において、表裏一体の関係にある。いずれを優位させてもいけない。ロータリーは、親睦と奉仕の調和の中に宿る、と彼は悟ったのであります。

このことを論文に書いたのが「Rational Rotarianism」であります。彼はこの論文の中で次のように言っています。

「神様の思し召しにより、一段と高いところに登ることを許され、ロータリーとは何かと問われれば、自分は躊躇することなく、寛容(toleration) と答えるであろう」

彼は、ロータリーは、親睦と奉仕の調和の中に宿る、と説いたのであります。即ち、「ロータリーとは寛容である。親睦も大切だが、奉仕も大切。奉仕も大切だが、親睦も大切。したがって、ロータリアンは寛容な心を持つことが大切である。自分の考え方を相手に押しつけではない。ロータリーは、このような思考の世界の中にある。」これが、ポール・ハリスのロータリー論でありました。

このようにして、ロータリーが、その思考の体系として、その外延(外堀)を確立したのは、1910年にポール・ハリスが「ロータリーは寛容の中に宿る」と自覚した時であります。したがって、1910年までは、無反省的な、無意識的な原理の開発に過ぎなかったわけであります。

ロータリー寛容論を自覚したときに、ロータリーの意識的な体系的思考の外延(外堀)が完成するに至ったと言えるのであります。したがって、思想史的な視点から見ると、ロータリー思想、の原点が据えられたのは、1905年ではなくて、1910年のことであり、それまでは、意識下の無反省的な試行錯誤の期間であったと言わなければならない訳であります。

## 20) 職業奉仕の概念について

最近、職業奉仕は難しいとか、職業奉仕は解らないと言うことをよく耳に致します。

元来、職業奉仕という言葉は、ロータリーの専門用語でありまして、世の中の人は、このような言葉は使っていません。辞書を引いても、このような言葉は載っていません。

ナポレオンは、「余の辞書には不可能と言う文字はない」と豪語していましたが、職業奉仕と言う文字も彼の辞書にはなかったはずであります。

考えてみると、これは大変奇妙な言葉であります。何故なら、職業というのは、私達が生きていくための所得を獲得する手段、利潤追求の手段であります。即ち、これは、自分のためのものであります。一方、職業奉仕の奉仕とは、世のため人のためのことを考えること、即ち、自分以外の人のことを考えることであり、これは他人のためのものであります。このように、エネルギーの方向が全く正反対の、職業という言葉と奉仕という言葉合体させて「職業奉仕」と言っているのでありますから、言葉自体大変奇妙な感じを受けるのであります。したがって、解りにくいのも無理はないのであります。

そこで、色々と誤解が出てくる訳であります。例えば、職業奉仕とは、職業を通じて社会に奉仕することである、と言う理解の仕方がありますが、これも誤解を招くものであります。例えば、弁護士が無料法律相談をしますと、これは自分の職業を通じて社会に奉仕しているのだから職業奉仕である、と理解するのでありますが、これは間違いであります。これは、直接、社会に奉仕しているのでありますから社会奉仕であります。

では、社会奉仕と職業奉仕とを分かつメルクマールは一体何かと言いますと、一言で言えば受益者は誰か、と言うことであります。即ち、ロータリアン以外の人が受益者になる場合が、社会奉仕であり、ロータリアン自身が受益者になる場合を職業奉仕というのであります。したがって、例えば、優良従業員の表彰は、職業奉仕と考えられ、一般に職業奉仕委員会の管轄になっていますが、表彰されて受益するのは、優良従業員即ち、ロータリアン以外の人でありますから、これは社会奉仕であります。

ただ、職業奉仕の要素が全然ないことはないものであって、表彰された従業員を見て、他の従業員が発奮して、皆が一生懸命に仕事をするようになり、その結果、会社の業績が上がれば、社長であるロータリアンも受益することになりますから、職業奉仕的な要素も少しはあります。したがって、優良従業員の表彰は、井勘定で言えば、社会奉仕70%、職業奉仕30%と言うことになり、両方の要素をもっているということになるのであります。

以上を要するに、ロータリーの概念というものは、職業奉仕でないものは社会奉仕、社会奉仕でないものは職業奉仕、と言うようにクリヤーカットに割り切れないものなのであります。なお、優良従業員の表彰は、社会奉仕委員会が行なわなければならないものではなく、職業奉仕委員会が行っても、会長が行ってもよいのであります。

## 21) ニコニコ箱について(1)

先般、春の叙勲がありましたので、おめでたいことに因んで、ニコニコ箱についての話をします。

まず、ニコニコ箱と言うのは、ロータリーでは、世界的な慣例ではありません。日本にはありますが、世界中どこの国にもあると言うものではないのであります。

日本で、ニコニコ箱の慣例が出来たのは、昭和10年のことであります。関東大震災の被災孤児達を東京ロータリーホームと言う孤児院で世話をしていましたが、東京ロータリークラブの人達が、昭和10年に当時オープンした多摩川園という遊園地に孤児達をつれて行ってやろうということになりました。

ところが、さてその金はどうしようかと言うことになりました。クラブの会員達は、お金持ではありませんが、クラブ自体には金はありません。

そこで、日本橋の羅紗問屋と村伝助商店の筆頭番頭であった関幸重という人が一計を案じ、あり合わせのボール箱をもって、『あなたの誕生日ですよ』とか『お嬢さんが結婚されたでしょう』とか色々なことを軽妙酒脱に面白く話しながら、例会場を回ったのであります。会員達が皆笑いながら財布の紐を解いたと言います。

当時、大学卒の初任給が60円くらいの時代に600円の金があつまったといえますから、流石は東京ロータリークラブであります。これで孤児達を多摩川園に連れて行くことが出来たのであります。

それからは、関さんが、何かことあるごとにその箱を持って回ったのでありますが、あまり汚い箱では具合が悪いだろう、皆がニコニコして金を出してくれるからと言うので、三越に注文して、えびす様の顔を彫った箱を誂えました。これがニコニコ箱の起こりであります。

いずれにしても、戦前のロータリアン達は、金を集めるにしても色々考えてユーモラスにやったのでありますが、今日のロータリーには、このユーモアがやや之しいとも思われるのであります。

なお、東京ロータリークラブのこの慣例に対して、大阪ロータリークラブは昭和5年だから東京よりも早いという説があります。

しかし、大阪ロータリークラブの場合は、遅刻等の時にSAAがなにがしかの金銭を強制的に取り立てる罰金箱であって、ニコニコ箱とはその趣旨が異なるのであります。

ニコニコ箱は、あくまでも、何か喜び事があつたときに、会員達がそれを記念して、社会奉仕の浄財をクラブに寄託するものであって、罰金箱のように人を責める形で金を集めるものではありません。罰金という恨み辛みの籠もった金を社会奉仕に使うことはロータリーの趣旨に合わないのであります。したがって、当クラブでは、罰金箱は『すまんボックス』として、ニコニコ箱とは区別しているのであります。



## 22) ニコニコ箱について(2)

前回と異なり、今日は、ニコニコ箱についての原理的な話をしておきます。

ニコニコ箱には、寄付金の原則が支配します。即ち、『金を出したい人が、出したい時に、出したい金額だけ出す』そして『出した人必ずしも尊からず、出さざる人必ずしも卑しからず』これが寄付金の原則であります。したがって、強制的要素の一切ないものをニコニコ箱というのであります。

このようにニコニコ箱というものは、何か嬉しい事があったときに、それを記念して、ニコニコ笑って、なにがしかの浄財を入れるものであって、罰金的要素のないものを言うのであります。したがって、これは一つの信託財産であって、クラブが何かの社会奉仕活動をするためのために、この善き因縁のお金でその仕事をしてくださいよ、と言う形で、予めクラブ理事会に預けておくお金でありますから、クラブの通常会計が赤字になったからと言って、この金をクラブの赤字補填に使うことは出来ない所以であります。

この場合は、クラブの会費を値上げするほかありません。何故なら、社会奉仕のためのニコニコ箱をクラブの赤字補填に使えば、ロータリアンが社会奉仕財源をピンハネしたことになるからであります。

これに対して、当クラブの『すまんボックス』のように罰金箱であれば、クラブの赤字補填に使うことが出来るのであります。何故なら、罰金箱は、原理的には、恨み辛みの籠もった金でありますから、本来、社会奉仕に使うべきではないからであります。

要するに、お金を出した人の気持を尊重してクラブ理事会がこれを預かる、即ち、基本的には預かり金であって、クラブの財源ではないのであります。

このように、ニコニコ箱は、何時入って来るか判らない、いわば不時の収入でありますから、予算を立てることが出来ません。したがって、事業計画も立てられません。

したがって、ニコニコ箱の金は、当該会計年度に使ってはならないのであります。

ニコニコ箱の管理方法は、6月30日でめて、そのめた金を次の年度の事業予算科目に載せるのであります。このように、ニコニコ財源の支出方法だけは、会計年度が1年遅れになってくるのであります。

もし、当該会計年度に使うものとして予算を立てると、5月頃になって、ニコニコ財源が予算額に満たないと、『今年度の予算額(目標額)には未だ大分不足していますので御協力を御願ひします』と言って、例会でテーブルにニコニコ箱を回すようなことになります。これは強制になり、ロータリーの面目を汚すものであります。いささかなりとも強制にわたることがあってはならないのがニコニコ箱なのであります。

なお、他のクラブの状況を見ましても、例えば米山ボックスなど、ニコニコ箱以外の募金がクラブ内部で絶えず行われているクラブは、割合に雰囲気明るくて、大変活気にあふれているものであります。

## 23) ロータリアンのマナーについて

ロータリアンの基本的なマナーの一つに「約束を守る」ということがあります。昔、昭和6年の日本の2代目ガバナー井坂孝さんが、日本全国を管轄する国際ロータリー第70地区ガバナーに就任するに当たり、ガバナー月信第1号において、ロータリアンが遵守すべき3ヶ条を宣言しました。その第一条が、ロータリアンたる者は約束を守るべし、というのであります。約束を守るということは、ロータリアンは皆職業人でありますから、契約を守るべし、ということでもあります。したがって、これはロータリアンに対して契約的正義の実現を説いたものであります。

この約束を守るということの中には、当然時間を守るということが含まれているのであります。時間は万人の共有物でありまして、時間に遅れるということは、相手に迷惑をかけることになりますから、遅刻は、ロータリアンとして最大の恥なのであります。

このために、ロータリーでは、昔から時間を守るということを喧しく言うのであります。遅刻することが予め判っている場合には、遅れることを相手に伝えておくべきであり、更に、例えば、会議に1時間も遅れるようなときには、むしろ欠席すべきであります。

これが、相手に対する思いやりであります。何故なら、1時間も遅刻するとそれまでの会議の進行状況が全く解りませんし、また、遅刻者のためにそれまでの会議の内容を説明することもできないからであります。

昔、帝国海軍では、定刻5分前主義が採られていました。正確には、定刻15分前には皆が集合し、5分前には全ての準備が完了していることを意味しました。

パストガバナーの会合では、定刻30分前には皆が揃っていることも時々あります。これは、年をとると気が早くなるのか、或いは、時間に余裕ができるのか、兎に角、これは大変結構なことでもあります。

ところが、中には遅刻することを誇りに思っている不心得者がいます。日本の或るパストガバナーは、ロータリーを上意下達の上下関係でとらえているため、俺は偉いんだ、という意識があるらしく、諮問委員会その他あらゆるロータリーの会合には必ず遅刻するのであります。たまたま早く現地へ来ていても、遅刻するまでは会合の場に入らないのであります。このような人がパストガバナーの中にいることは、誠に恥ずかしいことであり、ロータリーも墮落したとの感を深くするのであります。

昔、西宮ロータリークラブの八馬啓さんが当クラブにメイクアップに来られて1分遅刻された時、『1分遅れたから今日はメイクアップにしないで下さい。しかし、折角来たのだから皆さんと楽しく食事をして帰ります』と言って、ヴィジターフィーを払って、最後まで例会を楽しんで帰られたことがありました。時間を守るということについて、自らを規律する事きわめて厳しい、この態度をロータリアンたるものは忘れてはならないと思うのであります。

## 24) S. A. Aについて

S. A. Aというのは、Sergeant At Armsの略語であって、日本では、会場監督と訳されています。これは、中世イギリスの宮廷の官職であって、今日の言葉で言えば、皇宮警察の署長に当たるのであります。当時、この役職は、宮内大臣権限をもっていましたから、中世の宮廷における最高の権力者の一人でありました。

S. A. Aは、宮廷内の催し物、例えば、会議、宴会等が計画され、実施される時に、その会議の目的を遂げるがために、会議の秩序を維持する最高の責任者のことでもあります。

催し物は、特定の時に、特定の場所に、特定の人達が集まります。皆一国一城の主であり、しかも生身の人間でありますから、会議の途中で何が起こるか判りません。S. A. Aは、そのような突発的な事態に速やかに対応しなければなりませんから、プログラムを企画立案する理事会に席を持つことは望ましくないのであります。理事会で予断を持っていると動きづらいことがあります。したがって、S. A. Aは、原理的には、理事を兼ねてはならないのであり、ある意味では、S. A. Aは、速戦即決の単独決議機関であります。

このように、S. A. Aは、その責任が重く、その地位高きが故に、理事会の決定に参加している暇はないのでありまして、自分が予備的に独断で決定することができます。

まず第一に、S. A. Aは、例会の時間配分について監督する権限があります。会長の挨拶が長引いた場合、会長に発言中止を命令できるのはS. A. Aだけであります。

第二に、元来、S. A. Aは、例会中の途中退席を禁止する権限が与えられています。

即ち、病気その他特殊の事情によって途中退席する人は、S. A. Aの許可を得なければなりません。途中退席にS. A. Aの許可を求めるのが紳士のマナーに叶うのであります。

ただ、最近では、例会出席の60%ルールを誤解して、例会時間の60%在席すれば、途中退席する権利がある、などと考える人が多いようですが、これは大変な誤解でありまして、60%ルールは、あくまでも、病気その他特殊の事情のある人が、途中退席したときに出席と認められるための最低の条件にすぎないのでありまして、途中退席の権利を認めたものではありません。

本来、ロータリークラブは、社交クラブでありますから、クラブに出る出ないは会員の自由であります。だとすれば、途中退席も自由なはずで、あります。したがって、会長が例会場に鍵をかけて、皆が退席できないようにすると、不法監禁罪になります。

ところが、S. A. Aが鍵をかけると不法監禁罪にはなりません。何故かというと、刑法第35条、『正当な業務による行為はこれを罰せず』 S. A. Aが、鍵をかけることは、現場の秩序を維持するための正当な業務行為であると考えられるからであります。これはS. A. Aだけに認められた権限なのであります。

このようにS. A. Aの職務は大変重要でありますから、S. A. Aには、会長、幹事の経験者が就任するのが通例であります。

## 25) ロータリーの役員について(1)

ロータリーの役員としては、会長、幹事、S. A. A. 会計があります。これがロータリーという自治団体を管理する役職であります。

まず、会長は何をする役職か、というと、これは、日本国憲法の組織原理から言うと天皇に当たります。即ちロータリーの象徴であります。それは、帝王学の権化であり、ロータリー存在の権化であります。したがって、会長は、執行権限は何一つ持っていません。持っていないからこそロータリーが光るのであります。実権は、内閣総理大臣に当たるクラブや幹事がすべて握っています。

会長は、クラブ幹事と共にクラブの代表権者であります。会長の代表権と言ってもそれは法律の意味での代表権ではありません。株式会社の代表取締役とは違います。

1. 例えば、ガバナー月信の名宛人になる場合(会長並びに幹事殿)のように、国際ロータリーの窓口になる場合には、会長に代表権があります。しかし、これは、法律の意味での代表権の実体はありません。
2. また、会長が他のクラブとお付き合いをする場合がありますが、会長は何も決定権を持っていないのでありますから、事実上代表者として振る舞う資格があると行ってよいと思います。しかし、これも、法律の意味での代表権ではありません。
3. また、団体的な社会奉仕を実施する段階で、地域社会に対して、私がこのロータリークラブの会長であります、ということで代表権らしきものを行使できる場合があります。しかし、これも細かく分析していくと、法律には代表権といえるものではありません。

以上を要するに、実務的な意味における代表権は、クラブの幹事が握っているのでありまして、会長には法律の意味での代表権はないと言ってよいと思います。

では、会長は、何をすべきかと言いますと、例会でアドバルーンを上げて、皆にやる気を起こさせることであります。そして、クラブ管理の事務的な細かいことについての質問がきた場合には、幹事に任せればよいのであります。

会長は、クラブ管理の全てのことを知って、しかも知らない顔をしていなければなりません。会長が、何でも知ったか振りをしたら、クラブは育たないのであります。会長職を務めるには、このようなマナーが必要であります。逆に、幹事は、こと手続きに関しては知らないことでも知った顔をしていなければならないのであります。

また、会長は、理事会の議長であります。したがって、理事会の多数決によって拘束されます。これは、会長にリーダーシップがないというのではなく、建前上、会長というものは、議長としての役割しか果たさないということでもあります。要するに、会長は、クラブのシャッポのようなものであります。即ち、帝王学の実践者であり、ロータリー存在の根拠を主張する役職なのであります。

## 26) ロータリーの役員について(2)

会長と共に重要なロータリーの役員としてクラブ幹事があります。幹事は、会長と共にロータリークラブの代表権者であります。そのことは、会員の身分証明書をみれば明らかなように、会員身分を証明する権限は、幹事が持っているのであります。

幹事は、クラブ内外の情報を一身にプールしていますから、クラブ管理の実務の代表者であり、クラブの中心人物であります。したがって、あらゆる情報は、全て幹事を経由することになっているのであります。このように、幹事は、クラブ管理の大黒柱でありますから、こと手続に関しては、知らないことでも知った顔をしていなければならないのであります。これは大事なところであります。

元来、ロータリーには、団結力がありません。あるものは、一人一人の良質な主体性であります。ポール・ハリスも言っているように、ロータリーの長所は、団結力のないところであります。心の団結はありますが、行動の団結、外形の団結のないのがロータリーであります。したがって、ロータリークラブは、組織体として非常に弱いのであります。そこで、その弱さをカバーするために幹事に対しては強大なクラブ管理の権限を与えているのであります。比喩的に言えば、幹事は、ヒットラーの10倍の独裁権を持っていなければ、クラブという組織を永続的に維持することができないのであります。

この故に、幹事は、毎年交替の原則に服さないのであります。例えば、1910年創立のフィラデルフィアロータリークラブは、50年間、同一人物が幹事職を務めていたのであります。日本でも、昔の大阪ロータリークラブの露口四郎さんは、幹事歴任13年であり、東京ロータリークラブの小林雅一さんは、幹事歴任11年でありました。

なお、クラブ管理の独裁権と表裏一体の関係として、肝に銘じておかなければならないことは、幹事は常に謙虚で、なければならぬということであり、これなくしては独裁権は宙に浮いてしまうのであります。と同時に、現実のクラブの管理運営に当たっては、幹事には、達磨大師の10倍の忍耐力が必要となります。何故なら、ロータリークラブは、本質的に社交クラブであり、一人一人が主体性を持った勝手気儘な人間の集まりでありますから、これを纏めていくには非常な忍耐力が必要だからであります。

また、幹事は、会長と一体でなければなりません。私は、これを会長幹事一体の原則と呼んでいます。人間の社会というものは仕様がなないので、幹事の悪口は必ず会長のところへいきます。その場合、会長は、相手の言うことが正しいと思っても、絶対に幹事を守らなければなりません。それを、君の言うとおりの幹事は駄目だからやめさせよう、などと言ったら、クラブは滅茶苦茶になってしまいます。

同様に、会長の悪口が幹事の所へ来たときは、幹事が会長を守らなければなりません。これは、マナーとして心得ておくべきことであります。このように、会長幹事がお互いに守り合うことによって、クラブというものは円滑に機能するのであります。

## 27) ロータリーにおける平等・対等の理念について

福沢諭吉先生の言葉に、『神は、人の上に人を作らず、人の下に人を作らず』という言葉があります。それと同じように、ロータリーは、ロータリアンの上にロータリアンを作らず、ロータリアンの下にロータリアンを作らず、と言うことが言えると思うのであります。このように、ロータリアンの世界は、完全に平等・対等の世界であります。したがって、クラブ会長と一般会員との関係も平等・対等、会長と幹事の関係も、クラブ理事と一般会員との関係も全て平等・対等であります。昨日入会した新入会員と25年在籍のバスターの関係も平等・対等であります。

では、会長・幹事と地区ガバナーとはどのような関係にあるのかと言いますと、会長・幹事は、ロータリークラブという自治団体の代表者であり、ガバナーは、国際ロータリーという自治団体の代表者でありますから、お互いに平等・対等であります。国際ロータリーの方がロータリークラブより地位が高いではありません。したがって、ガバナーの方が会長・幹事より偉いのもありません。ある地方に行きますと、ガバナーを天皇陛下のように思っている人がいますが、とんでもない間違いであります。

では、国際ロータリーの役員である地区ガバナーと一般会員とは、どのような関係にあるのかと言いますと、直接的には何らの関係もありません。国際ロータリーの会員は、全世界のロータリークラブであって、個々のロータリアン(一般会員)は、国際ロータリーの会員ではないからであります。強いてどのような関係にあるかと言え、ガバナーも一般会員もロータリアンとして平等・対等であります。この理は、国際ロータリーの会長と一般会員との関係でも同じであります。全て平等・対等であります。

また、ガバナーと地区委員との関係、地区委員と一般会員との関係も全て平等・対等であります。

このように、全てのロータリアンは、平等・対等ですが、ただ一つ注意すべきことは『親しき仲にも礼儀あり』年長者に対する礼を失しではなりません。

以上を要するに、ロータリーの世界は、完全平等対等の横型社会であって、いささかなりとも縦型思考が入ってはならない世界なのであります。したがって、このような視点から見ると、ロータリアンを表彰するという制度はロータリー的ではないと思うのであります。平等対等なロータリーの世界であって、ロータリアン同士が表彰し合ったり、褒め合ったりすることは、『下手な芝居は楽屋で褒める』というように、大変見苦しいものであります。また、いかに社会的に地位が高くても、ロータリーの世界では平等・対等で、あります。或る会員に栄誉を与えたり、特別視したりすることは、世俗の論理でありまして、ロータリーの為すべきことではありません。心すべきことであります。

最後に、『純ちゃんのコーナー』を終えるに当たって、ロータリーにとって最も重要なロータリーの完全平等対等の理念を説いてまとめの言葉といたしました。この一年間、本当にご静聴ありがとうございました。

## 28) 東京ロータリークラブ

過去に無知なる者は未来が見えない、と言われるように、過去の歴史を学ぶことは、ロータリアンの素養として大切なことでもあります。そこで、今日から暫らくの間、日本ロータリーの歴史を振り返ってみたいと思います。

まず、日本におけるクラブナンバーワン・東京ロータリークラブは、大正9年10月20日、東京丸ノ内の銀行クラブという古色蒼然、たる建物で実力百万石の超一流の実業家24名によって創立されたのであります。初代会長は米山梅吉、初代幹事は福島喜三次でありました。人格的にも立派な大実業家ばかりの集まりでありましたが、ロータリーのことはよく判っていませんでした。俺のお陰でロータリーがあるという考え方でありましたから、月一回の例会も碌に集まりません。例会は毎月一回、第二水曜日でありましたが、年末年始は休会にしたりして、真面目にロータリー活動をしていなかったのであります。言わば、初代会長の米山さんは、クラブ維持のために妥協を強いられたと言えます。したがって、ルールと親睦が対立した時はルールの方を捨てたのであります。

しかし、米山さんは、後になってクラブが潰れなくなってからはルール厳守を要求するようになりました。このことが亦、一部から反感を買うことにもなったのであります。このような東京クラブに電撃的なショックを与えたのが大正12年9月1日の関東大震災でありました。当時日本には、東京クラブと大阪クラブしかなかったのであります。時のRI事務総長チェスレー・ペリーは、直ちに25,000\$の大金を義援金として東京クラブに送ってきたのであります。これが差水になって、世界中の503クラブから、この25,000\$を含めて総計89,000\$の義援金が送られてきたのであります。

これを見て、腰を抜かすほど驚いたのが米山さんはじめ日本のロータリアンでありました。今までロータリーなど大した組織ではないと馬鹿にしていたが、これは大変な組織だということで、それから謙虚にロータリーの奉仕を学ぶようになったのであります。

そしてそれまで、東京ロータリークラブは、特権保有クラブ(1245RC)として、毎週一回の例会の開催を義務付けられてはいませんでしたが、それからは、この特権を放棄して、毎週一回必ず例会を聞き、奉仕に耳を傾けるようになったのであります。時に、大正13年11月14日のことでありました。

## 29) 日本ロータリーの創立者米山梅吉

前回は、東京ロータリークラブが例会は毎月一回、第二水曜日であり、年末年始は休会にしたりして、真面目にロータリー活動をしていなかったと言う事を申し述べました。

そこで、このような状況をとらえて『東京ロータリークラブ50年の歩み』という本の中には、米山梅吉が日本ロータリーの創立者であることを留保すると述べています。即ち「日本のロータリアンは、米山梅吉を日本ロータリーの創立者であると考えられる傾向があるが、この点については数々の疑わしい事実がある。第1に、東京クラブは、毎月1回しか例会を聞いていない。第2に、東京クラブは、年末年始の例会を休会にしている。この二つの事実は、ロータリーの基本原則に違反している。第3に、東京クラブは、米山梅吉一人で創立したものではない。福島喜三次とWilliam L. Johnstonの3人で創立したものである」と言うのであります。

しかし、第1の論点については、全世界のロータリークラブが毎週I回の例会を聞くことを法的に義務付けられたのは、1922年6月5日以降、標準クラブ定款の採択によるものであります。ところが、東京クラブは、1920年10月20日の創立でありますからこの拘束を受けないのであります。いわゆる特権保有クラブでありましたから、クラブの運用については自由闊達に決めることが出来たのであります。

このように考えれば、第2の論点の年末年始の例会の休会についても、目くじらを立てる程のことはないのであります。次に、第3の論点、即ち、3人で創立した点については、まさにその通りであります。しかし、歴史と言うものは実質的に見なければなりません。

米山さんは、東京ロータリークラブ初代会長2期連続。日本に地区の出来る前の準地区時代の初代 Special Commissioner 2期連続。日本の初代ガバナー3期連続。日満ロータリークラブ連合会会長2期連続。そして、大正15年無地区時代に1年間RI理事。

このように、日本の戦前のロータリー運動の中でこれほどロータリーの支柱となって指導性を発揮したロータリアンは米山さんを措いてほかに居ないのであります。

このような実質的な判断に基づいて米山さんを日本ロータリーの始祖、東京クラブの創立者と考えることは一向に差し支えないと言えるのであります。

## 30) 米山梅吉と福島喜三次

前回は、東京ロータリークラブは、現象的には米山梅吉、William L. Johnstonそして福島喜三次の3人で創立されたものであること、しかし、歴史の実体面から見る限り、米山梅吉一人を日本ロータリーの始祖、東京クラブの創立者であると考えられるべきであると申しました。米山さんは、前回申し述べたロータリーに対する貢献以外に奉仕の実践についても、自己犠牲の奉仕の世界に生きた人であり、湯水の如く入ってくる収入を全て世のため人のために使ってしまったのであります。日本のロータリーの歴史上、過去、現在、未来を見て、これくらいロータリーのために貢献したロータリアンは、今後おそらく現れることはないだろうと思われるのであります。

では、William L. Johnstonは、その後どうしたのかと言いますと、彼は外国人でありますから、東京クラブには入会せずにアメリカへ帰りましたが、東京クラブは、その後、彼を終生名誉会員としてその徳を称えているのであります。

次に、福島喜三次さんは、その後どうなったのかと言いますと、東京クラブは、彼には非常に冷たかったのであります。その原因は、むしろ福島さんの方にありました。福島さんは昭和11年に上海支店長



から左遷により東京へ戻り、東京クラブにパストサービスメンバーとして入会しましたが、福島さんは、その頃から国粋主義者になり、軍国主義的に思想が変わり、ロータリー運動に対して否定的になったのであります。

当時、ロータリーが軍閥から弾圧されている最中であって、福島さんは、『ロータリー運動のような全世界を友愛の心で結ぶなどということは甘い考えである。ロータリーなど無くてもよい。ただ、自分は、過去の因縁があってロータリーと縁が切れないだけである。日本は神の国だから戦争には必ず勝つ』と信じて疑わなかったのであります。

これに反して米山さんは、国際主義的であり、ロータリー運動を守ろうとしましたが、福島さんは、国粋主義的であり、ロータリーを否定したのであります。

この様に、両者は、ロータリー運動に対する功德の量が圧倒的に違うのであります。このことを東京のロータリアンは知っていたが故に、有田クラブが作った福島奨学基金と米山記念奨学会との合流を頑としてはね付けたのであります。したがって、米山梅吉と福島喜三次の二人を同時に日本ロータリーの始祖と考えることは、歴史の実体面から見て正当化されないものであります。

### 31) 東京ロータリークラブ創立の物語

前回は、日本ロータリーの始祖は米山梅吉さん一人であり、米山梅吉と福島喜三次の二人を同時に始祖と考えることは、歴史の実体面から見て正当化されないと話しました。ところで、1915年当時、三井物産としては、アメリカの市場を大変重視して、アメリカに3名のエリート社員を配属し、これらの社員は本社の決済を得ないで取引が出来る権限を与えられて居たのであります。実は、その一人が福島さんでありました。

ところが、福島さんは、第1次世界大戦が1918年に突如として終結したために、商品の買い付けに見込み違いが起り、三井物産に対して莫大な損害を与えてしまいました。そこで、当然の事ながら左遷の問題が起り、東京の本社は、1919年12月、福島さんに対して召喚命令を出したのであります。

その結果、福島さんは、ダラスクラブを退会することになり、その送別会の時に、時の会長が、福島さんに対して、東京にロータリークラブを設立してはどうかと持ち掛けたのであります。福島さんは、大変当惑しましたが、結局承諾することになりました。ダラスの会長は大変喜んで、ガバナーを経由してRI理事会に伺書を出しております。その結果、1920年6月30日までに東京にロータリークラブを設立することの全権委任(今日の特別代表の権限)が福島さんに与えられたのであります。

福島さんは、1920年1月頃日本へ帰り、早速、作業に取り掛かろうとしましたが、ダラスでは東洋綿花の社長でありましたが、東京へ帰れば社長ではありません。兵隊の位で言えば陸軍中尉位のものでありますから自分の力では何ともならない訳であります。そこで、これは、大物の実業家に頼むほかないと考へて、米山さんに頼み込んだのであります。しかし、米山さんは、ロータリーの事がよく判っていなかったために、設立の作業は遅々として進みませんでした。そこで、福島さんは、RIに対して、期限延長の願書を出しました。これを見てRIは不安を感じて、期限延長を認める代わりに条件を提示してきました。それは、ロータリーの手続きに通暁しているWilliam L. Johnstonを共同特別代表とするならば期限延長を認めるというものであります。そこで、主だった人選については米山さん、RIの手続きについてはJohnston。その他の雑務については、福島さん。この様にして、1920年10月20日東京丸の内の銀行クラブにおいて、東京ロータリークラブが創立されるに至るのであります。

### 32) 日本人ロータリアン第一号福島喜三次

東京ロータリークラブは、米山梅吉、William L. Johnstonそして福島喜三次の三人で創立されたものであります。そこで、今日は、福島喜三次のことについて話します。

大正の初め頃(年月は判りません)アメリカのテキサス州ダラスに三井物産の子会社で東洋綿花株式会社という会社がありました。この東洋綿花の社長として、三井物産の若手のエリート社員が出向していて、その人が福島喜三次でありました。

福島さんが東洋綿花に出向したところ、その会社の役員にWilliamというドイツ人が居て、これがダラスロータリークラブの会員でありましたので、新任の福島さんをダラスクラブに連れていったところ、福島さんが興味を持ったので、ダラスクラブに入会させたのであります。この様にして、福島さんは日本人ロータリアン第1号であります。

ところで、社長の福島さんとWilliamとは職業分類が同一でありますから入会できない筈であります。一業一会員制には、1915年以降、Additional memberの制度が出来ており、同一職場における共同経営者を一人だけ入会させることができるようになっていました。したがって、福島さんは、この原則の適用によって、ダラスクラブに入会出来たのであります。したがって、福島さんは、日本人ロータリアン第1号であると同時に、日本人ロータリアンAdditional member 第1号でもあったわけであります。

この様に考えると、福島さんが、ダラスクラブに入会したのは、1915年(大正4年)以降、大正4年、5年の事ではなかろうかと推察できるのであります。

ところで、1917年にアメリカが第一次世界大戦に参戦したために、Williamは敵国人としてアメリカ国内で営業活動ができなくなり、ドイツへ帰るためにダラスクラブを退会しました。そこで、ダラスクラブは、1917年Williamの後任として、福島さんを正会員に選出しました。これは日本人ロータリアン正会員第1号であります。更に、福島さんには不思議な因縁があり、彼は、昭和11年に三井物産の上海支店長を左遷によって本社に召喚せられ、三井合名の理事に任命されたのであります。その時に東京クラブに入会した資格がPast service memberでありました。これは、日本人ロータリアンPast service member第1号でもあります。したがって、福島さんは、ロータリアンの会員資格四種類の内、正会員、Additional、Past service、の三つの資格の日本人ロータリアン第1号を独占することになったわけであります。

国際ロータリー第 2650 地区  
会長スピーチ集  
2016 年 2 月編集